ISSN 0919-1259

第 27 号

教育・保育論集

福島にある大学の役割と学生作品展「あそびの世界から 2023」の開催、保育者の役割ってなあに、保育士養成課程の授業「保育内容指導法ー環境ー」および「こども（幼児）と環境」における認定こども園児の参加行事の体験学習、学生の保育を評価する力の向上を目指した授業実践、近隣小学校における「絵本読み聞かせ体験」、ブックレビュー、保育者にとって子どもの運動遊びとは、生成 AI 事始め、音楽教育に色音符を導入にする効果に関する一考察、シリーズ福島の文化を知る　その３ 「赤べこ」と柳津の虚空蔵さま

©2022 Masanori Furuhata.

福　島　学　院　大　学

2024

第27号

教育・保育論集

福島学院大学

教育・保育論集第 27 号の発行によせて

福島学院大学学長
桜　田　葉　子

福島復興再生特別措置法に基づき、国が世界に冠たる創造的復興の中核拠点として設置した「国際教育研究機構（エフレイ）」の公募研究に、国内の私立大学として唯一、本学が採択されました。

令和５年度「原子力災害からの復興に向けた課題の解決に資する施策立案研究」に、医学、自然科学、社会科学の分野横断的視点に基づく研究として、内山副学長の「福島県浜通りの子どものメンタルヘルス支援」が採択されたのです。

原発事故の前から､そして原発事故後も継続して、浜通りのこどもたちの心の支援を続けてきた内山副学長しか持っていないデータをもとに、原発事故前後のこどもたちの心の変化をたどることができるということが、貴重な研究課題として認められたのだと理解しております。

令和３年に駅前キャンパスに開設された「ふくしま子どもの心のケアセンター」の活動への参画とともに、福島県にある大学として国際研究教育機構の事業に参画することは、本学の未来につながる出来事です。

学生を指導する先生方が積極的に研究を重ね、その知見を学生に還元することは、教育の質の向上につながるとともに、人材を育成する事によって結果として地域社会への研究成果の還元にもつながっていきます。

令和３年２月に中央教育審議会大学分科会から出された「教育と研究を両輪とする高等教育の在り方」において、研究力の向上を教育力向上へつなげていくことが示されました。研究の成果を教育や社会貢献につなげる、「研究」「教育」「社会貢献」の三位一体の取り組みが大学に求められています。

そのような中、教育・保育論集第２７号が発行されました。研究成果の発信が、本学の教育の質的向上に寄与するとともに、これからの地域社会を担う人材育成や地域社会の発展につなげていただけるものと期待いたします。

令和６年２月

教育・保育論集 第 27 号
2024

教育・保育論集 第 27 号の発行によせて	桜田葉子	2
目次		4
大学教育の現場	編集部	6
福島にある大学の役割と学生作品展「あそびの国から 2023」の開催	佐藤昌彦	12
保育者の役割ってなあに　～現在の社会情勢を踏まえ実体験を通して考える～	長島輝子	22
保育士養成課程の授業「保育内容指導法 - 環境 -」および「こども（幼児）と環境」における認定こども園の園児参加行事の体験学習	杉浦広幸	30
学生の保育を評価する力の向上を目指した授業実践　～認定こども園での絵本の読み聞かせの学生同士の相互評価の取り組みをとおして～	佐藤博英 宍戸和博 鈴木智子 安田いつ美	34
近隣小学校における「絵本読み聞かせ体験」 ～こども学科学生の実践報告～	鈴木翔太 齊藤多美子	48
ブックレビュー	鳴原裕亮 梅宮れいか	53
保育者にとっての子どもの運動遊びとは	藤本要	62
生成 AI 事始め　　生成 AI の開発経緯と教育・保育活動での活用	鈴木久米男	70
音楽教育に色音符を導入にする効果に関する一考察　－保育学科学生、高校生、そして園児へのトーンチャイム演奏の実践より－	佐藤敦子	80
シリーズ福島の文化を知る　その３　　「赤べこ」と柳津の虚空蔵さま	梅宮れいか	92
表紙から	古畑雅規	102

大学教育の現場

編集部

P.8 ～ P.11 のパンフレットは、
佐藤昌彦教授による

あそびの国から 2023

保育学科の佐藤昌彦教授が、授業成果を発表した。昌彦教授は、「保育内容研究（造形教材製作）」の担当で、今回の展覧会は、その授業成果の発表である。受講者は４５名。これまで、昌彦教授は自分の研究室をギャラリィとして開放するなど、学修結果の発表に力を入れてきた。作って終わりではなく、見てもらってイマジネーションを刺激することが、次の保育教育での教材シードとなる。

一連の授業の中で

昌彦教授によると、造形に関する授業科目は、１年の「幼児と表現」、２年の「保育内容指導法　表現」、そして「保育内容研究（造形教材制作）」と一連の流れがあるのだそうだ。「幼児と表現」では、子どもの立場に立って考える力を高めることを目標とし、「保育内容指導法　表現」では、教育や保育の現場における教材づくりの力を高め、「保育内容研究（造形教材制作）」では、自分自身の価値観（何を大切に考えるか）を作る、に集結する。学生達は、心の中の「作る」に問いかけ、教育を実践するときの自分の姿を模索する。

価値観の形成

会場に足を踏み入れると、学生達の心の中の色々が形になっている作品群に、微笑み、考えさせられ、感心する。カラフルな色彩に、幼児期に刺激となる色を垣間見る。昌彦教授は、学生の創作活動を通して問いかける「何を大切に考えて子どもの前に立てばよいのでしょうか」価値観の形成は、教育・保育に関する実践力の基軸になるという信念の元、教授の授業は歩む。

令和５年度スタート！！
保育内容研究（造形教材制作）

福島学院大学短期大学部保育学科 学生作品展

あそびの国から 2023

■期日：2024（令和６）年２月１日（木）～２月26日（月）＊最終日15:00まで
■場所：福島学院大学 宮代キャンパス
本館１階 学生ラウンジ

福島学院大学短期大学部保育学科 学生作品展

あそびの国から 2023

■令和５年度から、授業科目「保育内容研究（造形教材制作）」（２年生）がスタートしました。それを記念し、造形教材作品展を開催いたします。「幼児と表現（造形）」（１年生）、「保育内容指導法 表現」（２年生）、「保育内容研究（造形教材制作）」（２年生）など、造形に関する授業科目での学生作品です。

学生の活躍!!

2021年・2022年・2023年（4月）の展示／全国誌での紹介（連続）・本学学生作品!!
遊び・飾るなどの造形教材制作を通して、教育・保育に関する実践力を高める

2021年（上） ■教材「いろんなオニがあつまった」＆「おしゃべりの達人」（作品展示場所：佐藤昌彦研究室ギャラリー）

2022年（下左） ■教材「ソックス人形」「一本の糸で動く紙人形」など（作品展示場所：メディア懇談会会場／本学駅前キャンパス）

2023年 4月（下右） ■教材「なべつかみの大変身」「エプロンシアター」など（作品展示場所：本学宮代キャンパス・本館１階学生ラウンジ）

■全国誌での紹介（連続） 本学保育学科学生作品＊全国誌『教育トークライン』（教育技術研究所、2021-2023／上の事例はその一部）

福島学院大学短期大学部保育学科の授業

造形に関連する授業科目は次の三つです。

1. 幼児と表現（造形）……1年:前期・後期
2. 保育内容指導法 表現……2年:前期・後期
3. 保育内容研究（造形教材制作）…2年:後期

三つの授業科目のねらいを以下に示しました。

■幼児と表現（造形）／1年:前期・後期

つくろうとするものが思い浮かばない、どうすればいいのでしょうか。自分自身で教材をつくることによって、その問いに答えることができるようにします。さらに造形に関する表現と鑑賞を通して、**子どもの立場にたって考える力を高めます。**

■学生作品展 2023（4 月）「あそびの国へ、ようこそ！！――遊ぶ、飾る、いろんな教材大集合」の様子

■学生作品展での鑑賞（1 年生、2023 年 4 月）

■本学認定こども園の先生と子どもたち（2023 年 4 月）

■造形に関する授業科目の関連

1 年 幼児と表現（造形） → 2 年 保育内容指導法 表現 → 2 年 保育内容研究（造形教材制作）

教材「いろんなオニがあつまった」

教材「手袋シアター」

教材「おしゃべりの達人」

教材「エプロンシアター」

教材「おばけボウリング」

1 年 子どもの立場にたって考えよう
2 年 教育や保育の現場で活用できる教材をつくろう
2 年 教材制作を通して、自分自身の価値観をつくっていこう
★教材制作…遊びのレパートリーをふやそう
●教材「モンスターアタック（的あて遊び）」（右上）
＊クッションボールが飛び出すおもちゃのピストルを活用する（あたっても痛くない）。
●教材「おばけボウリング」（右下）

■保育内容指導法 表現／2 年：前期・後期

教育実習等でどのような教材を準備すればいいのでしょうか。1 年次での授業科目「幼児と表現（造形）」や基本実習での学びを踏まえて、その問いに答えます。理論と実践の往還を通して、**教育や保育の現場における教材づくりの力を高めます。**

■保育内容研究（造形教材制作）／2 年：後期

何を大切に考えて子どもの前に立てばいいのでしょうか。一人一人が自問自答します。教材づくりを一つの手がかりとして、**自分自身の価値観（何を大切に考えるのか）をつくっていきます。**価値観の形成は、教育・保育に関する実践力の基軸となるものです。

あそびの国から 2023

福島学院大学短期大学部保育学科 学生作品展 会場マップ

令和 5 年度スタート
保育内容研究（造形教材制作）

■令和 5 年度メンバー
保育内容研究（造形教材制作）

- 石黒楓和（いしぐろふうわ）
- 石黒莉咲（いしぐろりさ）
- 井上 唯（いのうえ ゆい）
- 大槻千華（おおつきちか）
- 蕪木麗奈（かぶきれな）
- 河井杏菓（かわいもか）
- 菅野実沙季（かんのみさき）
- 菅野莉央（かんのりお）
- 菊田 珠（きくた すず）
- 小出優衣（こいでゆい）
- 齋藤百桜（さいとうもも）
- 齋藤凜空（さいとうりあ）
- 相樂親乃梨（さがらみのり）
- 鈴木香奈（すずきかな）
- 鈴木陽香（すずきはるか）
- 髙橋青空（たかはしそら）
- 廣澤玲菜（ひろさわれいな）
- 星菜々花（ほしななか）
- 星 遥渚（ほし はるな）
- 矢内希実（やないのぞみ）
- 吉田るな（よしだ）
- 渡辺来美（わたなべくるみ）
- 佐々木優奈（ささきゆうな）
- 秋山茉衣（あきやままい）
- 伊東凪桜（いとうなお）
- 遠藤ゆい（えんどう）
- 影山琴音（かげやまことね）
- 片平優佳（かたひらゆうか）
- 北内瑠希亜（きたうちるきあ）
- 小島莉実（こじまりみ）
- 斉藤菜々（さいとうなな）
- 齋藤はるか（さいとう）
- 佐藤美咲（さとうみさき）
- 菅野 萌（すがの もえ）
- 田邊美帆（たなべみほ）
- 二瓶萌菜（にへいもえな）
- 野木来愛（のぎくれあ）
- 花岡ひな（はなおか）
- 田村絵里奈（たむらえりな）
- 野田光莉（のだひかり）
- 野村碧空（のむらあいら）
- 引地遥南（ひきちはるな）
- 山本深月（やまもとみずき）
- 行方ののは（なかかた）
- 宮川楓羽愛（みやかわふうあ）

■福島学院大学宮代キャンパス本館（上）
■教材「フェイスタワー／積み木遊び・どこまで高く積めるかな」（下）

FUKUSHIMA COLLEGE for sincerity 福島学院大学
保育学科長：渡辺雅子、授業担当者：佐藤昌彦
お問い合わせ先：024-572-3806（佐藤昌彦研究室）

福島にある大学の役割と学生作品展「あそびの国から 2023」の開催

佐　藤　昌　彦　短期大学部　保育学科　教授

はじめに ── 指針の明示と具現化の推進

福島にある大学の重要な役割の一つは、福島第一原子力発電所事故（2011 年 3 月）以後の教育の指針を明示し、その具現化を推進することにあります。

原発事故当時、私は北海道教育大学（札幌キャンパス、教授）に勤務しており、2012(平成 24) 年 4 月から 2016(平成 28) 年 3 月までは附属札幌中学校の校長を兼任していました。次に示した「教育の基軸は何か」(佐藤昌彦) と題した文章は、原発事故後の教育にかかわって、北海道教育大学附属札幌中学校『学校だより』(No.1、巻頭言、2012 年 4 月 6 日発行) に掲載されたものです。一部を抜粋しました。

教育の基軸は何か

なぜ、今、教育の基軸にかかわる問いを提示したのでしょうか。それは新年度のスタートにあたって、今後の教育にかかわる基本的な方向を明確にしたいと考えたからです。では、何が基軸になるでしょうか。あらためてそう問われれば、迷うことなく価値観の形成と答えます。この言葉を取り上げた理由は、昨年の 3 月、福島第一原子力発電所が爆発し、自然やものにかかわる人間の責任が厳しく問われる事態になったからです。放射線量の高い所では、教室で学ぶことも校庭で運動することもそこに住むこともできなくなりました。原発事故から 9 ヶ月になる 12 月の時点で約 15 万 7000 人が帰宅できずにいたのです。北海道に避難したある幼児が「ここは大きく息をしていいの」と尋ねたといいます (朝日新聞 2011.8.30)。大気中の放射性物質を吸い込まないようにマスク着用の生活がずっと福島で続いていたからです。

私の実家は福島にあります。3 月 11 日の大震災で母が避難所に移ったとの連絡を受け、急遽 12 日には新千歳空港から福島に戻りました。到着してまもなく福島原発が爆発。以後、大地震による飲料水や食料の欠乏に加えて、放射性物質の放出による屋内退避、避難準備、ガソリンの供給不足による避難断念など、様々な緊迫した状況の中で過ごすことになりました。生活必需品の買い出しでは、外部被曝を避けるために、マスク、雨合羽、手袋等で全身を覆い、目だけを出した姿で、店の前に並ばなければなりません。異様な光景でした。

ものは人間に恩恵をもたらすとともに、一転すれば、大惨事を引き起こします。福島の事故はチェルノブイリと同じレベル 7 と発表されました。何を大切にこれからの教育を組み立てていけばよいのでしょうか。このことは日本における切実な課題です。様々な視点から切り込むことができますが、中心軸には冒頭で述べたように、価値観の形成を位置づけることが重要と考えます。何をよしとするのか、どのような方向へ進めばいいのか、それらを判断する拠り所が価値観だからです。

それでは価値観形成の条件には最低限どのような視点が必要となるでしょうか。さらにそのように問われれば、自然と答えます。なぜなら、人間は自然の一部であり、自然に支えられてこそ生きることができるからです。原発事故では、空気、土、水など、自然のすべてのものが放射性物質によって汚染され、場所によっては、長期間立ち入ることができない状態になってしまいました。自然に逆らっていないか、自然に無理をかけていないか、自然の理にかなっているか、これらは事故から再起するために欠かすことができない視点です。そして、教育における具体的な内容や効果的な指導法を考える上での大事なポイントにもなります。

【出典】佐藤昌彦「教育の基軸は何か」(北海道教育大学附属札幌中学校「学校だより」No.1、巻頭言、2012.4.6 発行)

原発事故は人間のあらゆる生活環境 (自然環境と人為的環境) に大きな影響を及ぼしました。事故から再起するためには、政治・経済・教育など、様々な立場から事故後の在り方を検討する必要があります。そしてそれを具現化するための現場での実践が重要になります。

ではものをつくる教育においては、価値観の形成にかかわって、何を大切に考えて子供の前に立てばいいのでしょうか。またどのように実践すればいいのでしょうか。令和 5 年度の福島学院大学大学報（VOL.34、2023.4.28、p.12）では原発事故後の教育の指針を示しました。本学短期大学部保育学科学生作品展「あそびの国から 2023」（2024.2.1-2.26、宮代キャンパス本館 1 階学生ラウンジ）はその指針を具現化するための実践の一つとして開催したものです。

本稿では、あらためて教育の指針を再確認するとともに、その具現化の事例となる福島学院大学での実践について記しました。

1. 指針の明示 ── 生命を原点とする教育

教育の指針の明示は具現化の起点です。「はじめに」で述べた内容と重なるところもありますが、大学教育の現場における実践のおおもとになりますので、前述した福島学院大学大学報の一部を以下に再掲しました。

2023 年（令和 5 年）は、東日本大震災・原発事故から 12 年目になります。事故原因について、東京電力福島原子力発電所事故調査委員会『国会事故調報告書』（徳間書店、2012 年）には、直接的原因は地震・津波、

○ 佐藤昌彦『次世代ものづくり教育研究―日本人は責任の問題をどう解決するのか―』（単著、学術研究出版、新装版・増刷、2020）

根本的原因は生命を守るという責任感の欠如と記されました。

では福島にある大学の役割は何か。そう問われれば、上記の報告書を踏まえて、生命を原点とする教育の推進と答えます。生命を原点とする教育とは、生命に及ぼす影響に配慮し、よりよい生活環境を創造する人間の育成を意味しています。生活環境には自然環境と人為的環境を含めました。

原発は人間がつくったものです。それではものをつくることにかかわって、生命を原点とする教育を具現化するためには、どのような教育を目指せばいいのでしょうか。端的に言えば、自然と対立する造形教育ではなく自然と馴染む造形教育を目指すということでしょう。人間は自然の一部であり、自然に支えられてこそ生きることができるからです。

こうした教育の方向は、著書『次世代ものづくり教育研究―日本人は責任の問題をどう解決するのか―』（佐藤昌彦、学術研究出版、初刷 2019）のなかで提起しました。本書は文部科学省の令和元年度（2019 年度）科学研究費助成事業科学研究費補助金（研究成果公開促進費・課題番号 19HP5214）の助成を受けて出版されたものです。

原点（手づくり）から最先端（AI や IoT など）まで、ものをつくる行為全体（原発も含む）の根底には人間の責任を位置づけ、造形性・創造性とともに人間性をいっそう重視しました。

科学・技術・芸術の連携、そして一人でつくる事例から量産の事例まで、ものができるトータルな構造を視野に入れています。保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、中学校、高等学校、大学など、教育や保育の現場でのものをつくる行為全体へも眼差しを向けました。

そしてさらに次のようにも記しました。

自然に負担をかけないように、有り余るほどの材料ではなく、少ない材料で（必要とする分だけの材料で）多様な発想を生み出す創造体験を大切にしました。材料は自然の恵み・自然の生命と考えたからです。そうした創造体験の積み重ねは先に述べた「生命に及ぼす影響に配慮し、よりよい生活環境を創造する人間の育成」につながるものと考えます。

【出典】佐藤昌彦「福島学院大学の研究」『福島学院大学大学報』VOL.34、福島学院大学、2023、p.12.
＊掲載にあたっては、加筆・修正を行なっています。

では、そうした教育の指針をどのように具現化していったらいいのでしょうか。次にその主な取り組みについて述べました。

2. 具現化の推進 ――― 文庫の開設、新刊書の出版、教材の開発、授業の改善、ギャラリーの開設（常設展）、学生作品展の開催（企画展）、全国誌（教育図書・月刊誌）での学生作品等の紹介

以下の七つは主な具現化の取り組みです。

⑴ 文庫の開設

① E. リチャーズ＆住田和子 (すみだかずこ) 文庫…2021(令和 3) 年 4 月、佐藤昌彦研究室に開設しました。収蔵図書は、福島から原発事故後の教育の指針を発信できるように、エレン・リチャーズ (E.H.S.Richards: エレン・ヘンリエッタ・スワロー・リチャーズ、1842-1911) の思想研究で亀高学術出版賞を受賞された住田和子先生 (元･北海道教育大学教授) が寄贈してくださったものです。「生命に及ぼす影響に配慮して、よりよい生活環境 (自然環境＆人為的環境) を創造する」という時代や国の違いを超えた普遍的な価値について学ぶことができます。

② 宮脇理 (みやわきおさむ) 文庫…「E. リチャーズ＆住田和子文庫」と同じ 2021(令和 3) 年 4 月に佐藤昌彦研究室に開設しました。第 1 章で述べたように、原発は人間がつくったものです。「生命に及ぼす影響に配慮して、よりよい生活環境を創造する人間の育成」という教育の指針を具現化する際には、ものをつくる教育の立場からの検討が必要になります。宮脇理文庫の蔵書は、芸術教育学、とりわけ工芸教育分野において、国内外の教育に多大な影響を与えられている宮脇理先生 (博士 : 芸術学、Independent Scholar、元・筑波大学大学院教授) が、ものをつくる教育の未来像を描くために寄贈してくださったものです。「自然と対立する造形教育ではなく自然と馴染む造形教育」について学ぶことができます。

⑵ 新刊書の出版

2020（令和 2）年（福島学院大学で授業を担当する前年）以降の著書のなかから、原発事故後の教育に関連する主なものを次に記載しました。

① 佐藤昌彦『次世代ものづくり教育研究―日本人は責任の問題をどう解決するのか―』（単著、学術研究出版、新装版・増刷、2020、＊博士論文を著書として上梓したものです。増刷にあたっては、加筆・修正を行なっています。）…「原発事故の直接的原因は地震・津波、根本的原因は生命を守るという責任感の欠如」という東京電力福島原子力発電所事故調査委員会『国会事故調報告書』（徳間書店、2012 年）の報告を踏まえ、「責任」をキーワードとして論述しました。

○ 宮脇 理（企画・監修）、畑山未央・佐藤昌彦（編集）、山木朝彦（特別 企画・監修）『民具・民芸からデザインの未来まで―教育の視点から―』（共著、学術研究出版、2020）

②宮脇 理（企画・監修）、畑山未央・佐藤昌彦（編集）、山木朝彦（特別 企画・監修）『民具・民芸からデザインの未来まで―教育の視点から―』（共著、学術研究出版、2020）…原点（手づくり）から最先端（AI や IoT など）まで、ものをつくる行為全体（原発も含む）を視野に入れて教育を考えるために出版したものです。

③ 宮脇 理、佐藤昌彦、徐 英杰、若林矢寿子『中国 100 均（100 円ショップ）の里・義烏と古都・洛陽を訪ねて』（共著、学術研究出版、2020）…「日本人は責任の問題をどう解決するのか」という問いに答えるために、過去・現在・未来を俯瞰し、さらに世界的な視点に立って検討するために出版したものです。

④ 佐藤昌彦『紙による造形―つくろうとするものが思い浮かばない、どうすればいいのか―』（単著、学術研究出版、2021）…多様な発想を生み出す創造モデルと

創造モデルに基づく造形教材を提起しました。

⑤ 宮脇 理（監修・資料提供）、佐藤昌彦（編集）、川邉耕一（表紙絵・章扉絵）『ミライへの造形教育思考―アーキビストの目線 (めせん) で視 (み) る―』（共著、学術研究出版、2022）…歴史を踏まえて、ものをつくる教育の未来像を描くために編集したものです。

⑥佐藤昌彦「映画『こころの山脈』と原発事故後の教育」『映像メディア表現の教育的意義』（共著、学術研究出版、2024、pp.131-147）…原発事故後の教育にかかわる教育現場での取り組みの事例を示しました。

⑦佐藤昌彦『身近な材料による造形―少ない材料で多様な発想を生み出す創造体験―』（単著、学術研究出版、2024）…必要とする分だけの材料で多様な発想を生み出すための創造のプロセスを具体的に示しました。

⑶ 教材の開発

少ない材料で多様な発想を生み出すことができる教材の開発は、JSPS 科研費課題番号 23653280 の助成を受けて行なったものです。主なものを下に記しました。

○ 見たこともないような顔（一枚の紙でつくる）
○ 組み合わせてつくる顔（二枚の紙でつくる）
○ いろんなオニがあつまった（ちぎってつくる）
○ ソックス人形（ソックスで顔をつくる）
○ 一本の糸で動く紙人形（色、形、動きから発想する）
○ モンスターアタック（的あて遊び）
○ 一枚アニメ（繰り返す動きの面白さ）
○ おしゃべりの達人（口が動く面白さ）
○ とびだせ！！コースター（すべってどこまでいけるかな）
○ なべつかみの大変身（動きから発想する）
○ 新種の魚（魚つり遊び）
○ おばけ大集合（ボウリング遊び）
○ フェイスタワー（積み木遊び）

⑷ 授業の改善

福島学院大学短期大学部保育学科において、造形に関連する授業科目は次の三つです。

1. 幼児と表現（造形）……1 年 : 前期・後期
2. 保育内容指導法 表現……2 年 : 前期・後期
3. 保育内容研究（造形教材制作）…2 年 : 後期

授業の改善にあたっては、価値観の形成を主軸として各授業を見直すとともに（例／表現だけではなく、表現と鑑賞、双方を重視する）、保育学科の「カリキュラム・ツリー」を踏まえ、カリキュラムの全体像と各授業とのつながりや授業と授業とのつながりを 1 年生の 4 月の段階から確認できるようにしました。

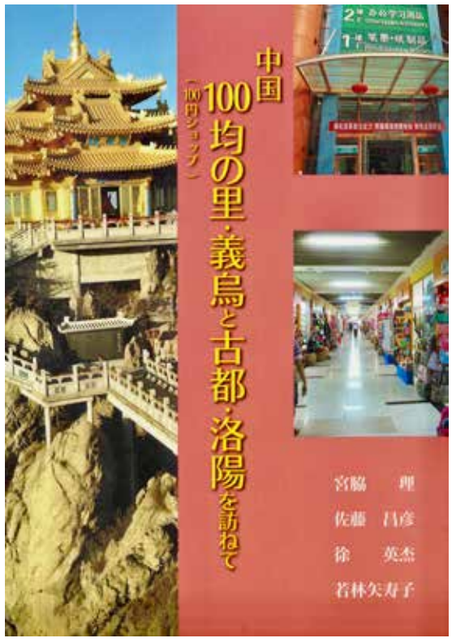
先述した三つの授業のねらいは以下のとおりです。

■幼児と表現（造形）／ 1 年 : 前期・後期

つくろうとするものが思い浮かばない、どうすればいいのでしょうか。自分自身で教材をつくることによって、その問いに答えることができるようにします。さらに造形に関する表現と鑑賞を通して、子どもの立場にたって考える力を高めます。

■保育内容指導法 表現／ 2 年 : 前期・後期

教育実習等でどのような教材を準備すればいいのでしょうか。1 年次での授業科目「幼児と表現（造形）」や基本実習での学びを踏まえて、その問いに答えます。



○ 宮脇 理、佐藤昌彦、徐 英杰、若林矢寿子『中国 100 均（100 円ショップ）の里・義烏と古都・洛陽を訪ねて』（共著、学術研究出版、2020）

○ 佐藤昌彦『紙による造形―つくろうとするものが思い浮かばない、どうすればいいのか―』（単著、学術研究出版、2021）

○ 宮脇 理（監修・資料提供）、佐藤昌彦（編集）、川邉耕一（表紙絵・章扉絵）『ミライへの造形教育思考―アーキビストの目線 (めせん) で視 (み) る―』（共著、学術研究出版、2022）

○ 佐藤昌彦『身近な材料による造形―少ない材料で多様な発想を生み出す創造体験―』（単著、学術研究出版、2024）

理論と実践の往還を通して、教育や保育の現場における教材づくりの力を高めます。

■保育内容研究（造形教材制作）／２年 : 後期

何を大切に考えて子どもの前に立てばいいのでしょうか。一人一人が自問自答します。教材づくりを一つの手がかりとして、自分自身の価値観（何を大切に考えるのか）をつくっていきます。価値観の形成は、教育・保育に関する実践力の基軸となるものです。

⑸ ギャラリーの開設（常設展）

令和３年度は、学生の作品を展示するギャラリーを本学宮代キャンパス佐藤昌彦研究室内に開設しました。学生の学びの成果を日々の学修の場で見えるようにしたいと考えたからです。

⑹ 学生作品展の開催（企画展）

令和４年度は、本学駅前キャンパス・メディア懇談会会場（5 階 E506 教室）に学生の作品を展示しました。令和５年度は、４月に本学宮代キャンパス本館１階学生ラウンジで学生作品展「あそびの国へ、ようこそ！！

遊ぶ、飾る、いろんな教材大集合」を開催しました。2024 年２月には学生作品展「あそびの国から 2023」を開催しました（第３章で再度取り上げます）。

⑺ 全国誌（教育図書・月刊誌）での学生作品等の紹介

① 教育図書…『身近な材料による造形―少ない材料で多様な発想を生み出す創造体験―』（佐藤昌彦、学術研究出版、2024）に本学学生の作品を掲載しました。

②月刊誌…『教育トークライン』（教育技術研究所）には連続して本学学生の作品や作品に合わせたお話づくりなどに関する文章が掲載されています。以下にお話づくりの事例を示しました（教材「なべつかみの大変身」、①開いたり閉じたりするなべつかみの動きを生かして人形をつくる、②自分でつくった人形からお話を発想する、2022 年４月号、No.544、pp.4-5）。

■お話づくり／火をふくメーメー

ぼくは、口を開けば火が出てしまう、男の子メーメー。話すときもあくびをするときも出てしまうから、みんな怖がって逃げてしまうんだ。でもぼくはやっぱり友だちがほしい。みんなとおしゃべりがしたい。みんなと遊びたい。

そんなある日、怪獣ゴロリが村にやってきた。家を壊し、畑の野菜を食い散らかし、田んぼの稲を踏み荒らして大暴れ。村の人々が、もうだめだと泣き崩れ、諦めかけたとき、「ぼくの大切な村になんてひどいことをしてくれたんだ！」とメーメーが大声で叫んだ。同時にメーメーの口から火がゴーと出た。「あちちちち！これはかなわん。ゆるしてくれえ！」と怪獣ゴロリは逃げていった。その様子を見ていた村の人々は大喜び。「今までメーメーくんの火が怖くて、悪い子だと思っていたんだ。ごめんね。」「私たちがメーメーくんの前ではなく横にいれば、火なんて怖くない。」「これからはたくさんおしゃべりをしたり、遊んだりしよう。」「私たちとメーメーくんはずうっとお友達だよ。」

こうしてメーメーと村の人々は、いつまでも仲よく幸せに暮らしました。

3. 学生作品展「あそびの国から 2023」（企画展）の開催――有り余るほどの材料ではなく、少ない材料で（必要とする分だけの材料で）、多様な発想を生み出す創造体験

本章では、作品展の背景にある造形教材制作の規範と創造モデルについて述べたいと思います。

⑴ 規範

規範には、日本の伝統的な造形である折紙を位置づけました。折紙には日本文化の特質である「限定空間の最大活用の精神」が受け継がれているからです。

ここに世界最古の折紙の本を和紙和綴で復刻した『秘傳千羽鶴折形―復刻と解説―』（日本折紙協会、1991）があります。寛政９（1797）年に出版された原本を復刻したものとそれを解説したものとの２冊で構成された貴重な文献です。

原本の復刻版には、一枚の紙からつくり出された 49 種類もの連鶴が印刷され、それぞれの折り方が図で示されています。大小 90 羽以上の鶴がくちばしや翼の先などでつながっているものもあります。何十枚という多量の紙からではなく、一枚の紙という極めて限定されたものから 49 種類もの連鶴や 90 羽以上の鶴の組み合わせを生み出した見事さは、風船や宝船など、多種多様な形をつくり出してきた折紙の背景にある精神を象徴しています。つまり、我が国で編集された世界最古の折紙の本からは、限定されたなかで無限の可能性をどう引き出すか、そこに価値を見出し挑戦し続けた日本人の精神的特性を読み取ることができます。

○ 世界最古の折紙の本『秘傳千羽鶴折形―復刻と解説―』（日本折紙協会、1991）

・原本を復刻したもの（左）　・「復刻と解説」の表紙（右）

このことを明快に述べた大橋晧也先生（上越教育大学名誉教授）の論文「折紙を生んだ日本の文化的特質」（pp.136-139）が同書に掲載されています。大橋先生は、農耕文化による定住や日本が島国であるという自然条件から、限られた土地をできるだけ有効に使いながら生きていくことが要請されたとして、大陸における農耕と極めて対照的な（外側に向くフロンティアスピリットに対して内側に向いた）、いわば限定空間の最大活用の精神が涵養されてきたと述べています。

そして、端的にそのことを示す事例として、日本建築の間仕切りをあげ、次のように記しています。「間を仕切るということは、限られた空間をいかに有効に使うかという思考そのものを意味している。しかも、仕切られた空間は、たえず襖を外し障子を開けることによって変わるものである。限られた空間とはいえ、その利用の仕方は可変的なのである。畳ももともとは文字通りたたんだものなのである。これは石や煉瓦による厚い壁や床によって仕切られた空間では絶対にできないことである。」

さらに、こうした間仕切りの論理は伝統的な日本の着物の裁ち方にも生きているとして以下のようにも述べています。「着物は一反の布から着る人にあわせて身丈や袖丈を決め直線によって裁断する。したがって、着物をほどいてもう一度縫い合わせれば、元の一反にもどるのである。それを洗い張りして染め直したり痛みやすい所と比較的痛みにくい所とを差し替えたりして再び縫い上げて使うことができるのである。限られた空間におけるフレックシビリティである。まさに折紙の論理であろう。」

学生作品展「あそびの国から 2023」で大切にしてい

○学生作品展「あそびの国から 2023」

る考え方（少ない材料で多様な発想を生み出す創造体験）と日本の伝統的な造形である折紙に受け継がれてきた精神（限定空間の最大活用の精神）とは軌を一にするものと考えています。

【出典】上記の内容は次の論考に基づきました。佐藤昌彦「折紙を通して日本文化を学ぶ」『総合的学習を創る』10 月号、No.184、明治図書出版株式会社、2005、pp.44-45.

⑵ 創造モデル

創造モデルの考え方を以下に示しました。

- -

つくろうとするものが思い浮かんだときにはそれを形にします。つくろうとするものが思い浮かばないときには、とりあえず（または、思い切って）、一つの形をつくって目の前に置きます。そして目の前の形をじっと見て次どうするかを考えます。

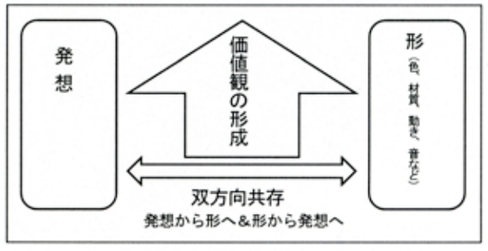
この繰り返しでつくろうとするものの形を明確にしていきます。

- -

つくろうとするものが思い浮かんだときには「発想から形へ」という方向で、つくろうとするものが思い浮かばないときには、逆に「形から発想へ」という方向で考えます。双方向共存の考え方です。頭の中で考えても思い浮かばないのであれば、目の前の形から考えてみるのです。

創造モデルを図で表すと次のページのようになります。形という言葉は、色、材質、動き、音などの言葉と入れ替えることができます。「形から発想へ」とは、形はもちろんのこと、色、材質、動き、音など、目の前の状況から発想するという意味です。

価値観の形成は、創造モデルでも中心軸に位置づけました。複数のアイデアが思い浮かんだときにどれを選ぶのかという最終的な判断は自分自身の価値観に基づくからです。価値観の形成はものをつくることだけにかかわるのではありません。人間形成の基軸でもあるからです。日々の暮らしの中での様々な選択から人生を左右するほどの大事な場面での選択まで、すべての判断の拠り所は「何をよしとするのか」という自分



創造モデル

自身の価値観になります。

学生作品展「あそびの国から 2023」に展示されている作品はそうした考え方に基づく授業から生まれてきたものです。

【出典】創造モデルの内容は次の書籍に基づきました。佐藤昌彦『紙による造形』学術研究出版、2021、pp.6-7.

おわりに ――― 原点は生命、最終的な課題は多様な現場での実践

以上、本稿では福島にある大学の役割に眼差しを向け、原発事故後の教育の指針の明示と具現化の取り組みについて述べてきました。

指針の明示では、「生命を原点とする教育」という方向を提示しました。具現化の取り組みとしては七つの実践について記しました（①文庫の開設、②新刊書の出版、③教材の開発、④授業の改善、⑤ギャラリーの開設、⑥学生作品展の開催、⑦全国誌での学生作品等の紹介）。これらの実践のなかの学生作品展「あそびの国から 2023」については、第 3 章でも取り上げ、造形教材制作の規範と創造モデルについて言及しました。

福島学院大学でのそうした二つの視点に関する実践は、北海道教育大学（幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校等の教員及び養護教諭の養成、札幌キャンパス・函館キャンパス・岩見沢キャンパスにおける学部及び大学院での実践）、東京福祉大学札幌学習センター（札幌市、保育士養成）、厚生労働大臣指定保育士養成施設こども學舎（札幌市、保育士養成）における私自身の授業実践を踏まえたものです。

繰り返し述べてきた指針の明示と具現化の推進という言葉は以下の言葉に言い換えることもできます。

原点は生命、最終的な課題は多様な現場での実践

多様な現場とは、政治・経済・教育など、人間の生活環境にかかわるあらゆる現場を指します。保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、中学校、高等学校、大学などでの実践では、生命を預かる責任の自覚が大前提です。福島学院大学では、そうした生命を預かる責任の自覚を基盤としながら、学生は子供にとっての初めての先生を目指して学んでいます。「直接的原因は地震・津波、根本的原因は生命を守るという責任感の欠如」という東京電力福島原子力発電所事故調査委員会『国会事故調報告書』（徳間書店、2012 年）に基づけば、本学は、原発事故を体験した福島の県都にある大学として、生命にかかわる事故後の教育の指針を明示し、具現化を推進する極めて重要な拠点であると言えるでしょう。

本論集の「大学教育の現場」（編集部）では、学生作品展「あそびの国から 2023」の会場の様子やパンフレットについて紹介していただきました。関係者の皆様に心より感謝申し上げます。また、作品展の開催にあたっては、福島学院大学の教職員の皆様、関係者の方々にたくさんのご配慮をいただきました。厚く御礼申し上げます。

＊ 本稿の内容は、文中で示した科研費（JSPS 科研費課題番号 19HP5214、JSPS 課題番号 23653280）の他に、JSPS 科研費課題番号 26590227 及び JSPS 科研費課題番号 23243078 の助成を受けた研究に基づいて述べたものです（アイヌの人々の伝統的なものづくりの教材化など、自然と対立する造形教育ではなく自然と馴染む造形教育にかかわる研究を踏まえました）。

佐藤昌彦　Sato　Masahiko
短期大学部保育学科　教授
博士（学校教育学）
北海道教育大学名誉教授

保育者の役割ってなあに

～現在の社会情勢を踏まえ実体験を通して考える～

長　島　輝　子　　福祉学部　こども学科　客員講師

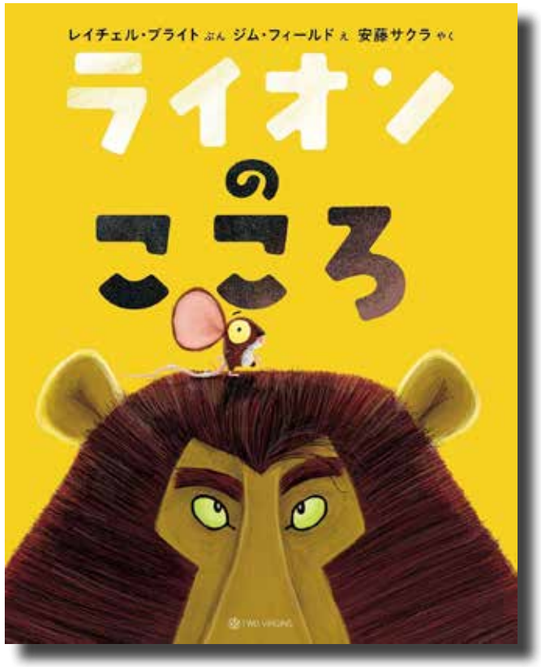
1. はじめに

今、テレビのニュースを見ると暗い内容が中心である。地球上のあちこちで戦争が起こっていて、ますます憎しみ合いが深まっている。考えてみれば戦争ほど残酷なものであり、身も心も破壊する悲惨なものであると思う。また、SNS 等を通しての中傷や詐欺など悪事に使用することも、戦争同様に人間の身も心も傷つけるものである。このような悲しいニュースを見るたびに、どのような環境の下で、どのような乳幼児時期を過ごしてきたのだろうかと考えてしまう。さらに、うつぶせ寝で乳児死亡、スクールバスバスでの置き去り死亡事故等々、保育現場での死亡事故ニュースが多い。保育環境や先生方の話し合い等のコミュニケーションは、十分なされているのかなどと考えてしまう。だから、現代ほど保育者の役割が大切であると私は考えてみた。

当然のことであるが、保育者は単に子どもを預かり遊ばせているだけではない。また、一方的に子どもたちに活動を提供し、指示命令で管理する人ではない。保育者は、一人一人の子どもを一人の人間として尊厳をもって関わり、子どもがよりよく育つことを促すような関わりや環境構成を行う存在である。さらに、家庭や地域と連携を取り、保護者と共に子どもを育てていく役割がある。死亡事故を振り返ると、様々なマイナスなことがあげられると思うが、原点に返り、上記に示したどちらの姿だったのかなと思わず考えてしまう。

よく耳にすることは、“園の方針だから”“園長先生や主任が言ったから”等、上司の命令通りに行動することを良しとしている保育者が多いのではないか。保育者自身が指示命令を受けなければ保育ができないという状態であれば、一人一人の子どもの良さを見出しながらよりよく育つことを促す関わりや環境構成、保護者と共に子どもを育てていく役割を果たしていないということになる。

若い保育者には、園長先生や主任からのご指導および園の方針を受けた時に考察してほしいと思う。「なぜだろう」「どうして」「今の自分はどのように対応すれば子どもの心に響くのか」･･･。また、先輩や主任等の先生方は、言葉遣いや理解したかどうかの確認や相手の意見を聞く態度等が要求される。ちょっと間違えるとパワーハラスメント等になりがちである。その反対



文：レイチェル・ブライト、絵：ジム・フィールド、訳：安藤サクラ、**「ライオンのこころ」**トゥーヴァージンズ、2021

見た目がまったく違うネズミとライオン。しかし、心の中には弱さを等しく持っている。お互いを知るには、会話が大切である。伝え合うことが、相手を理解し、友達関係が生まれる。

子どもたちに、自分の思っていることを言葉で伝える。また、相手の話をしっかりと聞き、受け止めるという態度が大切であることと、見た目で物事や人格を判断しない。決めつけないと言うことを子どもたちに伝えていくのに適した絵本である。

著：ニコライ・ポポフ、**「なぜ　あらそうの？」**ビーエル出版、2000.

絵のみの絵本なので、保育者の考え方や人となりが出てくる。大変難しくもあり、子どもたちに自分の思いを伝えやすいという二面性がある。

現在も地球上で戦争がおこっている。お互いに自分の欲求のため、暴力で相手を恐怖におとし、言うことを聞かせようとする方法である。しかし、戦争ほど残酷なものはない。戦争ほど悲惨なものはない。ということを、これから地球で活躍する子どもたちに伝えていくことは、とても大切であると思う。

5 歳児であれば、最後に話し合いをもうけ、生命の尊さ、生命の平等について確認し合える絵本である。

もあるが。

このように今だから、保育者の役割について改めて考えることが大切かと思う。

2. 保育者と子どもたち

幼稚園、保育園、こども園等に入園し、子どもたちは先生と出会う。初めての人との出会いである。今までお父さん、お母さんの元で愛情たっぷりに育ってきただろう子どもたち。新しい出会いに緊張感と興味津々と心の中は興奮状態あると思われる。保育者は十分に感じ取りながら、これから共に生活していくという関わりが始まる大切な出会いである。

一般的に家庭生活では、ご両親の手に支えられ愛情をたっぷりと受けて安心して生活してきた。園生活が始まると手は先生へと移る。子どもにとって、先生の手が非常に大事になる。中にはうまく移り変われずに、不安を強く感じる子どももいる。子どもたちが安心して移ることができるかどうかが大事な問題になる。

＜事例＞

4 歳児入園の A ちゃん（女児）、登園して母親から離れるも保育室には入らない。もちろんだんま　りである。保育室前テラスに座り込んでいる。保育者はいろいろと話しかけても無視される状態であ　る。そんなある日、猫（とりあえず花ちゃんと呼ぶ）の花ちゃん（現在はいろいろと問題があり園で飼育できないと思われるが、以前は、園内においてうさぎやにわとりなど飼育し、観察したり、餌をやったり、清掃したり等の活動が保育の中に組み込まれていた）の姿を見かけ追いかける。花ちゃんの住居は園長室である。A ちゃんの事は園長先生にしばらく任せることにし、報告、連絡、相談を密に行うことにした。A ちゃんは、登園するとまっすぐ園長室へ行く。そして「花ちゃんおはよう」と挨拶をし花ちゃんを撫でる。落ち着いた頃を見計らい園長先生が「A ちゃんおはよう」と声をかける。

一週間ぐらいたって「先生おはようございます」と声が返ってきた。

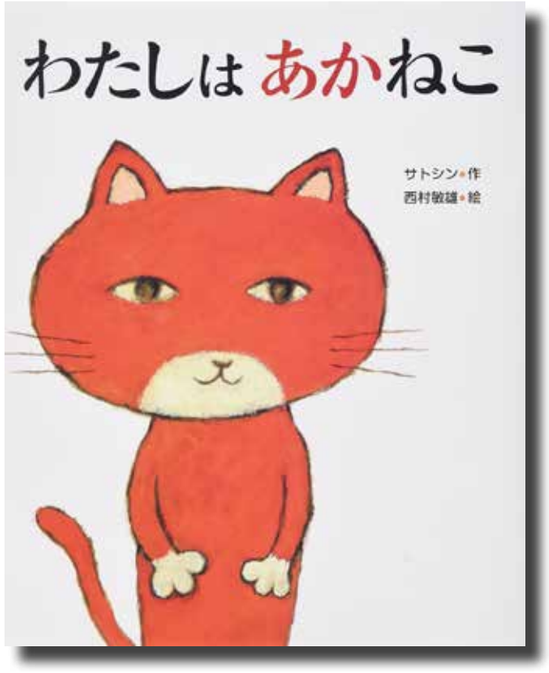
○園長先生との話し合い

- A ちゃんに合わせて対応する。
- 担任が毎朝挨拶に来る。（その間保育室は園長担当）
- 日々の変化をメモする。それを基に次の日の対応を考える。

二週間目、花ちゃんの園庭散歩について来る。園庭で遊ぶ子どもたちが、花ちゃんの所へ寄ってきて花ちゃんと猫じゃらしで遊び始める。A ちゃんは見学者になってしまった。子どもたちがお集まりの呼びかけで去った後、花ちゃんも園長室に戻る。花ちゃんの後をついて A ちゃんも園長室に戻ったが、A ちゃんの手には猫じゃらしがあった。その後の A ちゃんは、花ちゃんと行動が続き、信頼関係が深まったようである。観察機関がさらに二週間続き、連休明け様子が変わった。お母さんと一緒に保育室前に来て、担任と挨拶後、一緒に保育室へ入ることができた。

◇　4 歳児入園という年齢も大きく影響したと思うが、園側の対応が頭ごなしに決まりだからとか、園生活はこうあるべきとかの方法は取らず、あくまでも A ちゃんに合わせて、A ちゃんが自分で納得して園生活を送るまで待ったことは本当に良かったと思う。この事例は、はじめにに書いた、保育者とは、一人一人の子どもを一人の人間として尊厳をもって関わり、子どもがよりよく育つことを促すような関わりや環境構成を行う役割をもつことの例として上げた。また、保育は、担任が一人ではなく、園全体のチームワークと保護者との信頼関係が大切であることを改めて知ってほしいと思う。

◇　保育者は、子どもたちと一緒にある時間、一つの場所で生活していく立場がある。子どもたち共に生活する共同生活者としての結びつきを忘れてはならない。A ちゃんが安心して園生活を送れるように愛情をもって関わることは大切である。



作：サトシン、絵：西村敏雄、**「わたしはあかねこ」**文渓堂、2011.

今の社会的風潮をもう一度考えようと問題提起している。私が考える保育の出発点は、子ども一人一人をしっかりと受け止め、信頼関係を築くことだと考える。その時、見た目の姿や行動で決めつけず「あなたはあなたのままでいいんだよ」と言う思いで保育する。一人一人を大切にする保育につながる絵本である。

このような保育を進めていくと、仲間を認め、思いやりの心が育ち、偏見のない目で世の中を生きていく大切さが理解できていくと考える。

3. 友達、仲良く、集団

コロナウイルス感染症等が流行し、現在は落ち着いてきたが、保育方法の見直しやまったく新しい方法等を行っていると考えられる。しかし、甘えとスキンシップ、コミュニケーションの大切さ、ひびき合いと信頼関係等、保育の基本となることは乳幼児期に体験し人格を形成してほしい願いは変わらないと思う。乳児の場合は、まだ“先生対自分”の関係が強いので、その発達に見合った保育計画を立てれば良いが、幼児期になると、友達、仲良く、集団生活の言葉が大きなウエートをしめる。

安心して園生活を送れるようになると、子どもたちは自分自身を素直に表現して来る。子どもたちの気持ちはいろいろであるが、甘えとスキンシップを表現する。寂しい時、嬉しい時、認められた時、先生に近づき、自分から手を握ったり、膝に乗ったりして接触して来る。とても大切な姿であるが、現在の保育現場ではどのように対処しているのだろうか。

私は絵本が好きなので、たぶん直接触れ合いがむずかしい時は絵本を活用して自分の思いを伝えるだろうと考えられる。保育って今育てたいと思っていることのねらいは園全体で一緒だと思うが、方法は各担任の個性と私は考える。身体を動かすことが大好きな保育者は、鬼ごっこやわらべ歌遊びなどを通して、友達関係や仲良く遊ぶ体験、集団の良さを伝えていけるだろう。また、絵画が得意な保育者はクラス全体で壁画や季節の絵など共同作業を経験しながらみんなと遊ぶ楽しさを伝えていけると思う。

◇　ここで経験に偏りがでるのではと考えた時、チームでできる保育環境があればと思う。時々クラス担任を入れ替えるという方法が取れると望ましい。さらに年長児合同保育とか、保育形態に幅を持たせ、結果として子どもたちは豊かな経験ができると考える。

4. 何を大切に育てるか

「誰とでも仲良く遊ぶ良い子」と社会性の発達に関してよく出てくる言葉である。子どもたちがかたまって遊んでいると、友達関係ができ楽しんでいるだろうと見てしまう。また、砂遊びなどで水を汲む子、砂山を作っている子、穴掘りをしている子の姿などを少し距離をおいて観察すると仲良く遊んでいる、役割分担をして遊べるようになった等。私のクラスは「誰とでも仲良く遊ぶ良い子」の目標通りに育っていると思いがちである。しかし、実際に大人が要求するよう身についているのであろうか。仲良しとか親切とか思いやりというのは簡単に身につくものではないのである。

「仲良し」ということが本当にわかる前に、仲間との接触、結びつき、トラブルにけんかという人間関係の経験が必要である。その経験から仲間意識が育ってくると考える。そこで、もう一度、本当に、子どもが仲間を認め、思いやりの心を持っていくためにはどうしたら良いかを考える必要がある。

◇認め合いと思いやり

認め合いや思いやりは言葉で指導できるものではない。感情的な動きからはじまるもので、人間的なかかわりの経験の中で子どもたち自身が気付いていくものである。つまり、保育者が意図しなくても子どもたちが受け止めてしまう伝わる教育である。伝わる教育とは、保育者と子どもたちが日々生活する中で、保育者の動きがいつのまにか子どもに伝わっていく働きのことである。まずは、保育者自身が子どもに対して、優しい気持ちで接することにより、子どもへ思いやりや認め合いの心が伝わる。保育者がモデルとなって子どもたちはいろいろなことを学んでいくことを保育者は常に忘れてはならないと思う。

◇日々の集団生活の中で

「伝わる教育」と同等に「伝える教育」も大切にしていかなければならないと思う。例えば各園で朝の会の時、毎日出席をとる。登園してきている子の確認はもちろんであるが、欠席している子が誰か、どんな理由で休んだのか、長期欠席している子がいた場合「○○ちゃん早く元気になるといいね」話題にし、クラスのみんな状態を知ってもらうことが大切である。日々の生活の中で繰り返されることにより、仲間への心が具体化されていくのである。

◇けんか

子どもたちは初めからみんな仲良しではない。ぶつかり合いは多分日常茶飯事であると思う。しかしこの経験が相手を認め本当の友達になっていくのだろうと思う。

この時の保育者の関わりが相手を思いやる心を育てていくのだと考える。この時、一人一人の事をどれくらい把握しているかによって、保育者の対応が生きてくるかどうかと思う。けんかは当たり前として放任は決してしてはいけないと思う。けんかが起きた場合、保育者は心の中で「認め合いや思いやりが育つぞ」と思い丁寧に対応してほしいと思う。たいていの場合、内気で大人しいタイプが被害者となり心に深く傷を負うことが多い。まず保育者は、いじめられてくやしい思いを言葉で「くやしい」と出させることが出来れば一歩前進である。次にクラスのみんなに「自分がその立場だったらどうか」と考えさせ、いじめ等をやっていた子どもたちに気づかせる。そして、嫌なことは嫌だと相手にはっきりと伝えることの出来る人間関係を幼児期にしっかりと作っていくことが大切である。

◇心身の不自由な仲間への心

統合保育ということで、心身の不自由な子どもたちが健常児の子どもたちと一緒に生活することが多くなった。その場合、心身の不自由な子に対し親切にしようという言葉を使いがちである。しかし最初から、障害をもった子どもに対し親切にしようと指導することは、その子を仲間として認めることになるのだろうか。大事なことは、どんなハンディがあっても、その子と本当につき合うことができるかどうかである。助けなければいけない、かばわなければいけないと、表面的に教えてしまうことは、「かわいそうね」という憐みの心を育ててしまう危険性すらある。

四肢の障害など目に見える不自由さを持っている子

どもの場合は、まわりの子どもたちもそれを理解してつき合うことができる。しかし、心的に障害をもっている子どもに対しては難しい。ここに保育者の支えが必要になる。

障害のある子どもたちを、本当に仲間として認めていく経験が幼児の頃からあれば、認め合いや思いやりは本物になっていくだろうと考える。

保育者の姿が保育の要になっていることが理解できると思う。

5. まとめ

今の社会情勢を考えながら、乳幼児期の教育の大切さ及び保育者の存在の大きさや大切さがいかに大きいものであるかを伝えたかった。乳幼児は、保育者をはじめ保護者や地域の大人等を教科書として「生きる力」を育む大切な時期である。大げさな表現をすれば、子ども達の一生を決めるかも知れない大切な時期に保育者として関わる誇りと自分磨きが大切であることを十分理解していただきたい。そのためにも、給料の面、人間関係、常に自分を磨くための時間的余裕の確保等が保証された、保育者が働きやすい職場環境であってほしいと思う。

最後に、３～５歳児を保育する場合、エプロンを外し子どもたちと思いっきり体を動かして遊んでほしいと思う。何度も言うようだが子どもたちは先生を鏡としさまざまなことを学んでいく。保育者は子どもたちにとってあこがれであり、理想像として心の中に焼き付くものであると思う。園庭で身体を動かして元気よく走り回る時ぐらいエプロンをはずしませんか。

以上のように保育者の役割は子どもたちの人生を決めてしまうぐらい大きなもので大切な存在であることが十分理解できたかと思う。

常に初心に戻り、考えながら、自分みがきに励んでほしいと願う。これは私自身に言っていることでもある。

参考資料
大場牧夫、鈴木勤、重松祥司.（1981）、集団の中で子供たちはどう育つか、世界文化社 .

長島輝子　　NAGASHIMA, Teruko
福祉学部　こども学科　客員講師

専門：保育者論
資格：幼稚園教諭 1 種免許状

宮代キャンパスの風景　春

保育士養成課程の授業「保育内容指導法 - 環境 -」および「こども（幼児）と環境」における認定こども園の園児参加行事の体験学習

杉　浦　広　幸　　短期大学部　保育学科　教授

1. はじめに

保育現場の多くで、環境を生かした保育に取り組んでいる [1, 2]。福島学院大学福祉学部こども学科および短期大学部保育学科では、5 領域の環境の授業「こども（幼児）と環境」および「保育内容指導法 - 環境 -」において、キャンパス内にある福島学院大学認定こども園のこどもが参加する行事を、ここ 3 年拡大している。

2020 年頃までは、環境を生かした保育の授業として、夏のお泊り保育を想定し、①ジャガイモを栽培してカレー作り、ハロウィンイベントを想定し、②ハロウィンカボチャを栽培してジャックオランタン作り、焼き芋イベントを想定し、③サツマイモを栽培して焼き芋大会、④芋煮会を想定して、サトイモを栽培して芋煮鍋作り、⑤団子刺しを想定し、サフラン・赤カブを栽培して団子用色素つくりと団子さしへの活用を実施してきた。これらの活動を保育で実践する件に関し、保育の参考図書にも紹介されている [3-5]。2020 年以前は、キャンパス内にある福島学院大学認定こども園の園児が参加する形でのこれらの行事は実施できず、あくまで子どもが参加する想定のシミュレーションとして学生たちだけで行っていた。

コロナ禍で認定こども園の行事の多くが中止された後、2022 年以後に行事が復活する中で学生が認定こども園の行事で子どもに接する体験学習ができる方向に舵が切られた。

2. 認定こども園の園児参加による農作物の栽培活動

福島学院大学の短期大学部保育学科では、2006 年から農作物の栽培や庭園を用いた学習を演習の選択授業「特別研究 - 子どもと園芸 -」で実施してきた。そこで、福祉学部こども学科及び短期大学部保育学科の必修授業「こども（幼児）と環境」「保育内容指導法 - 環境 -」で、「年長児とのサツマイモ栽培」（図 1．A）を 2022 年から、「年中児とのジャガイモ栽培」（図 2．B）を 202 年から、年少児との「ハロウィンカボチャ栽培」（図 1．C）を 2023 年から実施している。2022 年は定植と収穫のみで園児が参加し、それ以外は学生が作業・管理をする形式であった。しかし、2023 年は管理作業の一部も園児が参加するように拡大された。

農作物の栽培活動では、サツマイモの苗定植などの作業日が、1 日限りで限定されるため、授業日が 3 日間に分かれる学生の側は、園児と作業できるのが 1 クラスに限られることが問題である。また、こども学科の場合は前期が 2 年生の「こどもと環境」、後期が同じ 2 年生の「保育内容指導法 - 環境 -」で、サツマイモの定植・収穫とも同じ 2 年生の学生が一貫して担当できる。一方、保育学科では、前期が 2 年生の「保育内容指導法 - 環境 -」で、後期は 1 年生の「幼児と環境」であるため、本来は植えた学生が収穫も担当すべきとは思われるが、サツマイモとカボチャでは 2 年生が苗を植え、1 年生が収穫することになってしまった。

図 1　福島学院大学認定こども園の園児と保育学科学生による農作物栽培活動
A. こども園の年長児と保育学科 1 年 A クラス学生とのサツマイモ収穫（2023.10.27）
B. こども園の年中児と保育学科 2 年生 A クラス学生とのジャガイモ収穫（2023.7.13）
C. こども園の年少児と保育学科 1 年生 B クラス学生とのハロウィンカボチャの収穫（2023.10.13）

3.「環境」の授業での認定こども園の園児参加による行事の実施

1）ハロウィン

福島学院大学では、2017 年～ 2019 年に大学全体でハロウィンのイベントを実施し、認定こども園以外の子どもも含めて広く参加差を募集する形式で実施していた。しかし、2020 年のコロナ禍で中止し、2021 年に保育学科 1 年生の授業「幼児と環境」1 クラス分で、認定こども園の年少児を招いてハロウィンを実施した。翌 2022 年には、認定こども園の全園児を対象に、また招待する側の学生についても「環境」の授業がある全学生（保育学科 1 年 2 クラス、こども学科 2 年生）が参加する形式で、園児は年長、年中、年少 + 未満児に分け、学生はこども学科 2 年生、保育学科 A クラス、保育学科 B クラスに分かれ、3 日間に分けて実施した。こども園の園児は保育教諭のもと、手作りのコスチュームを用意し、キャンパス内の学生たちが作成したジャックオランタンをディスプレイした大学の 2 か所の建物をクラスごとに訪れた。コスプレをして周囲に誘導する学生が配置され、建物の中にはお菓子を配る学生待機し、園児が「お菓子くれなきゃイタズラするぞ！」

図 2　福島学院大学認定こども園の園児と学生によるハロウィン
A. こども園の未満児とこども学科 2 年生（2023.10.25）
B. こども園の年中児と保育学科 1 年生 A クラス学生（2023.10.30）
C. こども園の年長児と保育学科 1 年生 B クラス学生（2023.10.31）

というと、学生が「Happy Halloween ！」と言って中から出てきてお菓子を、2 か所の建物で配った（図 2）。全園児が参加でで、また特定のクラスだけでなく全対象学生（環境の授業受講生）が招く側の体験ができる形式が、ほぼ確立した。そのため、今後も継続して実施できると思われる。

2）リンゴ狩り

福島学院大学宮代キャンパスではリンゴが栽培されており、以前から認定こども園の園児（コロナ禍以前は保護者同伴）がリンゴ狩りをしてきた。同キャンパスがリンゴ園を買収・造成してキャンパスにした際に、リンゴの木を残したものを活用しており、栽培管理は外部の業者委託である。そのため､リンゴの栽培管理に、学生は参加していない。そのため、2022 年まで、認定こども園の行事としてのリンゴ狩りに、学生ボランティアが参加する形式をとってきた。2023 年から「環境」授業として、学生が子どもの付添として参加する形式にした（図 3）。行事としては、全園児が参加する行事であるが、午前中の 1 日で完結するため学生の参加は 1 クラスに限られた。2023 年度は、こども学科 2 年クラスの参加であった。園児は学年単位に 30 分ずつリンゴ園に来場し、学生が園児にマンツーマンで付き添う形式とした。園児は学年ごとに人数が変化するため、未満児など人数が少ない小さな子の学年では学生が余り、年長児など人数の多い大きな学年では学生が不足する問題点があった。

図 3　福島学院大学認定こども園の未満児とこども学科学生によるリング狩り（2023.11.22）

3）団子刺し

団子刺しは、北日本における小正月の行事で場所により「眉玉飾り」とも言われ、福島県でも積雪の多い会でも行われてきた。保育学科の選択授業「特別研究 - 子どもと園芸 -」では、2005 年の開始初年度より実施してきた。団子の材料は市販の米粉を用いるが、着色の色素として緑はキャンパスに雑草として生えるヨモギ、赤は学生が栽培した赤カブの皮、黄色はキャンパス庭園に植えられているサフランのめしべ、紫はキャンパスで栽培されているブルーベリーを用いてきた。学生による色水・スライム作り的な活動で、子どもの参加はなく、保育学科学生のみでの実施であった。そこで、2023 年度（2024 年 1 月）は、学生が作った団子を、認定こども園の年少児が枝に刺す形式で実施した（図 4）。今回は、積雪も予想される冬季であったため、園児が園外へ移動しなくてもよいように、こども園内で実施することにした。学生が、授業の中で前日までに種々の色の団子を作成・冷凍しておいた。一方、園児は保育教諭の指導のもと、手作りの飾り（紙製の小判・鯛）を作成していた。当日の朝に学生が団子を解凍し、刺すための枝とともに、こども園の遊戯室へ運搬し、準備した。行事は 1 日で完結のため、園児と活動できるのは、1 クラスに限られた。

4. 考察

保育所保育指針における 5 領域「環境」[6] についての内容を読むと、栽培活動や行事の実施により、多くの項目を子どもに体験させることができる。栽培活動は自然に触れることになり、団子刺しは文化や伝統に親しむことになるなど、その 10 項目の多くを体験することができる（文部科学省）。また、保育現場の多くで栽培活動が実施されており、その実施に保育者らも前向きである [7,8]。農作物の授業における認定こども園の園児との共同行事では、農作物の栽培活動を取り入れた。農作物の栽培については、子どもが窒息や食中毒を起こす恐れから収穫物を食用とする行事は縮小されるかもしれないが、栽培自体は今後も継続されると思われる。これらの体験を､授業の中で実施するにあたり、趣味レーションではなく実際に認定こども園の子ども

図 4　福島学院大学認定こども園の年少児と保育学科 1 年生による団子差し（2024.1.19）
A. 学生が用意した団子を選ぶ園児
B. 団子を枝に刺す年少時
C. できあがった団子差し

と体験することは、保育現場を前倒しで体験することになり、有意義と言えるであろう。

5. おわりに

2022 年度から、本格的に認定こども園の園児が参加する形式で「こども（幼児）と環境」「保育内容指導法 - 環境 -」において環境を生かした保育の体験授業が実施できたことは、授業の質が向上したと言えるであろう。こども学科の 2 年生及び保育学科の 1 年生は、2 と 3 の行事に参加するにあたり、まだ基本実習すら体験していない学生が多いことから、園児を前にしてどう対応していいかわからず困惑した様子も見られた。しかし、マンツーマンでの作業が開始されると、学生らはここに園児に話しかけながら対応できていた。ただ、実習などで園児より学生の方が少なくなった状況では、複数の園児に対応できる学生もいたが、一人になってしまう園児も出てしまい、現職の保育教諭に対応してもらう必要があった。また、参加する学生には、具体的に個々に何をしたらいいか、事前の詳細な指示が必要であるため、業務分担表を作成して学生らに割り振る必要があった。さらに、行事において学生がいくつかの担当に分かれる場合、状況により人手が余る業務と不足する教務で、柔軟な業務変更が必要な場合があり、担当教員の現場での指示が必要であった。

参考文献
1）杉浦広幸．幼稚園・保育所における園芸・農業活動活性化のための子どもの興味と職員の考えについて
2）杉浦広幸．農地・緑地の利用についての幼稚園・保育所の現状と保育専攻学生の考えについての研究
3）青木久子．環境生かした保育「春」2006．チャイルド社（東京）
4）青木久子．環境生かした保育「夏」2006．チャイルド社（東京）
5）青木久子．環境生かした保育「秋」2006．チャイルド社（東京）
6）文部科学省．保育所保育指針．2013.
7）杉浦広幸．保育者養成教育での園芸・農業の授業への学生の取り組みと評価（原著論文）．園芸学研究 8 巻 2 号 P243 ～ 247.2008.（査読有）
8）杉浦広幸．福島学院大学の園芸療法講座における野菜圃場・庭園への受講生の理解（大学紀要）．福島学院大学研究紀要，40 集 67-73.2008.（査読有）

杉浦広幸　　SUGIURA, Hiroyuki
短期大学部　保育学科　教授
博士（農学）

専門：園芸学、環境学
資格：劇物毒物取扱取扱主任者（一般）、農業改良普及員
免許：4 級アマチュア無線士

学生の保育を評価する力の向上を目指した授業実践

～認定こども園での絵本の読み聞かせの学生同士の相互評価の取り組みをとおして～

保育学科読み聞かせプロジェクトチーム

佐　藤　博　英　短期大学部　保育学科　講師
宍　戸　和　博　同　講師
鈴　木　智　子　同　准教授
安　田　い　つ　美　短期大学部　情報ビジネス学科　講師

1　はじめに

幼児教育における「保育の質」の向上を求める声は、近年、世界的に高まってきているところであり、2012年には、ＯＥＣＤ(経済協力開発機構)が、「保育の質」を向上させる有効な手立てとして、五つの政策手段を提言していることからも、そのことが窺える。

一方、日本に目を向けてみると世界的な幼児教育の重要性が高まる流れからは、やや遅れを取った感が否めないが、深刻な少子化や不適切な保育の顕在化などといった、負の要因にも押される形で、やはり「保育の質」を問う声が社会的に非常に高くなってきている。

そのような社会的な情勢の中で、本学のような保育士及び幼稚園教諭の養成機関に対し、当然のことながら、質の高い保育ができる保育者をより多く育成し送り出してほしいという、保育現場からの要請が強くなっているのは確かである。その責務を果たすためには、学生自身がどのようにすれば、質の高い保育ができるようになるのかの道筋を示す必要があるであろう。その最初の段階として、学生が自身の保育をどう「評価」すれば良いかということに着目して、取り組みを進めることにした。

2　保育の評価についての現況

(1)　幼稚園教育要領解説等において

現行の保育所保育指針解説だけは、保育士の自己評価を中心に保育の評価を行っていくという形になっており評価の特徴が異なっているが、幼稚園教育要領解説と幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説は統一されている。評価に該当する内容としては、以下の二つの箇所が特徴として挙げられる。

①幼稚園では、行動の仕方や考え方などに表れたその子らしさを大切にして、一人一人の幼児が、そのよさを発揮しつつ、育っていく過程を重視する必要がある。その際、幼児は自分の心の動きを言葉で伝えるとは限らないため、教師は身体全体で表現する幼児の思いや気持ちを丁寧に感じ取ろうとすることが大切である。

②幼児一人一人のよさや可能性などを把握していく際には、教師自身の教育観や幼児の捉え方、教職経験等が影響することを考慮する必要がある。そのためにも、他の教師との話し合い等を通して、教師は自分自身の幼児に対する見方の特徴や傾向を自覚し、幼児の理解を深めていかなくてはならない。

以上のことから幼児の保育における評価では、保育者自身の子どもの行動や表情を見る眼、そして , そこから子どもを理解する能力が求められているということが理解できる。

大型絵本の読み聞かせと評価者（矢印）

(2)　最近の新しい保育の評価の考え方

①　説明責任を果たせる評価

山本睦（2021）は、「評価が目指していることは、＜意識化・体系化・明確化・共有＞であり、主観や「なんとなく」ではなく、他者が見ても分かる、根拠＝エビデンスが伴っている、そして説明責任が十分果たせるような評価を、保育活動に取り入れて行う」ということを主張している。そして、その方策として以下の３つのコツを提起している。

コツ１　指導計画のねらいを「到達目標」の水準にする
コツ２　省察につながり、数値化できる記録をとる
コツ３　感想ではなく、省察が書けるようになる

到達目標や数値化という文言から、保育の評価としては、より教育的な評価に踏み込んでいるという印象が持たれるが、これは、あくまで保育者自身の保育を評価するエビデンスを得るための、幼児を観察する客観的指標という扱いと筆者は理解した。

②　保育の質を高めるためのアセスメント

汐見稔幸 (2023）は、従来、保育の世界で常識のように言われてきた「人（子ども）の内面を本当に理解する」ということを否定した上で、『子どもは一人ひとり違っていて、伸びる時期も伸び方もそれぞれ違っている。だから支えどきも、支えるポイントも、支える方法も千差万別。今は励ますべきところか、静かに見

サンタクロースによる導入

守るべきところか、それともアドバイスをするか、環境を変えるのか、少し手を貸すべきなのか、そういうことを少しずつ理解していく過程が「子ども理解」だといえるのではないか。そして、その「子ども理解（＝支え方）」が適切だったかどうかを振り返って判断するすることを含めてアセスメントである。』と主張している。また、保育者自身の支え方は振り返るが、毎日変化していく子どもたちをチェックリストを使って捉えることをすれば、形式的で画一的な保育になってしまうということも指摘している。

③　保育者同士が語り合うカンファレンス

小玉亮子（2020）は、『近年では保育カンファレンスとして、保育を語り合うなかで、結果ではない過程から生まれる考察を重視するようになってきている。就学前の子どもの遊びや生活は、その日のねらいに基づいて展開されているが、その成果はみえにくい。成果よりも、過程のなかで学んでいることを明確化するほうが、保育の特質に見合った検証となる。（中略）つまり、参加者全員が対等な立場で、誰もが語りやすい環境のなかで行うことが大切である。』と主張している。

前述の３つの保育の評価に関する方法は、一見、全く方向性が違っているようにも感じられるが、その中でも共通していることは、子どもを良く観察し、保育者が自身の保育を省察するために、できるだけ精度の高い情報を得ることに努力しなければならないということであろう。この３つの考え方以外にも、全国の幼児教育・保育施設において、新しい保育の評価の試みがなされているところであり、今、全ての保育者が自身の保育の評価について、見直しを求められている時期にきているのではないかと考える。

3　学生の保育の評価に対する考え方の傾向

ここで、現在の本学の学生に目を向けて見てみると、施設実習Ⅰ（児童福祉施設・保育所）、保育実習Ⅱ（保育所）、保育実習Ⅲ（児童福祉施設）、教育実習を終えた２年生が、後期の授業の中で声にすることが多いのは、子どもたちや同僚の保育者との良好な人間関係の構築の重要性であり、また不安に感じていることは、保育現場に出てから保護者と円滑にコミュニケーションが取れるかどうかということである。生まれて初めて、強い緊張感を伴う人間関係の中で過ごした実習の経験により、学生の中には、他者との関係性が特に重要であるという感情が、強く印象づけられたということは頷けるところではある。しかしながら、信頼できる人間関係だけに学生が目を向けているということでは、４月から保育現場に立つ上で心許なく感じてしまうところがある。やはり、保育者としての第一は良質な保育ができることであろう。そのためには、自分の「保育の営み」を適切に解釈し評価できなければ、保育者として日々の保育を続け、その質を向上させていくということもできないはずである。もし、「今日の保育がうまくいかなかった」と感じたのなら、何がよくなかったのか、環境の設定か、はたまた保育者の支援の仕方か、それとも根本的な保育のねらいや内容が、子どもたちの興味や発達にそぐわなかったのかなど、自身の保育を省察し改善していくことが、保育者に求められる保育という仕事の本筋であることは、入学以来いくつかの授業科目の中で学修し確認してきたことであったはずである。にもかかわらず、良質な保育ができるようになるということに目が向いている学生が少ないのは、保育を見る眼やその見方が育っていないからではないかと考えられる。

筆者の授業科目も含め、多くの大学の授業科目で行われている模擬保育においては、どうしても本当の子どもの反応というものを見て保育の善し悪しを判断するということはできないという欠点があり、また、実習で見せていただく指導担当の保育者の保育については、指導の先生の保育は基本的に良いものというバイアスが、実習生側に自然にかかった状態で見ているであろうということが推測できる。

こういったことを解消するためには、同じ立場の学生同士で行う保育を互いに見合い、評価し合うということが必要なのではないかと考えた。学生が、絶えず自分の見方を相対化し，自らの内面を変容させながら、自己の保育実践や保育環境を多面的に検討し、子どもたちがどのような反応をし、保育者の支援のどこが良くてどこが問題なのか、批判的な目を持って観察すること、また、自分の保育の批判を受けた学生は、受けた批判を基に自身の保育をより客観的に省察し改善点を発見できるようになるものと考え、学生同士での幼児に対する絵本の読み聞かせを相互に見合い評価し合う取り組みを行わせることにした。

なお、この取り組みは、令和４年度から本学で始められた、保育学科の読み聞かせプロジェクトとして推進し、今年度は筆者の「保育・教職実践演習（幼稚園）」の授業の一環として行うことになった。そして、４名の教員の専門性を生かし、役割分担と協力体制のもとでチームで研究的に進められた。

4　取り組みの実際

(1) 事前指導による共通理解

本学認定こども園で読み聞かせを始める前に、授業の１コマを使って、保育学科２年の学生全員を対象に事前指導を行い、当該プロジェクトについて共通理解を図った。

宍戸講師からは「ねらいと選書」について、鈴木准教授からは「子ども一人一人に対しての配慮など」についての講話が行われた。また、安田講師からは読み聞かせの基礎的なスキルアップのための演習を、佐藤講師からは当該プロジェクトを実際に実施する上での留意事項等の指導が行われた。

(2)　学生が行う相互評価の観点の作成

始めに３名の教員より、それぞれの専門の立場から、学生が互いの読み聞かせを評価する上で必要と思われる観点の提案が以下のようになされた。

①　「ねらいと選書」に関しての観点
　　宍戸和博講師

○　保育者が意図をもって絵本を選定しているか。
○　保育者が子どもたちに絵本で伝えたいこと、想像を広げたい場面を明確にした上で、読み聞かせの場（導入など）がつくられていたか。
○　保育者が絵本の想像を広げたい場面を共有できるような、読み聞かせの工夫がなされていたか。（朗読型、対話型、パフォーマンス型）

②「子ども一人一人に対する発達などへの配慮」から
鈴木智子准教授

○　保育者と子どもたちの両方にとって、読み聞かせの時間が喜びの時間として感じられるものとなっていたか。
○　絵本のテーマ、主人公や登場人物が、聞き手の子どもたちの年齢に合い親しみが持て、同化して楽しめていたか。

③「読み聞かせの技術的な面」から
安田いつ美講師

○　保育者が聞き手の子どもたちを意識して目線を上げているか。
○　保育者がお話の世界観を表現できているか。

計７つもの評価の観点を、１５分程度の読み聞かせの時間で学生が評価することには無理があると考え、共通している内容などを合わせる形で、以下の４つの観点（学生の相互評価の観点）に整理した。また、学生が評価する際に、子ども、保育者、絵本の３つを評価の対象として捉えやすいように、評価票の左側に明示することにした。

(3)　読み聞かせと評価の方法

読み聞かせは、３～４名で構成したグループにより実施した。前述の４つの評価の観点をもとに、２名の学生の評価者が､「Ａ（特に優れている）」「Ｂ＋（良い）」「Ｂ（普通）」の３段階で評価を行い自由記述も記入して、２名の読み聞かせ実施者に示し、省察、改善点の事後の話し合いを行わせるようにした。数週間後には、役割を交代して２度目の読み聞かせを実施するように計画した。

読み聞かせを行う本学認定こども園のクラスは、以下の８クラスで、２回の読み聞かせで同一グループが、同じクラスに入らないように、また年齢ができるだけ近いクラスとならないように配当した。

２歳児クラス・満３歳児クラス　：各１クラス
年少クラス　：　２クラス
年中クラス　：　２クラス
年長クラス　：　２クラス

学生の相互評価の観点

子ども	Ⅰ　保育者と子どもたちが一緒に読み聞かせの場をつくり、共に喜びを感じることができていたか。 （保育者と子ども、子ども同士の姿、子どもの視線・表情・つぶやきなど）
保育者	Ⅱ　保育者が子どもたちを意識して、目線を上げて読み聞かせをしていたか。
絵本	Ⅲ　保育者が絵本の想像を広げたい場面を明確にして、子どもたちと絵本の世界を共有して楽しめるような工夫や表現が見られたか。 （朗読型、対話型、パフォーマンス型など）
子ども	Ⅳ　絵本が子どもたちの年齢･発達に合い、テーマ、主人公や登場人物などに親しみを感じることができたか。 （お話に対する子どもたちの反応や印象など）

大学の教員は、事前に学生が作成した指導案とグループでの省察の後にまとめたシートに、付箋・朱書き等で指導を行い、その後の読み聞かせ等に生かせるよう配慮した。

5　学生の観点をもとにした評価と省察・改善点の記述内容の分析

(1)「Ａ　Ｂ＋　Ｂ」の３段階評価から

学生の評価の全体的傾向を見るために、便宜的にＡを３点、Ｂ＋を２点、Ｂを１点という点数を割り振って、評価の観点別やクラスの年齢別に平均を出したり、特に「Ｂ＋」と「Ｂ」と批判的な評価をした人数を集計したりして分析を行った。

①　観点Ⅰ～Ⅳの学生が行った評価の比較

まずは、学生全員が行った観点Ⅰ～Ⅳの評価の平均点を出してみると、以下の表のようであった（表１）。

表１　観点Ⅰ～Ⅳにおける学生の評価の平均

観点	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	全体
平均	2.75	2.75	2.54	2.57	2.65

全体の評価の平均が「2.65」であり、ＡとＢ＋の中間でＡに寄っているということが分かる。また、観点ⅢとⅣの評価の平均が、観点ⅠとⅡの評価の平均と比較して低くなっているが、これは、年齢別のクラスごとの平均においても、概ね同じ傾向が見られた。

また、この取り組みでねらいとした学生が批判的な評価ができるかどうかを見るために、「Ａ」という評価ではなく、評価を「Ｂ＋」と「Ｂ」とした人数の合計を調べてみたところ、以下の表２のような結果となった。

表２「Ｂ＋」または「Ｂ」の評価をした学生の人数

年齢別クラス	観点Ⅰ	観点Ⅱ	観点Ⅲ	観点Ⅳ
２歳・満３歳	2	1	10	5
年少クラス	8	7	8	11
年中クラス	3	3	7	7
年長クラス	5	4	5	3

観点ⅠとⅡよりも､観点ⅢとⅣで評価を「Ｂ＋」と「Ｂ」と付けていた学生が多いが、年齢の高いクラスになるに連れて、その傾向は小さくなっている。特に５歳児の年長クラスでは、観点Ⅳにおいてその人数が最少となった。

このことが、何を意味しているのかを考えてみると、そこには様々な要因が関わっており、明確に断定することはできない。ただ、観点の表現から学生が受ける印象の問題が、大きく関わっているのではないかとは推測できる。観点Ⅰでは、「一緒に読み聞かせの場をつくり、共に喜びを感じる」、Ⅱでは、「子どもたちを意識し、目線を上げて読み聞かせ」というように、読み手の保育者と聞き手の子どもたちの、表に現れた「喜び」や「目線を上げる」という表情や行動を見取ることを評価者が強く意識することで、評価が決定しやすくになったのではないかと考えられる。それに対して、観点Ⅲでは､「絵本の想像を広げたい場面を明確にして」「絵本の世界を共有して楽しめる」というように、Ⅳでは、「年齢・発達に合い、テーマ、主人公や登場人物などに親しみを感じる」という表現となっている。これらはいずれも、子どもたちの内面を保育者が捉えられるかどうかということに依拠するため、読み手や聞き手のどんなやり取りや、発言、つぶやき、表情によって評価すればよいのかが、評価者にとって捉えにくい状態だったのではないかと思われる。

評価の観点の表現に関するの要因の他に、幼児の年齢の違いからくる反応の大小、選んだ絵本が幼児の発達に合っていたかどうか、読み手である保育者の読み聞かせのスキルの高低など、複数の要因が複雑に絡み合った結果として現れた数値であるということは、踏まえておくべきであろう。

学生が同じ立場の学生が行う読み聞かせを直接見たときに、まだまだ絵本の読み聞かせの仕方が上手だから単純に「Ａ」とする学生も多いが、そうした中で結論として一つだけ言えることは、読み手の保育者の姿や聞き手の幼児の姿を観察して、心の中で様々が葛藤が生じ、いろいろと迷いや思いがめぐった結果として、批判的な評価に行き着いたという学生も出てきたと言えるのではないだろうか。

そうした学生の心の中に浮かんだものを捉えるために、自由記述の分析を行うことにした。

〔文責　佐藤〕

(2) 自由記述の分析から

①　頻出語

テキストマイニング分析の手法により、学生の記述した「省察」「改善点」、「評価」の自由記述データをKH Coder（樋口,2014）を用いて形態素解析を行った。記述統計量として、総抽出語数は 8,928 語（使用語数 ;3,104 語）、異なり語数は 800 語（使用語数：570 語）であった。なお、今回の分析では、名詞、固有名詞、組織名、人名、地名といった品詞は除外した。理由としては、ある絵本（物語）に固有の名詞、もしくは特徴的な名詞は、絵本の読み聞かせにおける学生の意識

2 歳児クラスでの読み聞かせ

評価の観点を基に評価する学生

子ども達の目線の高さに合わせて読み聞かせする学生

の傾向を分析するには、あまり関係がないと判断したからである。分析の結果、出現頻度が高い上位 20 語の頻出語リストを表 3 に示す。

出現頻度の高い単語について、読み聞かせを実践した学生と観察、評価した学生の記述には共通するものが多い（20 語中 14 語）ことが分かる。共通する出現頻度の高い単語の中で、「子ども」「読む」「思う」「絵本」が上位に位置付いている。しかし、これらの単語は、読み聞かせという実践及び記述内容の性質上、必然的に多用される表現であり、分析においては頻度の高さが回答における単語の重要度とは必ずしも一致しないと解釈するため、直接の分析対象からは除外した。

これら以外には「良い」「見る」「声」「手遊び」「工夫」「導入」「内容」「集中」「楽しむ／楽しい」「合わせる」が共通する頻出語として挙げられており、これらの語群は、子ども集団への読み聞かせにおいて多くの学生が注視する要因と関連したものであると捉えられる。そこで、表 3 に登場した頻出語を基に、学生が注視する要因の類型化を試みる。

まず「導入」「手遊び」「工夫」「声」「大きい」「聞く」といった語群は、「絵本の読み聞かせの方法や技能」に関連した要因と結び付いている。例えば、「導入」「手

表 3　学生の自由記述から抽出された頻出語（上位 20 語）

	「省察」「改善点」		「評価」	
	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
1	子ども	112	子ども	84
2	絵本	94	思う	45
3	思う	62	読む	44
4	読む	58	絵本	43
5	見る	38	良い	30
6	手遊び	29	見る	26
7	反応	25	聞く	26
8	声	24	声	19
9	問いかける	23	楽しい	17
10	工夫	19	手遊び	17
11	導入	19	導入	14
12	感じる	17	集中	12
13	内容	17	内容	11
14	考える	16	大きい	10
15	良い	15	様子	10
16	集中	14	楽しむ	9
17	世界	14	合わせる	9
18	楽しむ	13	工夫	8
19	行う	12	持つ	8
20	合わせる	12	目標	8

遊び」は「よい読み聞かせ」を成立させる要因の一つであるが、絵本の内容に対する子どもの興味や関心を喚起し、期待をもって絵本の内容を楽しめるように語りかける、あるいは集中させるためには、専門的な知識や技術を要する。出現回数が上位であることからは、学生が「導入」の展開や「工夫」の仕方について課題として感じていること、「導入」においては「手遊び」等の活動から、読み聞かせが始まることが望ましいと意識化、または重要視していることが窺える。

「声」「大きい」「聞く」といった語群からは、音声表現的要素に関する方法や技能への着目が焦点化されていることが分かる。絵本の読み聞かせは、主に絵と言葉（音声言語）で表現される。そのため、保育者の音声による言語表現の方法や技術は、実践上の要件として占める位置づけも大きい。「声」という語に着目し、この語が出現する代表的な記述例を以下に示す。なお、下線は稿者によるものであり、以後、学生の記述の引用については同様とする。

〔評価者〕
「聞きやすい声でハッキリ読んでいてよかった。」
「声のトーン、明るさはとてもよかった。」
「声の強弱により、この絵本の面白さがもう少し印象的になるとよかったのでは？」
〔実践者〕
「登場人物に合わせて、声のトーンや読む速さをもっと変えれば、更にメリハリのある読み聞かせになると感じた。」
「子どもたちが聞きやすいようにゆっくり話して大きな声で読めば良かったと思います。」

評価者、実践者ともに、学生の記述には「声の大きさ・明瞭性」「速さ」「会話の工夫・声を変える」等の読み聞かせの技能に関連する語が挙げられており、このことは、発音が明瞭で適当な読みの速さ、声に抑揚があるといった、これら条件を満たす読み聞かせが子どもの物語理解を促進するという学生の認識に基づくものと考えられる。また、「声」の大きさ、強弱、トーン、聞きとりやすさといった聴覚的要素に関わる視点は、読み聞かせの評価の視点としての捉えやすさや判断の基準としてのわかりやすさがあり、学生の技能向上に関わる要素としても認識しやすいものであったと解釈できる。

二つ目の要因として、「反応」「様子」「見る」「集中」「目線」「合わせる」といった語群から、「読み聞かせにおける子どもの反応」と「子どもの参加への保育者の対応、働きかけ」への注視が抽出できる。「反応」という語を含む記述例として、以下が挙げられる。

「子どもたち一人一人の顔や反応を見て進めることができたと思う。」
「絵本の笑うところで子どもたちが反応を示してくれて、楽しんでいる様子が見られた。」
「絵本の表紙、裏表紙がつながっていることに子どもが気付いて、呟いたときにすぐ気付いて反応していた点が良かったと思います。」
「立って絵本を触る子がいたので、どんな反応をすれば適切か分からなかった。」
「子どもたちの反応がうすくなってしまった。絵本を読み終わった後、子どもたちに対しての反応がうまくできなかった。」
「子どもたちの反応をもっと予想してそれに対しての声かけを考えておくべきだった。」

ここから「反応」につながる語として、「見る」「様子」との関連が見られる。また、「反応」という語も、読み聞かせを聞いた子どもの反応（reaction）に対するものと、読み聞かせにより生じた出来事や子どもの動作などに対する学生のコミュニケーションや動作などの応答（response）といった二つの評価対象が存在している。この点から、改めて学生の記述例を見てみると、学生は捉えた子どもの反応によって、自分の反応を振り返り、読み聞かせの成否を評価していると言える。ただし、学生の実態として、様々な子どもの姿をイメージすることは難しく、自分の期待していた反応と異なる子どもの姿を捉えたときに、戸惑いを感じていると推測される。

また、「集中」という語に着目すると、より良い読み聞かせに対する幼児の反応（reaction）について、学生の評価の判断として「集中」という語が位置づけられている。聞いている子どもの様子から、「集中」している、「集中」していないという子どもの状態を捉え、読み聞かせの成否を評価することにつなげている。

肯定的評価
「季節に合っていたし、子どもたちも最後まで集中して見ていたので、とても良い読み聞かせだったと思います。」
「子どもたちが自然と物語の世界に入り、想像できるように読むという点は、子どもたちが集中して聞いていた様子があったので良かった。」
「子どもたち自身楽しんでくれていたので良かったと思いました。絵本にも集中して、聞いてくれていたので　絵本の世界に入り込めていたと思います。」
否定的評価
「子どもたちの集中が最後まで続かなかった。」
「絵本にあまり集中していない子どもたちがいたため、 絵本の世界に引き込む工夫が必要だと感じた。」
「本が斜めだったため、子どもたちからは見づらかったと思った。手遊びを子どもたちが最初に集中して見られるようなものに工夫したら良くなると思った。」

さらに、反応を見取る方法や応答（response）の手段としての「目線」「合わせる」が位置づけられる。

「子どもたちの目線に合わせて、様子を見ながら読み進めていた。子どもたちも集中して絵本に夢中になっており、反応も良かった。」
「手遊びや絵本の読み聞かせでは目線を上げ、子どもたちと目を合わせながらできたので、良かったと思いました。」
「目線を上げたり、子どもたちの様子をみて臨機応変に対応していて良かった。」
「目線を向けながら読んでいて、子どもたちも絵本に夢中になって見ていた。」

これら学生の記述を見ると、奥山・香曽我部（2008）が指摘するように、「目線」及び「視線」という非言語的な働きかけが幼児の集中力を途切れさせることなく、また、集団の中にあって個々のもつイメージを喚起する重要な実践であることが窺える。奥山ら（2008、2014）は、絵本の読み聞かせの活動においては、保育者と子どもとの間に「視線」を用いた相互作用が行われ、その保育者の「視線」が幼児たちの絵本の想像世界との共有化を図る一つの手立てとなっていることを示している。

この、「目線」という語については、教員側で提示した評価票にも「子どもたちを意識して、目線を上げて」と記された観点であり、多くの学生に共通して認識された要素であると解釈できる。ある学生の記述には、「導入の問いかけでは、子どもたち一人一人が自分に話しかけられると思えるよう、目線を合わせることを意識しました。」という記述内容が見られるよう、読み聞かせにおいて意図的な注視が重要であると考えていることが見て取れる。

三つ目の要因としては、「良い」「感じる」「楽しむ」「考える」という語群から「読み聞かせ体験における保育者（学生）の内的過程」「読み聞かせに対する保育者（学生）の認識」に関わる要因が抽出できる。

「良い」「感じる」「考える」といった語には、実際の子どもたちと対峙しての読み聞かせ実践を受けて、そこからの学びや感想、反省を述べたり、実践とねらいとの関係について思考、考察したりした結果として表記されている。以下に記述例を示す。

「もっと絵本の世界に引き込むように大きな声で読み聞かせをしたり、語りかけるように絵本を読み聞かせできたら良かったと思いました。」
「長いお話で飽きていたので場面ごとに気持ちが入り込めるように緩急をつけると良いと感じた。」

上記の記述例のように読み聞かせ実践を振り返り、自己の実践を批判的に捉え、内容を述べる学生が多かった。また、「子どもたちの反応をもっと予想してそれに対しての声かけを考えておくべきだった。」という記述から、子どもの姿を想像、想定した上で、自己の実践を省察し、改善しようとする思考や態度の萌芽が見ら

れると解釈できる。

一方で、「楽しむ」という語に着目すると、「子どもたちと一緒に絵本を楽しんで読むことができた。」「クリスマス間近ということで、子どもたちも顔を見合わせながら笑顔で楽しんでいて良かったと思います。」といった記述に代表されるよう、実際に絵本の世界に歓びを感じる子どもの姿に触れ、絵本の価値、並びに読み聞かせに対する意義や理念を実感している姿が表出されている。

②　共起ネットワーク

実践者と評価者の抽出語の関連を視覚的に把握するために、「評価者」と「実践者」を外部変数とし、上位 50 語を対象として指定した共起ネットワークを作成した（図 1）。共起ネットワークとは、言語を定量的に解析する手法の一つで、単語同士の関連性や出現パターンの類似性を踏まえて文章中の単語の繋がりを可視化したものである。これにより言語間の共通点や相違点を評価することができる。

図 1 中の「評価者」について概観すると、読み聞かせの評価に関する特徴的な語としては「大きい」「スピード」「トーン」「目線」「見える」「楽しい」等が挙げられる。

一方、「実践者」の省察、改善における特徴的な語としては、「感じる」「考える」「難しい」「興味」等が挙げられた。共起ネットワークでみると、評価者と実践者に共通する語として「手遊び」「声」「見る」「良い」「導入」「反応」「工夫」等が挙げられた。

以上の出現語の特徴から、共通する語について分析をすると、学生は、「絵本の読み聞かせ」に関する学びの視点を十分に備えていることが分かる。「導入」「手遊び」「内容」「反応」「世界」「（目線）合わせる」「（年齢・発達に）合わせる」「工夫」といった語は、今回のプロジェクトの取り組みの中で、事前指導として学生に提示した内容と合致する部分が多い。つまり、学生の記述内容は「評価票」とつながるものであり、学生が実践する

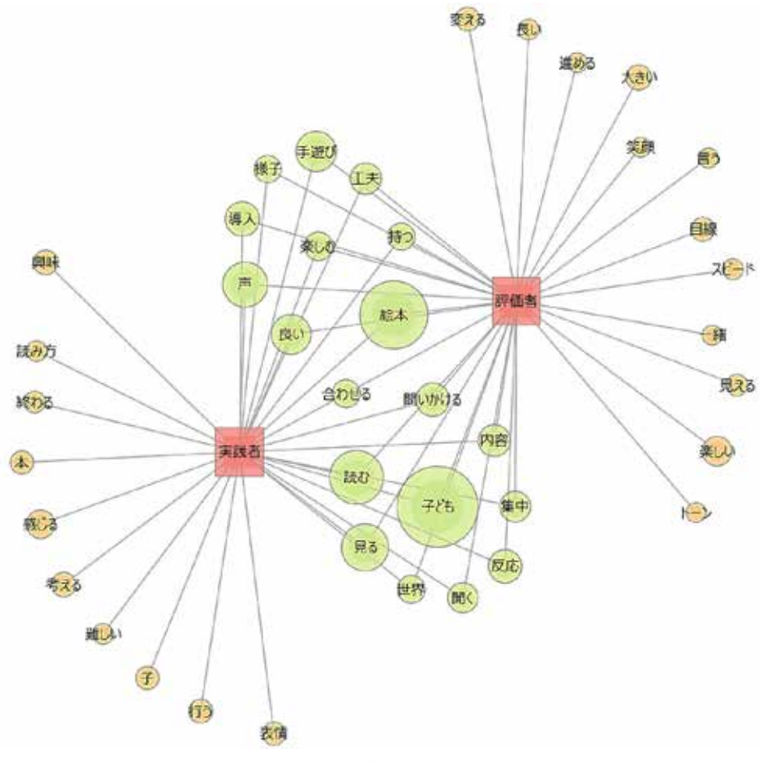


図 1　実践者と評価者の記述の共起ネットワーク

る際の方向性を示すものとして機能したことが窺える。次に、「評価者」の特徴的な語に着目すると、「目線」「スピード」「大きい」といった読み聞かせの技法や方法、技術的な内容と関連する語が特徴として目立つ。特に、読み聞かせの方法や技能において聴覚的要素である声の「大きさ」、「スピード」、「トーン」といった要素は、実践者には自覚されにくい一方で、評価者にとっては評価や判断がしやすく、外部の情報として評価やコメントを即時的にフィードバックすることが可能な要素であるということが推測される。

そして、「実践者」に特徴的な語として抽出された語は、既述した頻出語の分析において導き出された要因である「読み聞かせ体験における保育者（学生）の内的過程」や「読み聞かせに対する保育者（学生）の認識」の深まりに関連する表現である。学生の書いた「子どもたち自身楽しんでくれていたので良かったと思いました。」という記述に見られるように、学生は絵本の読み聞かせを行いながら、＜楽しそうな子ども＞の姿を捉えていた。実際に子どもに対して読み聞かせを行うという場において、学生は絵本を媒介とした「読み手と聞き手の時空間の共有」の過程の中で、絵本の世界に歓びや楽しみを感じる子どもの姿に触れることで、絵本やその読み聞かせに対する認識や理念を醸成したり、反対に対応への認識としての難しさも実感したりしていくことが可能となるのではないか。

以上のテキストマイニングによる学生の自由記述結果の分析から、より「よい読み聞かせ」を成立させるために保育者に必要とされる「評価」活動としては、「絵本の読み聞かせの方法や技能」といった保育者側の視点、「子どもの反応の捉えや保育者の対応」といった子ども側の視点からの評価、そして、この二つの視点をもとに、評価、省察を通して「読み聞かせ」に対する自身の認識の深まりに気付く契機となることが大切であると考える。

なお、テキストマイニングは、単語の特徴や関連性から全体的な傾向を把握する手法であり、網羅的に分析したものではない。今後もより詳細な検討は必要であると考える。

〔文責　宍戸〕

5　まとめ

(1) 成果

本学の 2 年生の学生は、読み聞かせプロジェクトが始まるこの時期までに、5 月の施設実習から 9 月の幼稚園実習まで、4 つの実習を行うという保育者養成系短大特有の、過密なスケジュールの中で学修を進めてきているわけである。ただ、学生同士お互いに、直接子どもに対する保育を見合うという経験は、ほとんどなかったわけであり、そうしたことから、本当の意味での保育を対等の立場や意識で相互に見合う機会は、大学の科目の授業の中で行われる模擬授業や、各実習で参観する保育とは違った感覚で保育を見て考えることができ、新鮮であり貴重なものになったのではないかと推察する。

また、読み聞かせを観察する 4 つの観点を示したことにより、友だちの読み聞かせをより客観的に観察・評価する意識が芽生え、観察する学生の評価と読み聞かせを行った学生の省察・改善点で、共通するところに意識が向いていたことが分かった。そうしたことから考えると、4 つの観察・評価の観点を設定して読み聞かせを実践したことは、学生にとって読み聞かせを「行う」「見る」の両方に有効な働きをするものであったと言える。

(2) 課題

木田千晶 (2023) は、「子ども理解」という言葉に関する研究の中で、『保育者の「理解しよう」とする背景には、保育において「子ども＝理解困難」であるとの観点が存在することが指摘されている。理解困難とするにもかかわらず、「子どもを理解することが保育の出発点」という発想は、まさに完全な「理解」を目指すことが保育者として必須で、自明な力とし、それが誰もが可能であるとする視座に立つ。（中略）。暫定的な「子ども理解」における保育者の姿として、不安定さや不確実さをもって、子どもを「理解しようとする」姿、常に自己の「子ども理解」を問い直し、自らの保育を省察する姿が考えられる。「子ども理解」の「理解」が意味するのは、揺れ動く子どもの姿を丁寧に「見る」ことなのではないか。』と主張している。

この実践においても、保育を「見る」ということを中核としたわけである。ただ、設定した 4 つの評価の観点を、どの程度までより具体的な表現にすることが、これから保育の世界に入っていこうとしている学生にとって良いのか、あまりに具体的な観点にし過ぎることで、絵本の読み聞かせという保育に対する考え方を、一定のひな形にはめ込んでしまうことのないようにしなければならないことは、自明のことと言えよう。

また、学生の読み聞かせ後の省察・改善点の話し合いの様子を見ていると、評価票やワークシートの記入をすることに精一杯で、活発な話し合いとなっているグループはほとんど見られなかった。近年、保育現場が求めている、保育者同士が立場やキャリアの違いを超えて語り合える保育カンファレンスの姿になるようにするためには、今後は、事前に作成する指導案のねらいを到達目標の水準になるよう、学生自身に設定させ、その水準に従って評価できるようにしたり、事後の話し合いにおいて、ファシリテーター役を決め深まりある省察となるようにしたりする（2021　ト田真一郎）等、さらなる取り組みの工夫が必要であることが明らかとなった。

6　終わりに

最後に、この読み聞かせプロジェクトの取り組みに対して、全面的にご協力いただいた本学の認定こども園の教職員の皆様、そして何より、学生たちの読み聞かせを喜んで見て聞いていた子どもたちに、心より感謝申し上げ、今年度の取り組みを終えたいと思います。

〔文責　佐藤〕

【引用・参考文献】
文部科学省「幼稚園教育要領解説」pp.121-122
山本睦 (2021)「保育・教育の評価とマネジメント」ナカニシヤ出版 , pp.22-28
汐見稔幸 (2023)「子ども理解を深める保育のアセスメント」中央法規 ,pp.15-17
小玉亮子 編著 (2020)「幼児教育」ミネルヴァ書房 ,pp.120-121
樋口耕一（2014）『社会調査のための計量テキスト分析―内容分析の継承と発展を目指して』ナカニシヤ出版
奥山優佳・香曽我部琢 (2008)「想像世界の共有化を修辞する　保育者の身体技法―クラス活動における絵本の読み聞かせの相互行為分析より―」東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部紀要第 39 巻 ,pp.41-47
奥山優佳・松述毅・香曽我部琢 (2014)「クラス活動の絵本の読み聞かせにおける相互作用の意義：保育者と幼児の視 線の変容プロセスの分析より」東北文教大学・東北文教大学短期大学部紀要 4，pp.73-82
木田千晶 (2023)「「子ども理解」研究の変遷から見た「子ども理解」という言葉の解釈と潜在的課題」保育学研究 第 61 巻 第 1 号 p.122
ト田真一郎（2021）「MINERVA　はじめて学ぶ保育④保育の計画と評価」ミネルヴァ書房　pp.173-174

読み聞かせ後の 4 人による省察

紙芝居に取り組む学生

絵本の世界を共有する子どもたち

佐藤博英　　SATO, Hirohide
短期大学部　保育学科　講師
教育学学士
専門：　教育学、教科教育学（算数）

宍戸和博　　SHISHIDO, Kazuhiro
短期大学部　保育学科　講師
教育学修士
専門：　教育学、教科教育学（国語）

鈴木智子　　SUZUKI, Tomoko
短期大学部　保育学科　准教授
修士（こども心理）
専門：保育学、幼児教育学

安田いつ美　　YASUDA, Itumi
短期大学部　情報ビジネス学科　講師
社会学学士
専門：音声表現、コミュニケーション、朗読

近隣小学校における「絵本読み聞かせ体験」～こども学科学生の実践報告～

鈴　木　翔　太　　福祉学部　こども学科　講師

はじめに

「絵本読み聞かせ体験」取り組みのもとになる、福島学院大学「読み聞かせ」プロジェクトは2022年にスタートしました。プロジェクトのねらいは以下２点が挙げられます。

○本学学生が「読み聞かせ」を行うことを通して、技能の向上と自らの感性を磨くとともに、「言葉の力」やコミュニケーション能力を向上させる。

○こども学科の学生が瀬上小学校の児童に「読み聞かせ」を行うことにより、子どもたちの豊かな感性や心、知的好奇心を育み、「言葉の力」の基礎を培う。

プロジェクト内容の一つとして、こども学科２～４年生が近隣小学校 (福島市立瀬上小学校) へ出向いて、各教室で絵本の読み聞かせを実施しています。児童に絵本のよさ、楽しさを伝え、親しみを持ってもらうこと、また学生の実践フィールドとして、選書から読み聞かせまでを行い、教育・保育観を養うことを目的としています。学生は小学校の子どもたちの喜ぶ姿、興味をもって話を聞く姿を思い浮かべながら、準備を進め意欲的に取り組んでいます。本稿では、こども学科学生による近隣小学校の「読み聞かせ体験」の内容、活動の振り返り等を実践報告として紹介いたします。

（外部講師による事前指導内容 (一部)）

※《参考》令和４年７月５日（火）
　こども学科２年 クラスセミナー
　「読み聞かせについて」
　事前指導担当邉見美江子氏資料より抜粋

①事前に

・声に出して下読みをしておく。発音しにくい言葉・誰の言葉か・地 (説明) の文章か、話の流れを頭に入れておく。

②読み始め

・本の表紙を見せて、「書名」から始める。

③心をこめて読む

・安定した、自然な声で、心をこめて読む。うまく読もうとすると力が入りすぎて不自然な声になる。

・声は大きすぎず、小さすぎず、高すぎず、低すぎず、後ろの子にも聞こえるように。声が小さく聞き取りにくい声だと、子どもたちは本への関心がなくなってしまう。

④ゆっくりはっきりと読む

・特に出だしは、ゆっくり、はっきりと安定した声で読む。いつ・どこで・だれが・　どんな性格か等、お話の大切な要素が書かれている。

・お話の流れにのせて読むと、自然に声に表情が出て、幸せな場面ではおだやかな声に、悲しい場面では落ち着いた声になる。

・無理な声色や極端な声は、聞き手をお話の世界から現実に戻してしまう。

⑤絵をしっかりと見せる

・文章のない絵だけのページは、特にしっかりと見せる。絵が伝えたいことがある。

・文章を読み終えた後も、絵を見せた方がいいページもある。絵本の絵は言葉と同じくらい、多くを語っている。

・ページをめくって、一呼吸おいて読み始める。聞き手が新しい場面を見てお話の展開を予測し、読み手の声でお話を確認する。自分でお話を発見し、より積極的に楽しむことができる。

⑥本に書かれた言葉を大切にする

・作者の言葉を大切にする。

・少々わからない言葉があっても、絵や前後の流れから想像でき、楽しめる。

・わからない言葉の説明は簡潔に話す。説明に時間をとった場合は、その文章をもう一度読み、心を本の世界に戻す。

⑦子どもの様子を見ながら読む

・読み手の一方通行にならないようにする。

・子どもの表情やつぶやきをとらえながら、落ち着いて読む。急がない。子どもの笑う声や息をのむ気配を受け止めて、間をとりながら読む。

小学校各教室における読み聞かせの様子
選書から読む練習を進めてきた絵本を用いて、読み聞かせを行います。
学生の一生懸命さ、児童が興味を持って見る様子が感じられます。

⑧最後まで、心をこめて読む

・読み終えたら、ゆっくりと本を閉じ、裏表紙を見せる。
・もう一度、表紙を見せて、書名を言って終わる。
・表紙絵が裏表紙まで続いているものは、開いて、全体を見せて終わる。

⑨余韻を大切にする

・無理に感想を聞いたり、おしつけたりせずに、自然に終わる。
・感想を言ってきた子の言葉や心は大切に受け止めて、ほめる。

読み聞かせ体験の内容

参加者　：こども学科２年生～４年生 (保育実習指導Ⅰ . Ⅱ . Ⅲ) 履修者２人１組で演習 (前期４年生と２年生がペア、後期３年生と２年生がペア)
実施場所：福島市立瀬上小学校　各教室
対象学年：1 年生～３年生
当日の動き：
　７：４０ 大学集合・出席確認
　７：４５ 瀬上小へ移動（徒歩、教員が引率）
　７：５５ 瀬上小到着
　８：０５～８：１５「読み聞かせ」
　８：２５ 瀬上小出発
　８：３５ 大学到着・解散
主な選書絵本：
「ともだちや」「おふくさんのてるてるぼうず」「はらぺこあおむし」「ぼくのきもちはね」「ごめんねともだち」「つみきのいえ」「ちょっとだけ」「ちいさなくれよん」「あいしているから」
　など

学生の読み聞かせ振り返りシートから

本取り組みにおいて、それぞれの学生の感じ方、捉え方、そして今後に向けて検討することを記す振り返りシートの提出を実践後の課題としています。実践後の学生の学び、子どもたちと相対してみて感じたこと、自己課題等について主にどのような内容を学生が考えているかを以下に記します。

※こども学科 2.3.4 年生「読み聞かせ振り返りカード」より筆者抜粋

○よかった点

・あらゆる場面想定を検討し、季節感を取り入れるなどしながら、子どもたちが期待と楽しさを感じられるよう進められた
・読み聞かせ中、終了後想定以上に子どもたちから感想をもらうなどやり取りができた
・先輩と協力しながら準備を進めたことで、実践とその後も学びが深まり、大きな声で感情を入れつつ読むことができた
・先輩の声の出し方や間の取り方などが大変参考になり、取り入れたいと考えた
・小道具を使うなど、工夫をしながら読み聞かせを行い子どもたちの反応がよかった
・子どもたちが真剣に興味をもって聞いてくれたことが嬉しく自信になった
・選書から事前練習、本番まで子どもたちの興味をひく内容であることを意識できて、事前準備の大切を改めて知ることができた
・絵本に関連する自然物 (まつぼっくり) を提示したところ、子どもたちが触ってみるなど、興味が深まった様子があった
・導入から丁寧に言葉の大切さを伝える読み方ができ、子どもたちに内容をしっかりと伝えることができた
・導入時にペープサートを使用して興味がわくよう心がけたことで、絵本に対する反応もよく、子どもたちの声にも対応しながら進めることができた
・事前の確認、練習が充実していたため、子どもたちが予想より楽しそうに聞いてくれた
・導入の際に、伝えたいことを問いかけておいたため、それに反応して発表してくれる子もいるなど、自分自身のねらいを達成できた
　　など

○課題・改善点

・子どもたちの興味を惹けるような導入に難しさを感じた、うまくいかなかった

・読むことで精いっぱいで、子どもたちの顔や表情を見て進めることができなかったため、先輩の読み方を見習って読めるようにしていきたい
・子どもたちの反応 (盛り上がり) が予想以上で、それにより頭が真っ白になってしまった
・話の内容をしっかりと把握し、盛り上がる場面や抑揚を意識して読むことが大切だと実践の場で気づきがあった
・話が長いものであったため、最後の余韻を伝えられなかったことは残念だが、今後に向け導入からまとめまで丁寧に行う意識をもてたことがよかった
・導入を丁寧に行うこと、子どもたちの声にしっかりと耳を傾けることができなかったため今後は意識して取り組みたい
・全員が最後まで集中して聞けるような配慮が不足していた
・言葉につまる、かむなど練習不足が否めなかったので、子どもたちが絵本の世界に入れるような読み方を意識していきたい
・橋の列に座っている子が見づらそうにしていたため、座り方、配置、絵本のめくり方を再度検討して実践したい
・導入で盛り上がりすぎて、スムーズに読み聞かせ本題に入ることができなかった
・読む速さや絵本の角度、声の大きさ、視線等留意したが反省点も多かったため、子どもたちの前に立つ際の工夫が必要だと改めて実感した
・最後まで全員をひきつけるような読み方の工夫や技術を身につけたい　　など

活動の振り返りと今後の展望

近隣小学校での読み聞かせ体験を振り返り、学生自身の取り組みの意識や、実践から挙げられた課題、今後の展望等について述べます。

学生提出課題の振り返りシートから、１つ目としてよかった点のまとめです。多数の学生が記入した主な内容は、「事前準備を入念に行えたことで、よい演習につながった」「導入からまとめまで、丁寧かつ配慮したことで楽しんでもらえた」「興味を敷くための工夫 (小道具使用など) をしたことで反応がよかった」「先 (後) 輩の取り組み方、読み方が参考になった」が挙げられました。

学生の記入内容、または我々担当教員が見る学生の取り組みは、プロジェクトのねらいの一つに掲げられる、「読み聞かせを行うことを通して、技能の向上と自らの感性を磨くとともに、「言葉の力」やコミュニケーション能力を向上させる」に資するものであると考えられます。“ 絵本を読む ” という保育・教育活動の一つのツールをとおして、子どもたちの生の反応を見ながら、感じながら行う実践は学生にとって有意義なものであります。保育者として成長できる要素の一つとして、今後の活動も充実させていきたいところです。

２つ目として、課題や今後の目標についてのまとめです。課題の主な内容として、「導入あるいはまとめの難しさを感じた」「子どもたちの顔や表情を見ながら進められなかった」「緊張もあり、練習時に比べうまくいかなかった」「集中して聞けるような配慮不足」が挙げられました。また、今後の目標については、「導入からまとめまで丁寧に進め、子どもたちの声にも耳を傾け反応する」「実践をとおして気づきがたくさんあり、今後にいかす」「座り方や絵本の位置など、環境にも工夫して進める」などが主に挙げられました。

課題を挙げる、目標を挙げることについても、実践からその後につながる学生の意識の高さが窺えました。ねらいの、「技術、コミュニケーション能力の向上」にもつながり、何より、“ 子どもたちの生の声、反応 ” から得る実感や気づきは有益であります。学生によっては、反省＝だめなものと気を落とす様子も見られましただ、次へのステップとして捉えるようフォローし、前向きに進められるようにしてきました。

保育者になるために、さらには保育・教育現場で働くために学びを深化させるには、学生時代に子どもに関わる多くの実体験を積むことが効果的とされています。本取り組みは小学校という新たな場での、学生自身の今後の成長につながる実践となりました。どのような点がうまくいったのか、課題となったのかを把握し、今後の読み聞かせの実践、実習等にいかすための検討を授業等で行います。学生は前述のように反省や課題を挙げながら、各々が今後の取り組みに向けて意識をもって準備を進めていきます。授業担当者として、

現場の生の子どもたちとの関わり、やり取りから得た経験、知識を保育現場でいかしていけるよう、今後の授業内容等の工夫を検討していきたいと考えます。

おわりに

保育職志望学生のより幅広く豊かな感性を育むと共に、近隣小学校児童への楽しさの提供について継続的な展開をしていきたいところです。さらには、地域貢献の一つとして、学生の取り組みを学外で有効に実施することも視野に入れて計画・運営を図りたいと考えます。本取り組みも含め、保育者養成学生の実践的な経験は、専門知識やスキルを習得し、将来の保育・教育活動に活かすための重要な要素と考えます。学生の保育現場での活躍を願いつつ、保育者養成プログラムにおける各活動計画の検討・研究を継続していきたいと考えます。

参考文献
・厚生労働省 (2017)　保育所保育指針解説　フレーベル館
・文部科学省 (2017)　幼稚園教育要領解説　フレーベル館
・大豆生田啓友他 (2021)　学生・養成校・実習園が共に学ぶ　これからの時代の保育者養成・実習ガイド　中央法規出版株式会社

鈴木翔太　　SUZUKI, Shota

福祉学部　こども学科　講師
修士（こども心理）

専門：　保育学
資格：　保育士
免許：　幼稚園教諭

薦める人：

図書館情報センター
館長　　梅宮れいか
司書　　齋藤多美子
司書　　鴫原裕亮

『子どものこころにふれる整体的子育て』

山上亮：著
クレヨンハウス
2010 年

book review

クレヨンハウスは、若者で溢れる表参道から少し離れた閑静な裏通りにあった。（現在は吉祥寺に移転している）文化放送の元アナウンサー、落合恵子氏が設立した絵本や玩具のお店だ。表参道の象徴的建物であった同潤会青山アパートが存命の頃、不思議な事だが都会の真ん中であるにもかかわらず、街自体が緑滴る森のようで、クレヨンハウスの店構えはちょっとした森の入口に見えた。

さて、その森の入口は。

一貫してオーガニックな視点で選ばれた品々は目にも優しい。絵本以外の本も充実している。総合育児雑誌『月刊クーヨン』やオーガニックマガジン『いいね』の発行、ベストセラーよりロングセラーを目指し、1976 年の設立以来、「わたしたちが気持ちよく暮らすための提案」を発信し続けている。本書は、このようなコンセプトのもとに刊行された一冊である。

熱めのお湯でおしぼりを作り、子どもの目にのせて 5 分くらいそのまま。洗面器に少し高めのお湯をはり、足を入れて 6 分。写真の子どもが何とも気持ちよさそう。

冷えや眼精疲労などは大人の愁訴と思われがちだが、昨今は子どもにもよくみられる症状だ。幼い頃からネットワーク社会に否応なく組み込まれ、PC やタブレット、スマホを駆使している子どもたち。眼の疲れと身体への影響は避けられないだろう。緊張状態が続いている子どもの心身をほぐすには、足湯や眼の温湿布は実に効果的であるに違いない。何よりも親子でともに行うことで、タイトルの『子どものこころにふれる』ことに近づく。

日常で行える整体の手当の仕方や、子どもとの接し方を、四季ごとに取り入れているのでアプローチしやすい。例えば春のからだの章では、肩甲骨を緩めて花粉症に備える。木の芽時と呼ばれる季節は、精神的にも肉体的にも不調になりやすい。冬の間ガチガチに固くなった身体を緩めることが必要になる。「春だよー」と身体を目覚めさせてあげると良い、と導いているのだ。また、秋のからだの章では冷え対策として「肘湯」をすすめている。肘を温めるとはちょっと思いつかない手当だ。しかも、じっとお湯につかるだけではない。絵本を読み聞かせながら、手遊びしながら、親子でリラックスするよう提案している。

整体ボディワーカーの肩書をもつ著者は、「野口整体」と「シュタイナー教育」の二本の柱をベースとしている。それぞれの教育方法に深くは触れていないが、二本の柱に共通するのは、「言語以前の世界」を大事にしていること。例えば、頬に触れる空気の流れが、「風」という名前を持つことを子どもたちはまだ知らないだろう。言葉以外の五感を使い、豊かな世界を味わっているのが子どもたちの日常である。その世界の住人に触れる時は、大人も視点を変えてみる。それはどうやら「観察すること」のようだ。

何もしないでぼーっとしている子どもがいる。子どもは何かを見ている。あるいは何も見ていない。何かを考えているかもしれないが、何も考えていないかもしれない。子どもをよく見て、気づき、聴いて、触れて、それらの語りに耳を澄ます。

もう一つ大事なこと。それは、子どもに触れるコツとして、大人もポカンとした時間を持つのだ。考えるのに疲れたら、ただひたすらボーッとする。

簡単なことのようで難しい、難しいことのようで実は簡単なことのかもしれない。（齋藤）

『絵本のなかの動物はなぜ一列に歩いているのか　空間の絵本学』

矢野智司・佐々木美砂：著
勁草書房　2023 年

ロバの上に犬が乗り、犬の上に猫が乗って、猫の上にニワトリが乗る。一列に揃った動物が登場する絵本で思い浮かぶのは、「ブレーメンの音楽隊」だろうか。あるいは、大きなカブを引き抜こうとして、おじいさんはおばあさんを呼び、おばあさんは孫を呼び、孫は犬を犬は猫を、猫はネズミを呼ぶ「大きなカブ」だろうか。このように同じパターンで繰り返す単純なお話が、なぜ子どもの心をワクワクさせるのか。

本書は、絵本に特有な構図を読み解くところから、絵本世界がもたらすその力について考察した絵本論の入門書である。著者の狙いは、この構図を考えることにより、絵本とは何か、ひいては私たち人間とは何者なのか、といった壮大なテーマまで明らかにすることだ。「空間構成のプロセス」の観点から捉えると、絵本には「均衡回復型」と「均衡の回復されない型」の二つの形

がある。さらに「均衡回復型」には、構成される空間が開いているか閉じているかを基準にして、「積み木型」と「入れ子型」とに分けることができるという。その名称通り、積み木は積み木遊び、入れ子はマトリョーシカ人形。このような具合に、子どもの遊びとも連動している。

「入れ子型」絵本とは、ウクライナ民話を原作とするエウゲーニー・M・ラチョフ絵『てぶくろ』が典型的な作品である。手袋の閉じられた空間に大小さまざまな動物たちが入っていくのだが、回復型であるには「行って帰ってくる」話でなければならない。動物たちは最終的に手袋から出て何事もなかったように「てぶくろ」だけがそこにある状態で落ち着く。人や動物たちが次々と登場し、どんどん数が増えていき、一緒くたになる。最後には、寄り集まった集合体が一気に崩れてしまい、何事もなかったように元の世界に戻るのだ。このバランス感覚が子どもに驚きと安心感を同時に与える、と著者は説いている。

特筆すべきは、本書で紹介される絵本の多さである。百冊を超える絵本の一冊一冊を簡潔に解説している。本来読んだことのない絵本は、説明文だけではイメージが湧かないはずだが、その構造が容易に想像できる。「現物を読みたい」と思わせる意味でも、絵本の入門書としての効用は大きい。

絵本の歴史にも少なからず触れている。絵本の一般的概念として「子どもの理解力にあわせて文字を補うように絵を挿入し、内容はシンプルに道徳的・教育的に作られている」と考えられているが、それは一面的なもので全てとは言えない。絵本は、それ自体が固有の芸術的表現に基づいたメディアであり、大人の本とは異なった歴史を持っている。中でも、ロシアにおける芸術運動との親和性の高さがある。革新的・前衛的を意味するアヴァンギャルドなメディアが絵本であるといった説。ロシアでは識字率の低さにより、社会主義の理念を広めるための一種のプロパガンダとして絵本が認知されていたあたり、現在の絵本の理念とは異なったものであったことがわかる。

本論の締めくくりとして「新たに深化した絵本とは何か」を１２のテーゼで提示している。テーゼ３では、絵本のサイズに言及。棚に並べた時のバラバラ感が許

『ひきこもり図書館 部屋から出られない人のための 12 の物語』

頭木（かしらぎ）弘樹：編

毎日新聞出版　2021 年

多くの親は、幼い我が子が健やかに育って欲しいとただそれだけを願う。これが自然な育児の姿であろう。ただ、子どもにとって良かれと思って行う育て方が、実はその子のためにならない場合もありうる。将来ひきこもりになるかもしれない。それは誰にも予測がつかない。また、周りに相談する人が誰もいない社会的に孤立した育児は、親のひきこもりと考えてもいいかもしれない。だからと言ってそのようなマイナスの感情を含んでしまうと、育児は絶望的に楽しくない。

ひきこもり、とは何だろう。

本書はサブタイトルのとおり、12 の物語から成る。編者の頭木は、病気治療のためとは言え 13 年間ひきこもっていた経験を持つ。当事者ならではの視点で選ばれたアンソロジーは、ひきこもりの画一的負のイメージを払拭し、別種の新たな方向へ広げる一助となっているのではないだろうか。

5 篇を紹介しよう。

1 作目は萩原朔太郎の「死なない蛸」

薄暗い水族館の中で、飢えた蛸が自分の足を次々と食い尽くし、すっかり消えてしまう。にもかかわらず蛸は死ななかった。夢幻の影のような散文詩である。散文詩集「宿命」の中の 1 篇。

「蛸は身を食う」俗説が思い浮かぶが、人々に忘れ去られた水槽の中で「彼が消えてしまった後ですらも、尚お且つ永遠にそこに生きていた」この無限ループの感覚はどうだろう。朔太郎の詩の魅力のひとつである、青白く病的なイメージが立ち昇り、幻惑される。

見開き 1 頁のこの作品が、ひきこもりとどう繋がるのか？忘れ去られた存在であることも一つの要素であるが、ある物すごい欠乏と不満をもった動物として描かれているので、このあたりがひきこもりを考える上での共通点かもしれない。

2 作目はコロナ禍初期の不安にも似たエドガー・アラン・ポーの「赤い死の仮面」

国中に蔓延する伝染病から逃れるため、元気で健康な者だけを集めて城にひきこもり、享楽の日々をおくるプロスペロー公爵の話。筆者が子どもの頃にダイジェスト版を読んで、あまりの恐ろしさに夢にまで出てきた小説である。

発症から死に至るまでわずか 30 分！の恐ろしい病を遠ざけて、ひきこもったが故の逃れられない恐怖。我欲に塗れた彼らの最期はどうなるのか。忍び寄る死を象徴する赤色がぞっとするほど鮮烈だ。

次に紹介するのはロバート・シェクリイ著「静かな水のほとりで」

この静謐なタイトルは、旧約聖書詩篇第二十三篇「憩いの水のほとり」による。1954 年発行の短編集『人間の手がまだ触れない』の中の 1 篇。

舞台は小惑星帯。登場人物はふたりで、そのうちの一人（？）はロボットである。たったひとりで小惑星に赴いた探鉱者のマークは、ちょっとした鉱脈を見つける。その稼ぎでロボットを購入した。ロボットに登録されていた単語は 30 個。マークは少しずつ新しい言葉を足していく。チャールズと名付けられたロボットは、複雑な会話を組み込まれ、しだいに人格が形成されていく。質問。答え。質問。答え。マークとチャールズのやりとりは、まるで現代の会話型 AI・チャット GPT のようだ。宇宙の片隅で、ロボットだけを相手に生活する絶対的な孤独。地球上でもあてはまりそうな「ひきこもり」である。

4 つ目の「私の女の実」ハン・ガン著は韓国の小説。

植物は生えた場所から動かない。

高層マンションで結婚生活をおくる私の妻は、騒音と汚れた空気に耐えらず、次第に植物と化していく。何が彼女を変化させたのか。冒頭、夫の視点で描かれた文章は、妻が植物となったことで、妻の視点で描かれる。自分の母親に向けて語りだすのだ。母親は海辺の貧しい村で生まれ育ち、年老いてやがては土に還る。そんな母のようになりたくなくて故郷を出て都市に出てきたのに。故郷でも不幸、故郷でないところでも不幸ならば、私はどこへいくべきなのでしょうか。と嘆く妻の寂寞は、やがて身を変えるほどに激しくなっていく。閉塞状態を突破するには、自身を全く別のものに変化させること以外になかったのか。妻の名残をおぼろげに感じ、私は水を与え、根を張った植物から採れた実を口にする。春が来たら妻の花は咲くだろうか。哀切漂うラストシーン。ひきこもりの究極の形かもしれない。

最後に紹介するのは、昔話の定番「桃太郎」である。桃から生まれた桃太郎が、犬、猿、雉の家来を従えて鬼退治に行く。お馴染みのストーリーだが、ここに登場する桃太郎は、鬼退治には行かない。だらだらと理由をつけて、外に出ていくことを面倒がる。山へ木を拾いに行っても、いびきをかいてぐうぐう寝るばかり。ひきこもりと言えなくもない。岡山弁での掛け合いは落語のようなリズムがあり、「昔こっぷりどじょうの目」などと昔話特有の終わり方はユーモラス。筋書もなく意味もないのである。意味がないことが一種の胆になっている、とも。このような昔話は山行型桃太郎といって、鬼退治部分なしの典型的なものであるという。

所謂「ひきこもり」※の定義は後付けされたものに過ぎず、昔からこのようなふるまいをする人間（もしくは動物）はいたのだ、と納得させられる。

「昔話とは、本来どんどん変化するもので、正しいバージョンなんて存在しない、伝言ゲームのようなもの。それぞれの時代にそれぞれの地域で、話す人によっても変化していく」と、編者は記している。口伝の昔話は、伝言ゲームのように内容を微妙に変えていく。子どもを寝かしつけるためにお話を語る親が、適当に話を変えてしまうことはままあることだろう。親も眠い。物語の筋はうやむやになり、意味のない繰り返しで胡麻化しているうちに、睡魔の奥で変化していく。教育的、道徳的な絵本へのささやかな抵抗とも言える。

さて、本書の 12 篇中、漫画を含め 4 篇が SF 作品。宇宙空間はある意味閉塞状況が続く環境である。人間は宇宙船にひきこもるか、酸素のない星に工夫して留まるしかない。イメージの連鎖として SF が思いつくが、それはたまたま集まったに過ぎないと言う。ひきこもりの意味は、時代や国や環境等によって様々に変化し、今も枝分かれしている。一括りにはできないのだろう。いずれにしても、編者の選書力が見事なアンソロジーである。（齋藤）

※ひきこもりの定義：「様々な要因の結果として社会的参加（就学、就労、家庭外での交遊など）を回避し、原則的には 6 ヵ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態を指す現象

Book Review

概念（他者と交わらない形での外出をしていてもよい）」：平成 19 年度から平成 21 年度に行われた厚生労働科学研究「思春期のひきこもりをもたらす精神科疾患の実態把握と精神医学的治療・援助システムの構築に関する研究」において、今般、支援に当たる専門機関の職員等に向けた「ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン」から。

『あの日の交換日記』

辻堂ゆめ：著　中央公論新社

2020 年

新鋭ミステリ作家・辻堂ゆめが描く連作短編集。学校に通えない子どもと先生、児童と担任教師、妹と姉、母と息子、事故の加害者と被害者、夫と妻、元同級生といった様々な登場人物との間で交わされる交換日記を通じて真相が明かされていく 7 つの物語で構成されています。

子供のころに交換日記をしたことはありますか？私は小学生のころに、連絡ノートの内容に担任がコメントを書いてくれた記憶はありますが、交換日記と呼べるほどではありませんでした。連絡手段が豊富な現代ではむしろ新鮮な行為かもしれません。それでも大切な思いは手紙で伝える、という文化は根強く残っています。

本短編の一つ、「夫と妻」という話の中で「ここに書いたことは、交換日記の外には持ち込まない」という約束事が登場します。自分と相手の関係に関わる大事な話だけれど、関係性を変えたいわけではない。口にしたら自分も相手も感情が先立ってしまって一瞬のうちに関係が崩壊してしまうかもしれない、けれど文字にすれば冷静に受け取ってもらえるかもしれない。一方的に伝えたいのではなく、互いに自分の思いを書くことが前提の「交換日記」だからこそ伝えられる真実があるのです。

どの物語でも「ある先生」との交換日記がきっかけとなっています。小学校の先生と児童で交換日記。今では「多忙な先生が交換日記などできるのだろうか」と無粋な考えが浮かぶ一方で、「どんなに時間がかかってもいいからあの時の先生の思いを知りたい」とも思います。人生 100 年時代、時間はたっぷりあるけれど、交わせる言葉には限りがある。いつも顔を合わせるあの人と、たまには濃密な言葉を交わすのも悪くないかもしれません。あなたは誰と交換日記をしたいですか？（鴫原）

book review

『おとながこどもにできること シュタイナーのこどもの育て方』

ローター・シュタインマン：著

鳥山雅代：訳　春秋社　2008 年

まず初めに、本作はルドルフ・シュタイナー博士が「正しいこどもの育て方」を教えてくれる育児書ではありません。著者であるローター・シュタインマンが、シュタイナー学校の教師として、7 人のお子さんの親として「こどもになにができるか」を語るエッセイに近い本です。字が大きく、行間も広いため、読んだ体感としては本の厚さの半分程度の文章量ですので、そこまで身構える必要もありません。

本書は、著者の実体験をもとに、「娘が弟を殴った時」「娘が久しぶりに買い物についてきて喜んでいたら、ただおやつを買いたいだけだったと分かった時」などのごくありふれた問題や事象の中で著者はどのように考えたか、この時こどもはどのような心境なのか、このこどもたちの行為にはどんな意味があるのかを語るのですが、その語り方がなんとも柔らかいのです。勉強のつもりで読んでいても、いつの間にか和んでしまいます。もちろん、タイトルの通り、親や教育者がこどもに対してどんな役割を果たせるかについてもしっかり触れます。

「おとながこどもにできること」とは何でしょうか。衣食住を提供したり、知らないことがあれば教えたり、脅威から守ったり、挙げようと思えばいくらでも挙げられます。しかし、子育てにおいてはそう単純ではありありません。こどもの成長に伴って、「何かをする」よりも「何をしないか」ということも意識する必要もあります。本書では、次のように述べられています。「この年頃（こどもが反抗期を迎え、自立し始める頃）になったら、おとなは、ちょっとずつ、ひっこむ練習をします。反対にいうと、こどもにだんだんと「要求」することができます。しっかりじぶんで家のしごとのどこかを引きうけるように言うとか・・（中略）・・ひとりで帰っておいで、と言うのです」。「子育て」という行為には子どもの教育だけでなく、自分（おとな）の教育も含まれているのだ、と言われているようで読みながらハッとしました。読めば読むほど、育て方、というよりも、こどもを育てることの奥深さを学べるのが面白い一冊でした。

本書を読んでいると、「こういう関わり方はいいなあ！」「子どもはこんな風にとらえているのか！なるほど！」と感じることが多々ありますが、これは「育児の取扱説明書」ではありません。ぜひ著者の考えや関わり方を読みながら、子どもとの接し方を「自分で考える」機会になったら嬉しく思います。（鴫原）

『子どもから大人が生まれるとき――発達科学が解き明かす子どもの心の世界』

森口佑介：編著

日本評論社　2023 年

（初めに、本書は「子どもはどのようにして精神的に大人になっていくのか」という内容ではなく、「発

book review

達科学の観点から、子どもとはどのように世界を認知しているのか、どのような能力があるのか、大人と異なる点は何か」について研究結果等を通して論理を展開する理系的な本です。）

子ども好きの人でも苦手な人でも「子どもは何を考えているのか分からない」という人は少なからずいるでしょう。大人になってしまうと子どもの頃の気持ちを忘れてしまうことがほとんどです。時には子どもの感性を全く理解できず、「子どもは宇宙人のようだ」という人もいます。ですが、誰しもが子どもだったのであり、その頃の感性や経験が「大人」の一部を形作っているのも事実です。

子どもとは一体何者なのでしょうか。

本書では「大人とは異なる子ども」と「大人になるための子ども」の両方の観点で子ども（主に乳幼児～小学生）に関する研究を紹介しています。章ごとに異なる研究を紹介しているため、どこから読んでも問題ない構成になっています。例えば 6 章では「子どもはいつから嘘をつくのか」という研究を紹介し、7 章では「子どもと大人では注意の向け方も異なる」という話をしているなど、章に連続性はありません。「大人と子どもでは違いがあるのは当たり前だ」と思いつつ、実際に証拠となる研究はあまり知られていないものも多いため、保育に携わる人でも目から鱗な話もあるかもしれません。

著者である森口佑介氏は発達心理学・発達認知神経科学を専門としている研究者であり、本書は発達科学分野における研究の過去と現在を簡単に紹介した内容です。子育てのヒントを知りたい人よりも、子どもや発達心理学・発達認知科学について学び始める人向けの本と言えます。と言っても、門外漢である私でも理解できるくらいにかみ砕かれた内容ですので、子どもについて関心がある人なら楽しめますよ。（鴫原）

『眠れぬ夜はケーキを焼いて』

午後：著　KADOKAWA　2021 年

この漫画は、執筆者の午後さんの生活を優しい語り口と、お菓子のレシピ（お菓子以外にも、ほっこりとする簡単な料理も出てくる）の自伝的なものだ。2021 年には、第 8 回料理レシピ本大賞コミック賞を受賞している。オオカミの午後さんは、生活リズムがバラバラで夜中に起きてしまうこともたびたび･･･。そんな眠れないとき、焼き菓子を作るらしい。

「1 日を無駄にしてしまったことからくる自分の不甲斐なさを　何かを作り出すことで生まれる　達成感で打ち消そうとしているわけです　料理はいかにも正しい行いという　感じがして自尊心が高まる上に　成果物が美味しく食べられるので　一石二鳥」（眠れぬ夜はケーキを焼いて：第 1 巻、P5）。そうそう、暗いうちに目を覚ますと、なんだか別の世界に紛れ込んだような錯覚に襲われ、どうしようもなく自分の存在に自信がなくなる。そんなとき、無理に寝ないで、お料理を作ることで自分の心をエンカラージするという発想は、目から鱗。

真夜中の風景をベランダから見る。「街の光　その

ひとつひとつに　人がいて　その　ひとつひとつに生活があるだなんて　なんだか途方もない」「・・・私は全然　足りない人間だけど　広大な宇宙にとってみれば　チリのような　この星の　ほんの片隅でなら生きていることが　許されるんじゃないかなあ」（眠れる夜はケーキを焼いて：第 1 巻、P27）。高校生の時、真夜中に家の裏に星を見に行ったときのこと。いつも見慣れている風景が違って見えた。ここはどこ？私の住んでいる街ではない別の街。でも、その街にも「私」がいて、その「私」も私のことを考えていて。向こうの街にはどんな生活があるのかな。向こうの街の「私」は幸せでいますか？　星空を仰ぎながら、自分の心が震えるのを感じた真夜中だった。今の私は、仕事があって、その仕事をしている自分が好きだけど、向こうの街の「私」にも、自分の仕事を好きでいて欲しいし、自分を好きでいて欲しい。こちらの街の私は、一緒に雨に濡れてくれるような友達はいないけど、向こうの街の「私」には、傘を差さないで歩くことを馬鹿馬鹿しいとは言わない友達がいてくれるといいな。午後さんの漫画を読んでいると、自信がない自分にエールを送ってくれる向こうの街の「私」の気配を感じる。みんな生きていていい。ただ、辛いことも多いよね。でも、大丈夫だから。応援してくれる一冊。（れいか）

保育者にとっての子どもの運動遊びとは

藤　本　　要　短期大学部　保育学科　准教授

はじめに

私が授業を通して学生に必ず伝えていることがある。それは、人間も動物であり動物とは動くことで生命を維持している生き物であること。科学技術が進歩し、日常生活が便利で安全になり、以前より日常生活に必要な運動量が減っても動くこと、運動することは人間が生命を維持していくうえで重要な要素であることには間違いない。

また、長い人生のライフサイクルを考えた場合、まず社会人になるまでの期間にどれだけ運動に対する知識や技能、運動習慣を獲得できるかで、自分の体の世話を自分の責任において行い、その後の人生におけるQOL を高める結果につながる。その始まりの時期である幼児期に身体を思うように動かし楽しく運動できること、体を使って運動する楽しさや気持ちよさを理解することは、その後の健康的な人生を送るうえでとても大切なことであるという２点である。

以上のことを踏まえ、近年入試の面接で本学保育学科を志望する高校生の部活動歴をみて思うことがある。それは運動経験の少なさである。志望学科が保育学科だからということも勿論考えられ、また本人の志向や意思で行う部活動において運動部と文化部を比較や区別するつもりは全くない。しかし、活発に動き回る子どもに対峙して保育活動を行うという意味においては体力面も含めて運動部での活動歴はプラスになるものであり、２年間の大学（短期大学部）の授業内で理論と実践を身に付ける必要があるものと考えている。

現在の保育学科の教育課程

保育学科を志望する動機は様々で、音楽を通じて子どもに音楽の楽しさを味わってほしいや、絵が好きだから子どもと一緒に絵を描きたい、また運動が好きなので子どもと一緒に体をいっぱい動かして遊びたいなど多岐にわたっている。大学の教育課程もそれに応じて「ピアノ演習」や「表現（造形）」などの科目を設置し、その指導法を含めて保育者としての知識や技能を習得できる環境を整え専門知識や技能を備えた保育者の養成に努めている。

しかし、運動領域に関しては「体育実技」があるものの教養教育科目として設置されており、本人の技能向上やひいては生涯スポーツへとつなげる目的で行われているため、専門教育科目として子どもの運動指導につながる科目は、平成３０年度まで設置されていた「幼児体育」のみであった。それが文部科学省の方針で

はないちもんめ

教科に関する科目が削除されたことにより、それまで「教科に関する科目」として設置されていた「幼児音楽」、「幼児音楽Ⅱ」、「ピアノ演習」、「ギター演習」、「ピアノ演習Ⅱ」、「図画工作」、「幼児体育」、「国語」、「算数」の中で、「ピアノ演習」と「ギター演習」が本学独自の科目に組み込まれて残り、「図画工作」が「幼児と表現（造形）」「保育内容指導法 表現（造形）」に包括してその内容を教授できるのに対して、「幼児体育」の内容を教授できる授業科目は見当たらないのが現状となっている。

入学生の運動歴

では、入学生はどのような運動経験をもって本学に入学して来ているのだろうか。入学してくる学生の運動経験を測る指標として、まず高等学校時の体育について、どんな内容で実施されているのかを調べるため、「高等学校学習指導要領：体育編（平成 30 年告示）」の内容及び内容の取扱いを見てみると次のようになっている。

○体つくり運動、器械運動（「マット運動」、「鉄棒運動」、「平均台運動」、「跳び箱運動」）
○陸上競技（「競走」、「跳躍」、「投てき」）
○水泳（「クロール」、「平泳ぎ」、「背泳ぎ」、「バタフライ」及び「複数の泳法で長く泳ぐこと又はリレーをすること」）
○球技（「ゴール型」、「ネット型」、「ベースボール型」）
○武道（「柔道」又は「剣道」）
○ダンス（「創作ダンス」、「フォークダンス」、「現代的なリズムのダンス」）
○野外の運動（スキー、スケートや水辺活動など）
○集団行動（能率的で安全な集団としての行動の仕方）

以上の内容から、高等学校３年間で上述のような運動経験を得て学生は入学してくることとなる。

次に自主的な活動としての運動経験をみるため令和２年度から令和４年度までの３年間、保育学科に入学してきた学生の部活動経験を調べた結果、下記の表のとおりであった。

過去３年間の傾向は、運動部経験者が徐々にではあるが減少傾向にあり、直近では保育学科入学生の約４割強しか運動部に所属していなかったことがわかる。このことから、高等学校で行われている体育（実技）および本人の希望により実施している部活動は、本人の知識や技能向上は図られるものであり、その指導法となると養成校の授業などを受講しない限り独学で学ぶ以外に方法がないことがわかる。

幼児体育の授業内容

そもそも幼児体育科目で実施していた内容はどの様なものであったのだろうか。実際に授業を行っていた

	運動部経験者 (A)	空欄・無回答 (B)	文化部経験者 (C)	運動部経験者率 A/A+B+C
令和２年度入学生	３４人	５人	３３人	４７．２％
令和３年度入学生	４２人	１２人	３７人	４６．２％
令和４年度入学生	２９人	１３人	２６人	４２．６％

※複数クラブ所属で重複あり（人数）

平成 29 年度のシラバスの内容で主なものを挙げると下記のとおりである。

＜前期＞

・体つくり運動　・体操・リズム遊び　・鬼あそび（１）・鬼あそび（２）・伝承あそび（３）・ふれあい遊び　・キッズヨガ遊び　・運動会（１）・運動会（２）

・現代社会における幼児体育の意義　・幼児の体と心

・運動遊びの指導法１　・運動遊びの指導法２

・幼児体育と安全教育

＜後期＞

・幼児体育の実際　・からだを使った運動遊び（１）移動系のあそび・からだを使った運動遊び（２）・非移動系のあそび・ジャンプ遊び・器具を使った遊び（１）マット・器具を使った遊び（２）跳び箱・器具を使った遊び（３）平均台・器具を使った遊び（４）巧技台・用具を使った遊び（１）短縄・用具を使った遊び（２）長縄

・用具を使った遊び（３）フラフープ　・用具を使った遊び（４）ボール①・用具を使った遊び（５）ボール②

もともと通年科目だったため、半期で幼児期の運動遊び的内容を実施したのちに残りの半期で器具・遊具を使用した運動遊びの指導や安全管理などを実施していた。その通年３０コマ分の内容を他の科目で補うことが不可能なことは言うまでもないが、重要な部分のみを実施したとしても、器具を使用する鉄棒やマット、巧技台、平均台、跳び箱などの安全な使用法や指導法を他の科目で行うのは、それぞれの科目の目的と整合性が取れず実施できる科目が見当たらない。しかし、上述の鉄棒やマット、巧技台、平均台、跳び箱などの器具や遊具を全く使用しない保育施設があるかというとほぼ皆無と思われ、そのことは幼小中高と身近に扱ってきた（使用してきた）遊具や器具ではあるが、その正しい指導法や安全管理について十分な指導が行えないまま、保育現場に保育者として送り出すこととなる。

他大学の現状

では他大学や本学こども学科においてはどのような対応をしているのだろうか。本学こども学科では教育課程の改正前まで教養教育科目の「体育」のほか、専門教育科目としての「体育」科目を別途開講しており、その中で幼児体育の内容を実施していた。また教育課程改正後も選択科目ではあるが「子どもの体育学Ⅰ」「子どもの体育学Ⅱ」という科目を新たに設置することで対応している。

次に近隣他大学の教育課程を各大学のホームページで見てみると、聖和学園短期大学では「子どもと運動あそび」があるものの、会津短期大学、桜の聖母短期大学、郡山女子短期大学には「幼児体育」に該当する科目が見当たらなく、短期大学のタイトな教育課程において資格・免許状取得に必要ない科目を設置する余裕があまりないことから、本学保育学科を含め、やむを得ず科目として削除されたものと推測される。

「幼児体育」が持つ本来的な意味とは（なぜ必要なのか）

幼児期における運動の必要性について述べるためによく用いられるのはスキャモンの発達曲線である。生まれたときには生理的未発達の状態で生まれる人間の脳は神経細胞が少なく、様々な外的刺激を受けることによって新たな神経ネットワークが構築されていく。そしてその神経細胞が最も発達する時期が乳幼児期であり、２歳で成人の約 60％、４歳で約 80％、6 ～ 7 歳で約 90％にまでに達する。そのため５歳～９歳頃はプレゴールデンエイジと呼ばれ、その時期に様々な運動刺激を与えることが後の運動神経の良し悪しと呼ばれることに大きな影響を与えるのである。

そのため文部科学省は平成 24（2012）年に「幼児期運動指針」を策定、①多様な動きが経験できるように様々な遊びを取り入れる、②楽しく体を動かす時間を確保する（60 分以上）、③発達の特性に応じた遊びを提供する、を３つのポイントと定め、その中で幼児期の運動の必要性を述べている。

現代は「三間」の減少と言われ、習い事等で減少した遊ぶための「時間」、近所の空き地などの遊べる「空間」、少子化により群れて遊ぶために必要な「仲間」など、以前のように子どもが集団で遊ぶための条件が絶対的に不足している世の中になってきている。それに加えてメディアやゲーム機等の発達により、いつでもどこでも手軽に一人で遊べるため、子どもにとって実際に体を使って遊びにくい時代になったともいえる。そして、「三間」が整い、子どもが集団遊びできる場所はどこなのかというと、保育施設や学校のように同年代の子どもが集団で活動する施設に限られてくる。だからこそそういった子どもと対峙して、体を目いっぱい使って運動する（遊ぶ）楽しさや気持ちよさを子どもに経験させ、将来、運動が好きな子どもを作るのは保育者の役割のひとつなのである。

一方、器具を使用する運動遊びの場合、最初に考慮しなければならないことは安全管理である。例えば跳び箱を使用する運動遊びを行う場合、高低差がある遊具ではどのような危険があり、それに対処すべき環境設定、保育者の立ち位置や子どもに対する事前指導（お約束）の徹底など、保育者が留意しなければならないことは多数ある。また技能習得の面で高低差がないマット遊びを例に考えると、子どもの視線一つで回転動作や重心が変化しその成否に差が生じる。保育者にその知識があり適切な言葉がけや適切な立ち位置での補助をすることで、成功確率が上がり子どもの有能感や自己肯定感につなげることができるのである。

このように幼児体育で運動遊びの指導法について学ぶことは、子どもに対する適切な運動指導を行うだけでなく、安全管理の面でもその必要性は大きい。

「幼児体育」削除後の対応

学科としては「幼児体育」を教育課程から削除した際に他の科目で補うこととし、運動発達や運動効果、運動と健康との関連性などは「体育講義」の中で理論面を実施。また運動指導の面に関しては「幼児と健康」「保育内容指導法：健康」等の科目で総合的に指導することとした。しかし、幼児期運動指針の内容をはじめ、幼児期における運動指導は多岐にわたり５領域科目で包括的に指導するだけでは時間的に不足しており、最小限必要な項目に絞って指導するのみにとどまっているのが現状である。

実践例を挙げると「幼児と健康」において実施している幼児体育的要素は、せいぜい「伝承遊びとその指

ハンカチ落とし

ボール渡し

ボール渡し（投げ）

手つなぎ鬼

横並び正面とび（2 人→ 4 人→ 6 人と徐々に増やしていく）

しっぽ取り

ことろことろ（最前列の親が鬼から後ろの子を守る）

しっぽ取り

導法」「幼児の運動能力を引き出す環境構成」「室内遊び・室外遊び」「季節遊び」などの項目である。その限られた時間の中で、可能な限り子どもに対する運動指導の実践例を次に述べる。

＜鬼遊びの授業実践例＞

まず、室内であれば換気や室温を含めた環境面での安全管理を行うことが大切である。そして９０分授業の組み立てとしては、鬼遊びのように運動量の激しい遊びに関しては、準備体操から始まりその遊びごとの運動強度を考慮しなければ、楽しさよりも疲労感が強くなり集中力も続かないことにつながってしまう。そこで、授業の実践例としては、

① 手つなぎ伝達ゲーム（運動強度：弱）
② ことろことろ（運動強度：強）
③ ハンカチ落とし（運動強度：弱）
④ 色鬼（運動強度：中）
⑤ はないちもんめ（運動強度：弱）
⑥ しっぽ取り（運動強度：強）

以上のような流れで行っている。

鬼遊びを実施する理由は、幼児を取り巻く現代的課題として、先述の通り「三間（時間・空間・仲間）の減少」が問題視されている。習い事や塾で遊ぶ時間が制限され、近所に子どもが集う広場や原っぱが減少し、そもそも少子化で群れて遊ぶ同年代の子どもが近所にいない。また防犯上の観点から子どもだけで外で遊ばせない子離れできない過保護な親、ゲーム機やスマートフォンの普及により家の中でも飽きずに楽しく遊べる経験など、そもそも子どもが群れて遊ぶ条件が整いにくい現代において、同年代の子どもが群れて遊ぶ場所は幼稚園や保育所といった保育施設しかなく、このことは鬼遊びに代表される伝承遊びを後世に伝える伝承者としての役割を図らずしも保育者が担うことにつながっているからである。

＜ボール・なわとび遊びに実践例＞

次に身近な遊具の取り扱いとしてボールとなわを実施している。ボールは、子どもが出会う遊具の中で最も身近であり、その大きさや重さ、材質の変化で年齢を問わず楽しめるポピュラーな遊具である。例えば乳幼児であればタオル生地やフェルト生地のボールで安全に遊ぶことができ、年齢が上がるにつれてゴムや皮といった材質のものを使用することで本格的なスポーツ競技にも使用できる。授業においては、今まであまり経験したことがないボールを使用することで、クラス内の運動に関する経験値の差を少なくし、さらに新たな経験となるようバランスボールを使用した授業展開を行っている。なわも同様で、なわ 1 本で工夫次第で様々な遊びに展開できる手軽で身近な遊具であり、遊び方も単に跳ぶだけではなく線に見立てて上を歩く、くぐる、またぐ、避ける、引っ張るなど工夫次第で様々な展開ができる遊具である。また、他の遊具が複数人で遊ぶものが多いのに対して、なわは 1 人でも遊べるためゲームなどの一人遊びに慣れた子どもにとっては遊びやすい遊具のひとつであるともいえる。

授業の実践例を挙げると、

① 手つなぎフープくぐり（準備運動、柔軟性）
② ボール渡し（上肢・下肢・背腹・体側の運動）
③ 大玉運びリレー（二人ペアでボールを挟み、手を使わずボールを運ぶ：協調性）

色鬼（鬼の指定した色のフープに逃げる）

大なわとび

大玉リレー（スティック）

大玉リレー（背中合わせ）

④　大玉転がしリレー（二人ペアでユニホックのスティックを使用してボールを運ぶ：巧緻性）
⑤　短なわ（正面跳び、二重跳び、後ろ跳び、はやぶさ跳び、横並び正面跳び：徐々に人数を増やしていく）
⑥　長なわ（8 の字跳び、郵便屋さんの落とし物）

以上のような流れで行っている。

なわ跳びは、好き嫌いがはっきり分かれる遊具である。それは、手でなわを回す動作と足でジャンプしてなわを跳び越す動作を、同時にタイミングを合わせて行わなければならず、始めて遊ぶ幼児にとってはとても難しいことに加え、長なわにおいては失敗すると痛く、その経験から回るなわを怖がる子どももいる。特に年齢の低い幼児にとっては、なわを回す動作自体が難しく、グージャンプ（両足ジャンプ）さえできない子もいる。それを同時に行うので難易度は高く、さらに言うとその動作自体が楽しいと思える遊びと言うより、出来ないことが出来るようになる、課題をクリアすることで得られる達成感や有能感といったものが遊びに対するモチベーションであり、その遊び自体がアニマシオンを感じるような活動に繋がらないからである。そのため指導者は単に、できた、できないに着目するのではなく、ひとつ一つの課題をクリアしていく過程に着目し、個々の子どもの達成段階に応じた課題を与え、分習法的手法を用いて最終的に“できた”という達成感を子どもに与えるように指導しなければならない。以上の点からも、なわの指導は特に専門的な指導法に関する知識が必要であり授業に組み込むようにしている。

今後の展望

現状の教育課程に幼児体育的内容の授業科目を再度設置するのは、タイトな短期大学部の時間割においては年間の取得単位数、授業担当者等の問題もあり難しい状況であるが、本学こども学科のように選択科目として設置することは不可能ではない。保育学科の場合、本学独自の科目の中に、例えば「特別研究」や「子どもの体育学演習」のような科目を設置するなど、子どもの運動指導法を全く学ばないままの保育者を保育現場に送り出している現状を少しでも改善できるように努めたいと考える。

＜参考文献＞
・新版 保育者をめざす保育内容「健康」圭文社 2019
・楽しく学ぶ運動遊びのすすめ (株) みらい 2017
・幼児体育 基礎理論と指導の方法 樹村房 2008
・幼児期運動指針 文部科学省 2012

藤本　要　　FUJIMOTO, Kaname

短期大学部　保育学科学科　准教授
体育学士
専門：　体育科教育学、体育心理学
資格：　スキー SAJ2 級
柔道初段
パラグライダーパイロット証
スクーバダイビング OW
免許：　中学校・高等学校 1 級（専修）免許（保健体育）
衛生管理者証

生成 AI 事始め

生成 AI の開発経緯と教育・保育活動での活用

鈴　木　久　米　男　　福祉学部　こども学科　教授

はじめに

本稿では、生成 AI 開発に至る経過とともに教育活動における活用について検討する。その際、人工知能としての AI と生成 AI の違いをみていく。次に、生成 AI としての ChatGPT やその後公開された Microsoft や Google の生成 AI をみていく。このことを踏まえてそれらの生成 AI と教育の関わりを検討する。本稿により、生成 AI の概要を把握するとともに、教育・保育における活用の手順と注意点の把握を目指す。

1　コンピュータと人工知能とは

本章では、コンピュータ開発の経緯とともに、人工知能と生成 AI の違いをみていく。

(1)　コンピュータ開発の経緯

コンピュータは、CPU と呼ばれる LSI 等の集積回路を頭脳とし、それを駆動させるための電源及びデータを保存するための HD や IC メモリー、さらに回路全体を制御する抵抗器やコンデンサー、コイル等の部品によりできている。CPU は、プログラムによりどのような動作をするかをあらかじめ想定して回路が設計され、様々な電子部品により回路が構成されている。

コンピュータは、基本的に二進法で動いている。二進法とは、０→０、１→１、２→10、３→11、４→100 等であり、用いるのは０と１のみである。二進法を用いると、機械的に計算が可能となる。すなわち AND 回路や OR 回路等の演算回路を用いることにより、足し算や掛け算等の演算ができるようになる。

これらの演算回路をリレー等を用いた機械式ではなく、電流の流れに置き換えて演算を行うのが電子計算機とされ、現在はコンピュータと呼ばれている。すなわち、電流が流れれば 1、流れなければ 0 と判断することにより演算回路を用いて計算が行われる。

真空管を用いた演算回路として 1937 年から 1942 年にかけて、世界で初めて開発したのがアメリカにあるアイオワ州立大学の John Vincent Atanasoff と Clifford Berry であり、ABC マシンと呼ばれた [1]。その後、真空管から半導体を用いたトランジスタや IC、LSI と電子回路の集積度が高まるとともに、コンピュータは飛躍的に進歩した。同時に、演算の状況を視覚的に把握することができるように、ディスプレイとしてブラウン管に計算の途中経過や結果等を映し出すことにした。ディスプレイには初期の段階では、人間が認識しやすいようなアルファベットや数字等の文字データが表示されるのみであったが、コンピュータの性能が向上するのに伴い、図形や画像等が表示できるようになっていった。

アメリカでは IBM により企業向けの多くのコンピュータが開発、販売された。その一方、我が国においては、シャープや東芝、NEC 等がコンピュータの開発、販売に取り組んだ。NEC は企業とともに個人を対象とした PC-9801 を 1982 年に発売した [2]。同機は本体にメモリを内蔵するとともに、フロッピーデスクに

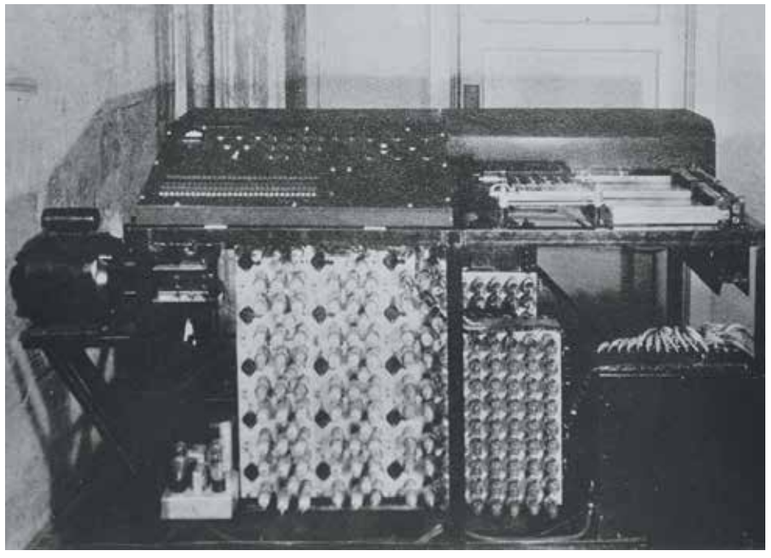


図 1　世界初とされる真空管コンピュータ [3]

図 2　NEC PC9801 発売（1982 年）[4]

よる記憶装置を備えていた。その後、NEC は 9801 シリーズとして多くのコンピュータを製造、販売し、コンピュータ普及の一翼を担った。

初期段階のコンピュータは、様々な言語で動かされていた。その後、汎用性を高めるためにコンピュータを外部から操作するための DOS が開発された。さらに、複数のプログラムを同時に操作するために Windows が開発された。現在、Windows のようにコンピュータ上の DOS とワープロや表計算、描画ソフトを仲介するためのオペレーティングシステム（OS）には、Windows や Apple の OS である macOS ともに、UNIX や Linux 等が存在し、使用用途によりそれらの OS 上で動く様々なソフトウエアが開発されている。

(2)　人工知能 (AI) 開発の経緯

人工知能（AI:Artifiicial Intelligence）とは､コンピュータにおいて、ある情報を入力した際に決められた内容を返すようにプログラムされたシステムを指す。このことから、人工知能の作動においては、多様な内容をプログラムに書き込むことでより精度の高い回答を得ることができるようになる。しかし、このことはプログラムに書かれていないことは、回答できないことや正しいことと誤った情報の判断もできないことを示している。さらに、意図的に誤った内容をプログラミングすれば、人工知能はそのまま回答することになる。これらのことが初期段階の人工知能の限界であった。

人工知能の用語が初めて用いられたのは、1956 年にダートマス大学で開催された「ダートマス会議」において、ジョン・マッカーシーのグループによってである（ChatGPT ビジネス研究会　2023)。初期の人工知能研究は、論理推論や記号処理を中心としたものであった。その後の 1970 年から 80 年代は、医療や化学の分子構造分析等特定の分野で人工知能が用いられた。しかし、コンピュータの性能や推論の方法等に限界があり、1990 年代初頭まではあまり人工知能の研究が進展しない時期が続いた。1990 年代中盤以降には、推論の手順や統計的手法を活用した機械学習が進展し、2010 年代には新たな推論理論の進展により人工知能も進化した。そして 2018 年以降、OpenAI により GPT シリーズ（Generative Pre-trained Transformer）が開発され、現在も開発が続けられている。さらに、2020 年代以降は、AI は医療診断や自動運転、金融分析、製造業等様々な分野で活用されてきている。その一方、ChatGPT の学習は、ネット上のデータに基づいていることから、元データの信憑性や個人情報の扱い等、活用のあり方とともに教育への影響等について様々な意見が出されている。

(3) 生成 AI とは

①　生成 AI 開発の経緯

これまでの人工知能と最近開発された生成ＡＩには大きな違いがある。これまでの人工知能は、問いへの回答や分類、識別を瞬時に行うことができる。さらに、生成 AI は、言葉からなる文章や画像、音声などを自ら生成することができるようになった。生成 AI が生み出されるためには、望ましい回答を導くための「モデル」と、もととなる「データ」、さらに複雑な演算を担うコンピュータの性能の向上が必須となった。

一つ目は望ましい回答を得るための「モデル」の開発である。初期の人工知能は、何らかの作業をさせるためには、人間の手作業によるプログラムでの記述が必要であった。その後コンピュータ自身がデータから規則性や類似性を見いだす機械学習が取り入れるようになった。さらに脳の神経系（ニューラル）を模したニューラルネットワークにより、より複雑な関係づけ

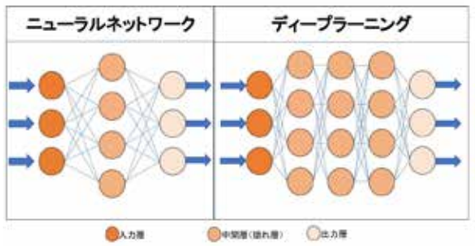


図 3　ディープラーニングの概念図 [5]

が可能となり、人工知能の精度を向上させることができた。その後、ニューラルネットワークを多層化（ディープ）することにより、分析精度を飛躍的に向上させることができた。このような脳を模しさらに多層化した学習モデルは、ディープラーニングと呼ばれている（図２ 参照）[6]。ディープラーニングに基づいた人工知能は、識別や分類の精度を向上させることはできたが、言葉の扱いについてはまだまだ不十分であった。このような状況に風穴を開けたのは、2017 年 6 月に Google の研究者が発表した新たなディープラーニングモデルである Transformer である [7]。この新たな学習モデルである Transformer を用いて OpenAI が大規模言語モデルの GPT ２を開発するのである。

二つ目は学習データである。生成 AI は Web 上に存在するテキストデータや画像、音声、動画等の情報をコンピュータに学習させている。このことから膨大なデータを収集し､同時に生成 AI の頭脳に学習させている。

三つ目として、コンピュータの性能である。半導体製造技術の飛躍的な向上により、コンピュータを作動させるコンピュータの処理速度及び記憶容量が飛躍的に増加してきた。このことから、生成 AI が扱うデータ量が飛躍的に増加するとともに、処理速度も高速化してきている。

さらに生成 AI の適応範囲は、言葉としてのテキストデータから、画像データや音声データに広がってきている。生成 AI とは、人間が入力したテキストや画像、音声データについて、生成 AI が生成した内容を返すことであり、基本的な仕組みは同様である。

生成 AI として、2022 年に公開された ChatGPT は、世界の人々に衝撃を与えた。それは、それまでの人工知能（AI）とは明らかに異なっていたからである。ChatGPT は、Web の HP を自ら検索しながら学習することにより、知識量を増やしていくことができる。さらに ChatGPT は、チャットのように問い合わせの操作画面をインターネット上に公開することにより、誰でも生成 AI が使えるようにした。

② さまざまな生成 AI

現時点において、ChatGPT 等の言葉のやりとりをする生成 AI 以外のものとして、関連する用語を入力することにより生成される画像を返す画像生成 AI、同様に動画や音声を生成する AI 等がある。

○ テキスト生成 AI　ChatGPT、Bing Chat（Copilot）、Gemini　等

テキスト生成 AI としては OpenAI の ChatGPT や Microsoft の Bing Chat、さらに Google による Gemini 等がある。ただし、Bing Chat（Copilot）は、ChatGPT の大規模言語モデルである GPT-4 を用いている。

○ 画像生成 AI　Microsoft Bing Image Creator や Midjouerney　等

画像生成 AI は、テキストデータとして言葉を入力することにより、それらから生成される画像を提示する。これらの生成 AI は ChatGPT と同様に、言葉に関連づけた画像をストックして基本データとし、求めに応じて画像を生成して提供している。

現在は、OpenAI が開発した画像生成 AI の DALL-E を用いて、Microsoft Bing Image Creator として提供している。他に Midjouerney 等がある。

表１　用途に応じた生成 AI

用途	生成 AI 名	有料、無料
テキスト	ChatGPT Bing Chat（Copilot） Gemini	無料、有料あり 無料：要 登録 無料：要 登録
画像	Microsoft Bing Image Creator Midjouerney	無料：要 登録 有料
動画	Runway　Gen-2 Canva	無料プランあり 無料
音声	Text-to-Speech AI Speechify	有料 無料、有料あり

○ 動画生成 AI　Runway や Canva　等

動画生成 AI もテキストや画像と同様、言葉に関連づけられた動画を生成するための AI である。有料ではあるが、Runway Rserch が提供している Runway Gen-2 や Canva Inc.　の Canva 等がある。

○ 音声生成 AI　Text-to-Speech AI や Speechify 等

音声生成 AI とは、音声データの特徴を学習し新たな音声データを生成する AI である。音声生成 AI は、入力者の音声データの声色をまねてテキストを読み上げることができる。Google の Text-to-Speech AI や Speechify Inc. の Speechify 等がある。

③ 我が国における生成 AI の開発

令和６年２月現在、我が国においても、日本語に対応した生成 AI の開発が進んできている [8]。表２に示したように、大学の研究室や NEC や NTT 等の企業、情報通信研究機構等の国の研究機関である。それらの機関は、大規模言語モデル（LLM) を独自で開発し、用途に応じて生成 AI を提供している。

表 2　我が国における主な生成 AI の開発状況

開発主体	プロジェクト名	状況
東京大学 松尾研究室	Weblab-10B	LLM 大規模言語モデル開発
NEC	NEC Generative AI Service	LLM を一部顧客向けに先行評価
NTT など	LITRON? Generative Assistant	供用が開始されている

2　Chat（チャット）GPT とは

本章では、ChatGPT の仕組み及び活用法について検討していく。

(1) ChatGPT の概要

ChatGPT は、アメリカの OpenAI が開発した、テキスト生成 AI である。OpenAI は、人工知能の頭脳としてのチャットボットを 2022 年 11 月に公開した。回答精度の高さや自然な対話が可能なことから、世界中で利用者が増加した。

ChatGPT が回答を生成する頭脳は、インターネット上にある膨大なテキストデータを学習した、大規模言語モデル（LLM）である。テキストとしての様々な用語と関連づけられたテキストのデータ量の多さにより、ユーザーの質問に対して、まるで人間のように自然な表現で文章を生成し回答とする。

○　ChatGPT の主な用途

ChatGPT の主な用途として、質問への回答や文の要約等多様である。質問への回答として、多種多様な質問に対応できるとともに、テキストデータとしての文章を要約したり、小説や詩を創作したりすることができる。さらに他国の言語による文章としてのテキストデータを異なる国の言語に翻訳することもできる。

○　ChatGPT の限界

ChatGPT はネット上に存在する多様なデータを学習することにより、広範囲の質問内容に対して瞬時に回答を生成することができる。その一方 ChatGPT のデータ収集と関連して、留意しなければならないことがある。留意事項の一つ目は、ChatGPT が学習の際に用いるネット上に存在するデータの信憑性である。ネット上には、不正確な情報や意図的な偽情報が存在する。場合によっては、ある組織が意図的に偽情報をネット上にあげることにより、ChatGPT の回答を操作することも想定できる。二つ目はデータ収集の時期である。現在 OpenAI が無料で提供している ChatGPT の頭脳である GPT3.5 は、2022 年時点で情報収集を終えたものである。このことからそれ以降の情報は反映されていないことになる。三つ目は、ChatGPT が収集する言語は、英語が主となっていることである。そのことにより作成されるデータベースは、英語圏が中心となり、日本語等の情報量は少ないことになる。四つ目はプライバシー侵害の恐れがあることである。ChatGPT のデータ収集が、Web に掲載された情報であることから、データの扱いによっては個人情報を侵害する恐れがある。ここでは ChatGPT を使用する際の主な留意点を示した。

(2)　ChatGPT の学習手順

本節では、ChatGPT の頭脳である大規模言語モデルがどのような手順で学習しているのかを確認する。ChatGPT の Web 上の様々なデータに含まれる用語から、どのような手順を経てそれらの用語相互の関係、すなわちテキストを生成するための学習の手順をみていく[9]。

ChatGPT の主な学習手順は、次の８段階である。

第一段階:データの収集として、ウェブ上の文章や書籍、ニュース記事、会話などのテキストデータを収集する。

第二段階：データベース作成のための前処理として、ウエブから収集したテキストデータを確認し、必要な形式に整える。

第三段階：テキストデータを ChatGPT のデータベースに格納するために、単語やサブワードに分割するトークン化を行う。

第四段階：用語と収録した用語の関連づけを行う。用語の関連づけにおいては、深層学習の技術を活用する。各用語に膨大な数のパラメータを設定することにより、関連づけの精度を向上させることが可能となる。

第五段階：単語や関連用言に分割するトークン化されたテキストデータにより、モデル学習を実施する。

第六段階：用語相互が関連づけられたデータベースとしてのモデルを、特定の分野や用途に適応させるために、再度関連づけの確認を行う。

第七段階：用語の関連づけにより作成されたデータベースとしてのモデルの性能の試験を行い、評価する。

第八段階：何度か試験と改訂を行った上で、実用モデルとしてネット上にアップし運用する。

以上の手順を踏んで学習した大規模言語モデルにより ChatGPT が運用されている。

(3)　ChatGPT 使用の手順

ChatGPT を使用するためには、OpenAI の HP にアクセスし、必要事項を登録する必要がある。その際、メールアドレスや氏名、電話番号の登録が求められる。主な手順は図 4 のとおりである。

詳細については、HP 等に掲載されている。

(4) ChatGPT の使用における配慮事項

ChatGPT を使用する際には、次の事項に対して配慮する必要がある。

○　情報漏洩

ChatGPT は、操作者が入力した情報も学習に活用している。このことから個人情報や組織の情報も学習されることになる。このことを防ぐためには、設定変更として、ChatGPT の Training 機能を無効にする必要がある。具体的な方法として、ChatGPT の設定画面の「Data controls」をタップ 「Chat history & training」をオフにする。

① OpenAI の　HP へ　　アクセス
検索エンジンに「ChatGPT] と入力
② OpenAI の　HP から登録を開始
トップページの左上の「Get started] をクリック
③メールアドレスの登録とパスワードの入力
メールアドレスの登録、その後 PW を入力
④認証及び名前の登録
メールアドレスの認証、その後ね前を登録（なんでも OK ）
⑤電話番号の登録、その後コードの入力
携帯番号を登録、その後ショートメールで送られてきたコードを入力

以上で登録が終了し、Chat　GPT　の使用が可能

図 4　Chat GPT 使用の手順

○　データの信憑性

ChatGPT は、Web 上の情報に基づいて回答を生成するためのデータを作成する。このことから、示された回答が必ずしも正しいとは限らない。さらに、データ収集の時期も考慮する必要がある。

○　著作権の侵害

ChatGPT は Web 上のデータを用いるため、HP 作成者の著作権や個人情報を侵害する恐れがある。ChatGPT の回答を活用する場合は、もととなる資料にあたったり、個人のプライバシー侵害にあたらないか等を確認したりする必要がある。これらの配慮事項を踏まえて、ChatGPT を用いるようにする。

3　対話型　テキスト生成 AI の実際

本章では、現在普及しつつある主なテキスト生成 AI について、特徴等を検討する。

(1)　主なテキスト生成 AI

生成 AI は、現時点においても日々開発が行われ、性能を向上させている。同時に生成 AI の頭脳としての大規模言語モデルは、日夜ウエブを巡回することにより、データ量を増やしている。

現在運用されている代表的な生成 AI である ChatGPT や Microsoft の Bing Chat（Copilot）、Google の Gemini 等は、それぞれ次のような特徴がある。

○　ChatGPT は OpenAI によって開発された。現在運用されている ChatGPT の頭脳としての大規模言語モデルは、GPT-3.5 で 2022 年 10 月に公開された。GPT － 3.5 は無料で使用できるが、最新の GPT － 4 を用いるのは有料である。

○　Bing Chat（Copilot）は、Microsoft が提供している生成 AI である。MicroSoft は 1998 年に MSN サーチとして、検索エンジンを立ち上げた。2009 年には、Bing として検索サービスを開始した。さらに 2023 年２月には、OpenAI の GPT-4 を用い、チャット機能による文章の生成、分別機能を有したサービスを開始した。同年 11 月 15 日には、Bing Chat と Bing Chat Enterprise を統合した AI 支援プラットフォームとして、Copilot と改称した[10]。

○　Gemini は、Google が開発した最新生成 AI である。Google は、Bard として、大規模言語モデル Google

PaLM 2 により試験運用を 2023 年 3 月に開始し、同 5 月に日本語にも対応するようになった。同社は同年 12 月に高性能な新 AI として Gemini を発表した [11]。同社は、GPT- 4 よりも高性能としているが、評価は使用者により異なると思われる。

以上がそれぞれの生成 AI の主な特徴である。

(2)　生成 AI による検索結果の違い

生成 AI それぞれに同じ問いをしても、回答は異なる場合がある。このことを踏まえて、生成 AI を活用する必要がある。そこで、次のような問いをそれぞれの生成 AI に行い、回答の違いをみていく。それぞれの生成 AI が生成した回答は、表 3 のようになった。その結果、用いた生成 AI によって回答は異なる。

ChatGPT の無料版へのアクセスにおいては、収集データの期限が 2022 年までである GPT － 3.5 による回答となる。このことから、最近のデータは反映されない。

Microsoft の Bing は、GTP － 4 を用いており、最新のデータが反映される。さらに、必要に応じて参考とした HP のアドレスが表示される。しかし、今回の検索例のように、大臣名のふりがな等に誤りがみられる等、回答の確認が必要となる。

Google の Gemini による回答は、必要最低限の記述で簡潔ではあるが、回答内容は正確である。

以上のように生成 AI を用いる場合は、以上のような特徴を踏まえて使用する必要がある。

4　対話型生成 AI を用いた教育活動

令和 6 年 2 月現在、全国各地で、ChatGPT を活用した授業実践が行われ始めている。小学校や中学校、高等学校、大学と校種により、活用の目的と方法は異なる。

さらに、生成 AI を活用する場合は、教育活動において想定されるよさ及び課題を事前に把握しておく必要がある。

(1)　初等中等教育段階での実践

①　文部科学省による初等中等教育段階に対するガイドラインの公表

表 3　問い「日本の現在の総理大臣は誰ですか。」への回答　令和 6 年 2 月 20 日実施

生成 AI	生成 AI で生成された回答
OpenAI ChatGPT 無料版	2024 年 2 月 20 日現在、私の知識は 2022 年 1 月までですので、その時点での日本の総理大臣は菅義偉（すが よしひで）でした。ただし、その後の情報については確認が必要です。
MicroSoft　Bing （Copilot）	現在の日本の総理大臣は ** 岸田文雄（きしだ ふみお）** 氏です [1 2 3]。また、以下は岸田文雄氏を含む内閣の一部閣僚の名前です : 外務大臣 : 金子恭之（かねこ やすし） 法務大臣 : 古川禎久（ふるかわ よしひさ） 総務大臣 : 林芳正（はやし よしまさ） 財務大臣 : 鈴木俊一（すずき しゅんいち） 内閣府特命担当大臣（金融）: 鈴木俊一（すずき しゅんいち） 内閣府特命担当大臣（原子力損害賠償・廃炉等支援機構）: 齋藤健（さいおんじ けん） 内閣府特命担当大臣（規制改革）: 河野太郎（かわの たろう） 内閣府特命担当大臣（防災、海洋政策）: 松村祥史（まつむら よしふみ） 岸田文雄氏は、第 101 代内閣総理大臣として、日本の政治を指導しています [1 2 3]。
Google Gemini	2023 年 12 月 20 日現在、日本の総理大臣は 岸田文雄 氏です。2021 年 10 月 4 日に就任し、現在第 2 次岸田改造内閣を率いています。

文部科学省は 2023 年 7 月 4 日に、「初等中等教育段階における生成 AI の利用に関する暫定的なガイドライン」[12] を公表した（参照　表 4）。同ガイドラインでは、教育利用の方向性として、基本的な考え方や授業等の教授活動とともに、校務での活用についても示している。さらに、使用での個人情報やプライバシー保護、及びセキュリティ確保の必要性等を留意点として示している。

②　実践におけるよさと課題

生成 AI の教育実践におけるよさと課題を示す。教育実践におけるよさとして、個別指導やフィードバック、コンテンツ等がある。

○　個別指導が可能になる

学習者一人一人の理解度や習熟度に合わせた最適な学習コンテンツを生成させることにより、個別指導が可能となる。

○　即時のフィードバックが可能

学習者の回答や課題の解答を短時間に解析し結果を示すことにより、フィードバックを瞬時に返すことで、適切な学習支援が可能となる。

○　豊富なコンテンツの提供

生成 AI により、さまざまな種類のコンテンツの生成が可能となり、教師の負担を軽減させる可能性がある。

○　コンテンツの質の問題

ChatGPT 等の生成 AI が生成したコンテンツの質は、生成 AI の学習データの質に大きく依存することになる。

○　コミュニケーションの在り方の違い

本来、教授活動は学習者のリアクションを瞬時に判断しながら、対面で実施することが望ましい。授業者や保育者は、幼児や児童・生徒の表情や何気ない仕草を判断して、次の支援を行う。しかし、生成 AI にはこのようなコミュニケーションを踏まえた支援を行うことはできない。

○　学習者の AI 依存の危険性

生成 AI は、あくまでも授業実施における支援のためのツールであり、教師による適切な指導が不可欠である。また、生成 AI に依存した学習ばかりを行うと、学習者が自ら考え、学ぶための習慣や意欲が低下する恐れがある。

○　情報流出、著作権の侵害への注意

表 4　ガイドラインの主な内容 [13]

1. 本ガイドラインの位置づけ
2. 生成 AI の概要
3. 生成 AI の教育利用の方向性
   (1) 基本的な考え方
   (2) 生成 AI 活用の適否に関する暫定的な考え方
   他
4. その他の重要な留意点
   (1) 個人情報やプライバシーに関する情報保護の観点
   (2) 教育情報セキュリティの観点
   他

（参考）

（別添資料）

扱いによっては個人情報の流出や著作権などの権利を侵害する恐れがあり、使用前の生成 AI の設定等が重要になってくる。

③　実践事例

文部科学省は、生成 AI の教育活用のあり方について、全国の小学校や中学校、高等学校等からパイロット校を指定し実践事例の収集に取り組んでいる。

それらの成果が、2024 年 2 月 20 日に東京のベルサール東京 日本橋ホールを主会場として対面と Zoom での遠隔による参加を併用して実施された [14]（図 5）。報告の具体的内容は、今後公表されていくと思われる。

(2)　大学・高等専門学校での活用

①　大学や高等専門学校を対象とした通知

大学での活用について文部科学省は、2023 年 7 月に「大学・高専における生成 AI の教学面の取扱いについて（通知）」[15] を発出した。同通知では、生成 AI に対する基本的な考え方や大学の実態に応じて学生や教職員への指針等の提示の必要性を述べている。さらに生成 AI の利活用の可否や利活用が想定される場面で、留意すべき観点を示している。

表 5　通知の主な内容 [16]

基本的な考え方
（生成 AI に関する動向）
（趣旨／大学・高専における対応）
生成 AI の取扱いの観点
（利活用果皮の検討、利活用が想定される場面例）
（留意すべき観点）

図 5 リーディリング DX スクール プロジェクトの HP [17]

図 6　大学での実践例　東北大学 [18]

② 実践事例

現在、全国の大学においても、生成 AI を教職員や学生がどのように活用していくのかについて模索している。さらに、先の通知に示されているように文部科学省は各大学等に対して、生成 AI の教学面での取扱いの指針や考え方の提示を求めている。図 6 は東北大学での生成 AI の教学面での運用における方針提示の実践例である [19]。大学としての留意事項や対応法等を示している。さらに同大の HP には、全国の大学の取組の状況が紹介されている。

また、九州大学の森本 [20] は、全国の ChatGPT/ 生成 AI への対応を表明した国内の大学一覧を Web 上に公開している（図 7）。多くの大学が生成 AI の扱いの方針を提示し、公表してきているが、現在検討中としてる大学もある。

今後、各大学においても運営方針を踏まえた授業や大学運営等教学面での活用が進められ、成果と課題が集約されていくと考えられる。

おわりに

本稿において、コンピュータ開発の経緯とともに人工知能から生成 AI 開発に至る経過とともに、教育活動における活用のあり方について検討してきた。その中で、人工知能としての AI と生成 AI の違いや、生成 AI としての ChatGPT とその後公開された Microsoft や Google の生成 AI の特徴をみてきた。このことを踏まえてそれらの生成 AI と教育の関わりを検討した。本稿により、生成 AI の概要把握とともに、教育・保育における活用の手順と留意点の一部が確認できるのではないかと考える。

図 7　大学での取り組み状況 [21]

【註】

(1)　アイオア州立大学の HP「ATANASOFF BERRY COMPUTER」https://jva.cs.iastate.edu/operation.php、2024 年 2 月 28 日 閲覧

(2)　NEC の HP「PC-9801」https://jpn.nec.com/profile/corp/history.html、2024 年 2 月 28 日 閲覧

(3)　（1）と同様

(4)　PC 博物館 http://hp.vector.co.jp/authors/VA011804/pc9801.htm、2024 年 2 月 28 日閲覧

(5)　Re:kaizan、「デープラーニングの概念図」https://rekaizen.com/article/detail/desgital-transformation/15910、2024 年 2 月 28 日 閲覧

(6)　AINOW の HP「ディープラーニングとは【初心者必読】- 基礎知識から AI との違い、 導入プロセスまで細かく解説」、https://ainow.ai/2019/08/06/174245/、2024 年 2 月 28 日　閲覧

(7)　梶谷健人の HP「生成 AI は今までの AI と何が違うのか？なぜいま盛り上がっているのか？」、https://note.com/kajiken0630/n/n8a1c33271280、2024 年 2 月 28 日 閲覧

(8)　DEKIRU.AI　の HP「生成 AI を開発・提供する日本企業と団体 11 選　2023 年 8 月 18 日」、https://dekiru.ai/461/、2024 年 2 月 28 日　閲覧

(9)　リードプラス（株）の HP、「ChatGPT の基本的な仕組みとは？モデルや学習方法を解説」、https://www.cloud-contactcenter.jp/blog/what-is-basic-mechanism-of-chatgpt.html、2024 年　2　月 28 日　閲覧

(10)　Microsoft の HP「Copilot」、https://copilot.microsoft.com/ 、2024 年 2 月 28 日　閲覧

(11)　Google の HP「Gemini」、https://gemini.google.com/ 、2024 年 2 月 28 日　閲覧

(12)　文部科学省の HP「初等中等教育段階における生成 AI の利用に関する暫定的なガイドライン」、https://www.mext.go.jp/content/20230710-mxt_shuukyo02-000030823_003.pdf、2024 年 2 月 28 日　閲覧

(13)　(12) と同様

(14)　文部科学省「リーディング DX スクール　生成 AI パイロット校」、https://leading dxschool.mext.go.jp/ai_school、2024 年 2 月 28 日　閲覧

(15)　文部科学省の HP「大学・高専における生成 AI の教学面の取扱いについて（周知）」、 https://www.mext.go.jp/content/20230714-mxt_nmon01-000030762_1.pdf、2024 年　2　月 28 日 閲覧

(16)　(15) と同様

(17)　（14）と同様

(18)　東北大学の HP「ChatGPT 等の生成系 AI 利用に関する留意事項（教員向け）」、 https://olg.cds.tohoku.ac.jp/forstaff/ai-tools、2024 年 2 月 28 日 閲覧

(19)　(18) と同様

(20)　森本銀河の HP（Note）「ChatGPT/ 生成 AI への対応を表明した国内の大学一覧【2024 年 2 月 21 日現在】」、https://note.com/pogohopper8/n/n3126b312f209、2024 年 2 月 28 日 閲覧

(21)　(20) と同様

【参考文献】

日経ビジネス、日経クロステック、日経クロストレンド『ChatGPT エフェクト　破壊と創造のすべて』日経 BP、2023

ChatGPT ビジネス研究会『世界一やさしい ChatGPT 入門』宝島社、2023

鈴木久米男　　SUZUKI, Kumeo

福祉学部　こども学科　教授
博士（学校教育学）

専門：学校マネジメント、教員研修
免許：教員免許（一種、専修）

音楽教育に色音符を導入にする効果に関する一考察

―保育学科学生、高校生、そして園児へのトーンチャイム演奏の実践より―

佐　藤　　敦　子　　短期大学部　保育学科　教授

<はじめに>

本稿では、子どもたちのトーンチャイム演奏時に色音符を活用することにより、さらにベルの演奏にスムーズに取組む事が出来るのではないかと考えた。色音符を保育現場で導入するに当たり、保育者を目指す、大学生、高校生はどのように受け入れるのか。また、実際の保育現場の教員たちはどのように受け止めるのか。保育現場において実際に色音符を取り入れる教育的効果はあるのだろうか。本研究は、保育現場で色音符を用いる事の教育的効果について論じるものである。

Ⅰ. 研究の目的

色音符に関する先行研究については、水嶋１)、児玉千賀子２)、佐藤敦子３）等が挙げられる。しかし、先行研究から色音符を活用する方法は一つではない事が分かった。永野、上沢４)、児玉５）らが使用した色音符は、音符そのものに色を塗る方法で、色音符を活用していた。しかし、本稿で使用するする色音符とは、高橋多喜子が認知症予防のための音楽療法の一環として作った、色音符を用いることにした６）（色音符)。色音符の具体的導入法、活用法、効果の実態を取り入れながら教育現場における色音符導入の意義について考えてみたい。

Ⅱ. 指導の実態について

本学学生への指導の実態について

（１）色音符の導入・使用方法

①本稿で使用する色音符について

使用する色音符の楽譜については、前述したように、音符に色をつけるのではなく、楽譜を別紙のように、模造紙を使用し、音符全てを、指定されている各音符の色で音符の長さを表し、その色に染めるのである（色音符[1) 2)]。そのようにして完成した色音符を用いることとした。色の区別については、高橋多喜子氏の色音符[8)]を参考にして分類した。音符で表すのではなく、小節ごとに小節線を用い区切る。4 分音符を 1 マスと考えて、色で表しメロディに合わせて、1 小節ごとに区切り、五線紙ごと色で塗りつぶす。本稿でご紹介する６曲中５曲は全て Cmajor に移調して、作成した。白鍵だけのベルの方が演奏し易いと考えたからである。色音符の三和音については、歌曲等の楽譜から、機能和声に基づき、筆者が適切な和音を当てはめた。

トーンチャイム

②各音の色と音符について

本稿での和音の使用は、ミッキーマススマーチ以外は、全てハ長調に移調し、主要三和音のみの使用とした。つまりピアノの鍵盤で言うならば、白鍵のみの使用とした。

・C(ド)＝赤　　・D(レ)＝黄色　・E(ミ)＝緑

・F(ファ)＝はだ色　・G(ソ)＝水色

・A(ラ)＝紫　・B(シ)＝白

★ミッキー・マウスマーチについてはＦ＃(ファ＃)＝茶色を使用した。

★また、We wish your merry Cristmas について、２か所のみ、変和音を用いた。

④色音符の作成について

既成の楽譜から筆者がメロディ部分を取り出し全ての曲を Cmajor/ ハ長調にアレンジして、学生たちに音符の色を指導して、市販された模造紙に作成させた。この作業はかなりの時間と手数を要した。

⑤ピアノ伴奏の演奏方法について

・メロディと伴奏はあらかじめ、筆者がピアノで演奏したものを録音しておく

・配慮したこと

筆者は全曲、リンガーたちが和音をスムーズに鳴らすことが出来るように、また拍についても、リンガーたちに分かり易いように、右手はメロディ部分を弾き、左手は既成の楽譜をアレンジして、主要三和音を中心に各曲のメロディに合わせアレンジして弾いた。配慮した点は、和音の動きを細分化すると、リンガーたちのベルの動きが激しくなり負担が多くなると考えて。リンガーたちに和音を明確化させるために伴奏部分の動きが激しくならないように和音や分散にアレンジして演奏した。

（２）色音符の楽譜・演奏方法について

①本稿・本学使用する色音符の楽譜について（別紙参照のこと）

音符の色を別紙のように指定する。

②色音符での音符の表し方について(記入方法について)

・リンガーたちが鳴らし易いようにほとんど 4 分音符を当てはめた。

・小節線が分かるように、明確に書く
・拍子や音符の長さが、明確に分かるように正確に書く。
・色が曖昧にならないように、指定された色に基づいて鮮明に表す

（５）学生が演奏した曲について

＜保育学科２年生＞

本学保育学科学生ついては、１年次・２年次合わせ継続履修者は全曲体験済み、高校生は、今年度は「ゆうやけ小やけ」のみの演奏とした。

①ジングルベル（Cmajor/ ハ長調）
②ふるさと（Cmajor/ ハ長調）
③ミッキーマウス・マーチ（Gmajor/ ト長調）
④きよしこの夜（Cmajor/ ハ長調）
⑤ゆうやけこやけ（Cmajor/ ハ長調）
⑥ We wish your merry cristmas(Cmajor/ ハ長調)

（６）演奏の方法と移調について

①各自のトーンチャイムの選択方法について

色音符で作った楽譜を学生たちに提示して、各自に演奏したい音を色で選んでもらった。白鍵部分のみの使用と考えた。何故なら本学保育学科の学生は、入学当初約９割の学生が初心者で在り、楽譜や音符に慣れていないために、無理　のない範囲を考えた。黒鍵部分を取り入れると学生たちの負担になると考えて、ミッキマウスマーチ以外の曲については白鍵部分の音に限定することにした。ミッキマウスマーチ以外は使用する曲は全てハ長調に移調した。

（６）リンガーたちの演奏方法について

リンガーたちには、模造紙に作成した色音符の楽譜を、ホワイトボードまたはボード等に掲示して、あらかじめ筆者が録音したピアノ伴奏に合わせて、筆者の指示棒に沿って、演奏した。その際に筆者はメロディ部分をうたった。学生・高校生たちには、ピアノ演奏、筆者の指示棒の動きに合わせて色音符の楽譜を目で追って和音を鳴らすように指導した。

（７）ピアノ伴奏について

前述したようにピアノでメロディと主要三和音を中心としたコードで弾いた。また出来るだけリンガーたちが打ち易いように四分音符や八分音符で弾くように心がけた。指示棒は拍に合わせて明確に色音符を指した。

（３）音楽的要素について

①演奏曲の調性について

調性についてはハ長調を中心に取り入れようと考えた。本学保育学科の学生は、入学当初約９割の学生が前述通りに初心者で在り、楽譜や音符に慣れていないために、黒鍵の部分が入るよりも、白鍵部分のベルに限定した方が分かり易いのではないかと考えたからだ。特にトーンチャイムの場合は、ピアノの白鍵部分が銀色で黒鍵部分は黒のトーンチャイムになるので、混同してしまいベル演奏がし難くなるのではないかと考えたからだ。

②使用した音符について

８分音符の使用については「ジングルベル」は７２回、「ふるさと」では１３回、「きよしこの夜」では８回、「ゆうやけこやけ」では４４回、「We wish ～」では２０回で１５７回使用された。８分音符の使用が一番多かった。あまり複雑な細かい音符のメロディの曲は今回なかった。唯一ミッキーマススがスキップのリズムだった。しかし、トーンチャイムは四分音符で１拍づつ鳴らすので、トーンチャイムの動きは四分音符となる。

③同音連続について

ミッキーマウスマーチが最も多く、４５回、ジングルベルは３１回、We wish your merry　cristmas が１１回、ゆうやけこやけが１０回、ふるさとが８回と続く。

④類型反復・反復類型

ミッキマウスマーチが８小節が４回、ジングルベルが３回と続く。あまり多くはみられなかった。

⑤拍子について

４分の３拍子が３曲で、４分の２拍子が２曲、４分の４拍子が１曲だった。しかし、色音符はほとんどが、４分音符を一マスとして書いているために、リンガーたちは拍に対しては、１拍ずつトーンチャイムを鳴らした。

⑥速度について

ジングルベルが♩＝１０４、ふるさとが♩＝８０、ミッキーマウス＝１１４，きよしこの夜♩＝８８、ゆうやけこやけ♩＝８４、We wish your merry cristmas ♩＝１００だった。ミッキーマスの速度が今回の中では一番速く、ジングルベル、We wish your merry cristmas と続く。しかし筆者は速度については、曲の雰囲気、歌詞、学生の演奏可能と思われる速度にして、臨機応変にピアノ演奏した。６曲中３曲が♩＝８０～８８でアンダンテからモデラート、他３曲は、♩＝１００～１１４で、ミッキーマウスマーチは♩＝１１４であるが、ほぼモデラートからアレグレットの速さなので、リンガーたちにとっては、急がずに演奏出来たのではないかと考えている。また前述したように四分音符で鳴らすので、速度に関して急がせられる事はなかったと考えている。

⑦和音について

筆者は全て、ピアノの伴奏部分を主要三和音にアレンジした。Cmajor/ ハ長調の曲は C,F,G　で 7，唯一 Gmajor/ ト長調の、ミッキーマウスマーチは G,C,D の和音を使用とした。複雑な和音まで取り入れると、負担になるとの考え、簡単にコード進行の出来る Cdur の主要三和音、Ⅰ・トニック（主和音）、Ⅳ・サブドミナント（下属和音）、Ⅴ・ドミナント（属和音）のみ取り入れることにした。また、小節内での和音の移動は、学生の負担を少なくしたかったので、極力減らした。

＜ジングルベル＞

a. 和音の使用回数

Ⅰ・トニック(主和音C)＝１７回　Ⅳ･サブドミナント(下属和音）＝１０回　Ⅴ・ドミナント（属和音）＝１４回

ｂ．和音の展開について（３回以上を記述する）

・Ⅳ～Ⅰ＝４回　　・Ⅴ～Ⅰ＝４回
・Ⅰ～Ⅰ＝４回　　・Ⅰ～Ⅴ＝３回

＜ふるさと＞

a. 和音の使用回数

・Ⅰ・トニック（主和音 C）＝３０回
・Ⅳ・サブドミナント（下属和音 F）＝６回
・Ⅴ・ドミナント（属和音 G）＝１３回

ｂ．和音の展開について（３回以上を記述する）

Ⅴ～Ⅰ＝４回　　Ⅰ～Ⅴ＝３回

＜ミッキマウスマーチ＞

a. 和音の使用回数（使用回数４回以上対象）

Ⅰ・トニック（主和音 G）＝３６回
Ⅳ・サブドミナント（下属和音 C）＝４回
Ⅴ・ドミナント（属和音 D）＝１０回

ｂ . 和音の展開について

・Ⅰ～Ⅰ＝25 回　・Ⅰ～Ⅴ＝６回　・Ⅴ～Ⅳ＝５回

＜きよしこの夜＞

ａ . 和音の使用回数

Ⅰ・トニック（主和音 C）＝４０回
Ⅳ・サブドミナント（下属和音 C）＝１２回
Ⅴ・ドミナント（属和音 D）＝１５回

ｂ．和音の展開について（３回以上を記述する）

・Ⅰ～Ⅴ＝４０回　・Ⅴ～Ⅰ＝４回　・Ⅴ～Ⅴ＝４回

＜ゆうやけこやけ＞

ａ . 和音の使用回数

Ⅰ・トニック（主和音 C）＝２２回
Ⅳ・サブドミナント（下属和音 C）＝６回
Ⅴ・ドミナント（属和音 D）＝９回

ｂ．和音の展開について（３回以上を対象とする）

・Ⅰ～Ⅴ＝３回　　・Ⅴ～Ⅰ＝３回
・Ⅰ～Ⅳ＝３回　　・Ⅰ～Ⅰ＝３回

＜ We wish your merry cristmas ＞

ａ．和音の使用回数

Ⅰ・トニック（主和音 C）＝２２回
Ⅳ・サブドミナント（下属和音 C）＝４回
Ⅴ・ドミナント（属和音 D）＝１７回

ｂ．和音の展開について（３回以上を対象とする）

・Ⅴ～Ⅰ＝４回　・Ⅰ～Ⅴ＝３回　・Ⅰ～Ⅰ＝４回

上記のように、全て各調の主要三和音の使用である。また、和音の展開については、Ⅰ～Ⅴが多く２３回、次いでⅤ～Ⅰが１９回で、Ⅰ～Ⅳが１２回、Ⅳ～Ⅰが６回だった。Ⅴ～Ⅳが５回と続く。また、６曲終了の際は全てⅠの和音（トニック）で終了している。

保育者を目指す高校生への指導の実態・「福島東稜高等学校キャリアデザインコース子ども文化系列)」２年生３０名（本学保育学科との高大接続連携授業受講者）

今回、本研究をするに当たり、本学保育者養成校の保育学科１，２年生の他に、保育者を目指す、高校生は、どのように色音符を受け止めるのか、保育者を目指す高校生の実態を把握したいと考えた。本学保育学科と高大接続連携授業を実施している、２年生にも取り入れて見た。先方の学校側、また先生方からはご快諾を頂いている。

（１）色音符の導入・使用方法、（２）色音符の楽譜・

演奏方法については、本学学生への内容と同じである。
（２）高校生が演奏した曲
・「ゆうやけこやけ」の１曲のみの演奏となった。
（３）演奏の方法と移調について（４）リンガーの演奏方法について（５）ピアノ伴奏に
ついての項目も本学学生と同じである。
（４）音楽的要素について
・実際に演奏した「ゆうやけこやけ」のみとする。

保育現場の子どもたちへの指導の実態
保育現場その１：＜学校法人まゆみ学園認定こども園まゆみ＞
・本園にて、楽療法、音楽遊びを定期的に実施している。文科省、厚労省、内閣府にて取り上げられている、気になる子への音楽療法による支援と園児全員への音楽指導の依頼を受けている。二本松では、一番規模の大きい認定こども園で、福島県内でも保育内容が充実している他、独自の支援センター･公認心理師を配置し、福島県内外からの見学者も多い。音楽への継続の指導依頼を受けている。訪問日に当たるは当初、トーンチャイムの演奏は予定していなかったが、訪問当日がクリスマスでもあり、ベルの音色を体験させたいとの考えからトーンチャイム演奏を急遽加えた。本園児たちにとっては初の体験である。
＜指導内容について＞
（１）色音符の導入・使用方法
①色音符の導入･使用方法は学生･高校生と同じである。
②色音符の楽譜・演奏方法については学生・高校生と同じである。
（２）演奏した曲
①ジングルベル　　②ゆうやけこやけ
（３）演奏の方法と移調について、（４）リンガーの演奏方法について、（５）ピアノ伴奏について、（６）音楽的要素については学生・高校生の項目と同じである。
M 園の園児たちはトーンチャイムや、色音符についてのついては初めての体験だった。前述したように急遽トーンチャイムによる色音符演奏を取り入れたため、子どもたちが戸惑わないか、説明が不足していないか、難しいと感じて音楽への意欲を削がないか等の不安と心配があった。園児たちにトーンチャイムの鳴らし方と色音符については簡単に説明した。教員や、子育て支援で参加している親も演奏に加わり、園児たちと一緒に鳴らした。非常に和やかな雰囲気を醸し出していた。園児たちは筆者の指示棒と色音符を食い入るように見ながら真剣に演奏に取り組んでいた。

保育現場その２：＜南相馬私立原町あずま保育園＞
・本園は、２０１１年東日本大震災後、筆者は、原発被災者への支援の一環として震災後に音楽療法、音楽遊びによる支援を行っていた。原発で避難区域から免れ避難しなかった保育園である。
＜指導の実態＞
（１）、（２）、（４）、（５）、（６）、（７）については「学校法人まゆみ学園認定こども園まゆみ」と同じである。
●演奏した曲
①ミッキーマウスマーチ
＜指導内容＞
・対象の園児たちとは始めての出会いであるため、園児たちの様子を伺いながら、音楽指導を展開した。そして５歳児にトーンチャイムを取り入れた。園児だけではなく、保育者にとっても色音符もトーンチャイムもはじめての体験者が多かった。筆者は子どもたちに無理強いさせていないか非常に心配した。また本稿で取り上げた６曲中シャープの唯一入る「ミッキーマウス」とのお話を頂いたが、筆者はト長調の曲なので非常に心配した。しかし、実際に指導に入ると、園児たちは、難なくこなして行った。保育者も真剣に取り組んでいた。筆者はト長調に出て来るシャープの部分、トーンチャイムではＦ＃の黒いベルについて、園児たちに詳しく説明しないまま、進めてしまったが、園児たちは、色音符を見ながら「これでしょ？」と色音符に照らし合わせ、自ら積極的に演奏していた。

保育現場その３＜医療法人昨雲会たんぽぽ保育園＞
医療法人昨雲会飯塚病院、有隣病院、社会福祉法人天心会が隣接しており、たんぽぽ保育園も同組織の１つである。本園にて音楽療法、幼児の音楽教育を視野に入れ、音楽遊びを定期的に指導している。病院２か所、施設が隣接しており、職員は 900 名程度の規模である。病院等に隣接しており地元の信頼は厚い。今回は４，５歳児が対象だった。
＜指導の実態＞
（１）～（７）については他２園と同じである。
＜指導内容について＞
園児たちは４，５歳児全員が取り組んだ。昨雲会の事務長、園長、担任全員が加わり「ミッキマウスマーチ」に取り組んだ。色音符、ベルの鳴らし方等説明を３園の中で最も丁寧にする事が出来た。園児たちは瞬時のうちに演奏方法を理解し数名の園児たちから「楽しい」との声が上がり、園児全員が全員がスムーズに演奏していた。

Ⅳ. 結果
学生および高校生
（１）学生および高校生たちの演奏の実態について
学生も高校生も、筆者の録音したピアノ伴奏と歌、また楽譜を指示棒で指差す動きに合わせて、色音符を見ながら、学生たちは全曲スムーズに演奏した。高校生については、時間の関係からやや説明不足だったと反省しているが、真剣に非常に集中して取り組んでいた。演奏も問題はなくスムーズに演奏していた。
（２）拍子について
・４分の３拍子が３曲、４分の２拍子が２曲、４分の４拍子が１曲でまばらであったが、学生や高校生のリンガーたちは、筆者の録音したピアノ伴奏と歌、指示棒に合わせて、真剣に鳴らしていた。
（３）使用した曲の音符について
・８分音符が多かったが、拍子で述べたように、四分音符の刻みなので、音符はあまり関係なかった
（４）類型反復・反復類型・同音連続について
・類型反復・反復類型、同音連続については本稿ではあまり影響がなかった。
（５）速度について
・ミッキーマウスが♩＝１１４で今回の曲の中では、一番速度が速かったが、他の曲は、ほぼモデラートからアレグレットだったが、筆者が常に学生や高校生、園児との関りの中から常に様子を見ながら、対象者にとって無理のない速度で臨機応変に対応しているので、速度に関しては特に問題はないと感じた。
（６）使用した曲の和音について
・筆者は、全曲主要三和音にアレンジした。リンガーたちの演奏曲は全て、主要三和音の使用だった。リンガーたちは主要三和音に集中して演奏する事が出来た。ミッキーマウスのみ黒鍵（トーンチャイムで述べる黒のトーンチャイム）が入ったが、学生や園児たちは直ぐに対応した。その中でも主和音の使用が圧倒的に多く全曲で１６７回使用されている。次いで属和音の使用の７８回と続く。また、和音の展開については、Ⅰ～Ⅴの移動が一番多く２３回、次いでⅤ～Ⅰが１９回である。Ⅰ～Ⅳが１２回、Ⅳ～Ⅰが６回であり、Ⅴ～Ⅳが５回と続く。また、６曲ともに終了の際は全てⅠの和音（トニック）で終了している。
（７）学生のレポート結果より
●対象者：福島学院大学短期大学部保育学科１年生「特別研究Ⅱ」・２年生「ピアノ演習Ⅱ」履修学生５２名より（レポート提出日欠席学生は除く）
学生達のレポートに記述された結果から、「保育現場で活用したら、子どもたちも演奏し易いのではないか」の項目が１００％だった。「色音符の使用により楽器演奏への負担が軽減したと感じる」「ハンドベルやトーンチャイムに色音符を使用すると、演奏が簡単に感じる事が出来る」は９８％だった。「色音符を使用するとベルの演奏し易い」が９４％、「色音符を用いる事によりのベルや楽器の演奏がし易くなった」「色音符を用いた方が、既成の楽譜より、ゆとりを持って演奏出来るので、よりハーモニーの美しさを感じ取る事が出来るようになった」「ハンドベルやトーンチャイムの色音符を導入する事で演奏が楽しいと感じる」「友人たちとの一体感を感じ取る事が出来た」「保育現場で子どもたちにも、色音符を活用させてみたい」が９２％だった。「以前よりベル演奏への負担が少なくなった」が８８％。「友人や相手の音も聴こうとするゆとりが出来た」「安心して取り組めるので、各自の能力に合った演奏が出来、以前より楽器演奏に安心感が持てる」が８７％だった。「以前より楽器演奏に自信が持てるようになった」が７７％。「積極的に、ベル演奏に取り組みたいと感じるようになった」が７５％だった。
※自由記述欄については本稿では割愛させて頂く。
（８）高校生のレポートの結果より
●対象者：福島東稜高等学校キャリアデザインコー

ス（子ども文化系列）２年生２８名より（レポート提出日欠席生徒除く）

●福島学院大学短期大学部保育学科１年生「特別研究Ⅱ」との高大接続連携授業参加者

高校生からのレポート提出結果より、「色音符を用いた方が、既成の楽譜より、ゆとりを持って演奏出来ると思うし、よりハーモニーの美しさを感じ取る事が出来ると思った」が８６％、「ハンドベルやトーンチャイムに色音符を使用すると、演奏が簡単に感じる事が出来た」「ハンドベルやトーンチャイムに色音符を導入する事で、演奏が楽しいと感じた」「色音符の使用により、楽器演奏の負担が軽減されるのではないかと感じた」「保育現場で子どもたちにも色音符を活用させてみたいと思った」が８２％だった。次いで「友人たちとの一体感を感じ取る事が出来た」「考えていたより、ベル演奏への負担が少なかった」「色音符を使用するとベルが演奏し易い」「保育現場で活用したら、子どもたちも演奏し易いのではないかと考える」が７９％だった。続いて「以前より楽器演奏に自信が持てるようになるのではないかと感じた」「色音符を用いる事により、ベルの楽器の演奏に取り組む意欲が出た」「安心して取り組めるので、各自の能力に合った演奏が出来、以前より楽器演奏に安心感が持てるのではないかと感じた」が６８％だった。そして「回数を重ねると友人や相手の音も聴けるようになると思った」６４％、「積極的に、ベル演奏に取り組みたいと感じるようになった」５７％と続く。

保育現場の実態

学校法人まゆみ学園認定こども園まゆみ、南相馬市立原町あずま保育園、医療法人昨雲会たんぽぽ保育園

（1）園児たちのようす

園児たちは、説明後直ぐに、各自でトーンチャイムに取り組み、スムーズに鳴らしていた。保育者や保護者も同様だった。はじめての取り組みに対して、スムーズに演奏した。３つの園共に、園児たちの音楽へのレベルは高く筆者の予想以上だった。演奏状況や曲の仕上がりに関して、大学生や高校生との大きな違いは筆者には特に感じられなかった。園児たちの音楽能力の可能性を感じた。大学生、高校生、園児たちの音楽への可能性について、筆者の予想を超えた。３つの園からは継続しての音楽療法、音楽遊びの依頼を受けている。

（2）保育者並びに保護者、園児たちの感想

＜学校法人まゆみ学園認定こども園まゆみ＞

（アンケート結果より抜粋）

①子どもたちの様子（担任より回答）

「友人や、ご家族、教員たちと一緒に演奏して楽しそうだった」が１２名、「園児たちは、ハンドベルやトーンチャイムに色音符を導入する事で、演奏が楽しいと感じているようすだった」が１０名、「色音符を用いることによりベルや楽器の演奏がし易かったようだ」「色音符は、保護者や教員たちに、直ぐに演奏すること、取り組むことが出来た」「色音符演奏は、保護者も、教員も楽しく取り組めた」が９名、「園児たちは、ハンドベルやトーンチャイムに色音符を使用すると演奏が簡単に出来るようになった」が８名、「園児たちは、はじめての体験だったが、色音符にすぐに取り組めたようだった」「色音符を用いることにより、ベルや楽器の演奏がし易かったようだ」が５名だった。

②教員・保護者からは「ハンドベルやトーンチャイムに色音符を使用すると、演奏が簡単に出来る」「同僚やご家族、教員たちと一緒に演奏出来て楽しかった」「色音符を用いることによりベルや楽器の演奏がし易かった」が９名、「はじめての体験だったが、色音符に直ぐに取り組めた」「色音符は、保護者や教員たちも、直ぐに演奏すること、取り組むことが出来た」「色音符の演奏は、保護者も、教員も楽しく取り組めた」が８名、「ハンドベルやトーンチャイムに色音符を導入する事で、演奏が楽しいと感じた」「色音符の使用により、園児たちと一緒に直ぐに演奏する事が出来た」「色音符を用いることで抵抗なく安心して取り組めた」「色音符でのベル演奏に積極的に取り組めた」が７名、「積極的に、ベル演奏に散り組みたいと感じるようになった」が６名、「保育現場で活用したら、子どもたちも演奏し易いのではないかと思える」「保育現場で子どもたちに色音符を活用させてみたい」が５名だった。

●この他、園長代理先生がとりまとめてくれた。

①音楽療法、音楽遊びの時間の雰囲気がとても良く園児たちがお互いに近づいたり、寄り添ったり、お話をしながら楽しそうにトーンチャイムの色音符演奏に参加していた。

②指導者が親しみやすい雰囲気を作ってくれた。③色音符は、子どもたちが見てすぐに分かるので集中して演奏していた。

④一生懸命集中して取り組んでいた。

⑤園児たちは１つになった事が心地よかったようだった。指導者が子どもたちの心を開いてくれた。

⑦初めて触れた楽器だったが、音も出し易かった。

⑧指導者の前振り（指揮棒での指示）と歌とかが心地良く、子どもたちは安心して演奏し一体感を感じていた。

＜南相馬市立原町あずま保育園＞

●園長が取りまとめてくれた。

①園児はまだ音符が読めないので、色音譜という方法は分かり易くとても有効だと思いました。　②色音符使用により、はじめてトーンチャイムの取り組む園児たちはもとより、先生方もそのほうが、演奏しやすく、安心して取り組めるのではないか。　③保育現場でトーンチャイムのような楽器は取り組みやすいのではないか。　④子どもたちにとって初めてのものは、身構えてしまうことが多いのですが、色での指示は無理なく、とても楽しい経験となりました。　⑤トーンチャイムでの一体感と言う点で、子どもたちは初めて見る楽器に興味津々で取り組むことができ、みんなで一緒に鳴らすことで一体感も感じ取れるのではないか。年長児であっても、これまでカスタネット、タンバリン、鈴、木琴等でのリズム打ちくらいしか経験がないので、トーンチャイムは鳴らしやすい楽器だと思います。　⑦「講師の親しみやすい雰囲気と、楽器を鳴らすときに「間違っても大丈夫だよ」と声をかけていただいた事が、安心感につながっていたと思います。また担任も一緒に演奏出来たことも楽しさの共有につながったと思います。との報告だった。

＜医療法人昨雲会たんぽぽ保育園＞

教職員８名からのアンケート結果が届いた。項目等について、「色音符を用いることによりベルの演奏がしやすかった」が１名のみ記載なし、「積極的に、ベル演奏に取り組みたいと感じるようになった」の項目が３名記載なしだったが初めての体験により返答出来なかったのではないかと思われる。自由記述欄に「音色の美しさと視覚からの効果、園児たちが一体となった事、園児が自分を発揮出来ている」「色音符は、自分を発揮したり、リラック効果がある」「はじめて触ったがとても綺麗な音色だった」「音階を言葉で伝える事が難しいため、色音符で視覚的に音階を分かる事が出来て良かった」「色音符の色ごとにグループで集まり演奏しているのを見ると子どもたち自ら『自分は赤色だ！』と分かる事が出来て、さらに演奏を楽しんでいるようだった」「トーンチャイムは、子どもたちにとって初めて触った楽器で、音色も綺麗で、楽しく演奏して行きたい」「初めてトーンチャイムの音色を聴いたが、とても心地良かった」とあった。さらに「初めて持ったトーンチャイムで子どもたちが一つになり演奏出来たことに驚いた、中々触れる楽器ではないので子どもたちにとって良い経験だった」「園児たちは楽しそうに、はじめ興味津々で楽器を鳴らしていたが、教授（佐藤の園児へのかかわり方が自然で、園児や保育士との信頼関係が生まれ、これが成功に結び付いたと考える）と述べている。そして「ピアニカにも活用したい」との声があった。

以上の結果から、トーンチャイムにおける色音符の導入については、保育者になろうとしている学生、高校生から、そして保育現場の園児、職員達の結果から音楽教育上効果のあることがわかった。

Ⅴ. 考察

（1）色音符について

トーンチャイム等の楽器演奏において色音符は大学生、高校生、園児共通で、効果がある事が分かった。この事についてであるが、視覚に訴える、色での識別が大きいと感じた。植村は「人が得る情報の８割から９割は視覚に由来する」と述べており、またさらに植村は「「産業教育機器システム便覧において」視覚は感覚入力の８３％を占めている」とも述べている7)。また大串は「演奏音に注意を向けさせた場合には、視覚情報によって判断が大きく影響されている」と述べており、さらに「演奏音に注意を向けた場合でも、視覚

情報の効果はかなり大きい」とも述べている８)。またさらに寺西は「視、聴覚の関係はそれぞれが独自の役割を果たしているが、例えば音源位置についての聴覚判断が視覚によって大きく影響される」と述べている９)。このように、音楽に合わせて、目で色を追って行く色音符の効果が大きかったと考えている。

（２）使用した曲の音符について・拍子

本稿で取り上げた曲は、拍が分かり易い曲であった事。学生、高校生、園児たちは全員、筆者の録音したピアノのメロディ部分（筆者の歌唱付き）と伴奏に合わせ、１拍ずつ四分音符で、筆者の指示棒に合わせてベルを鳴らす。そのために、今回拍子や音符はリンガーたちにとって負担はなかったと考えている。

（３）使用した曲のメロディ・速度について

メロディや速度についてであるが、全曲リンガーたちとの関わりから、対象者たちに無理ない音の動きの選曲・速度で対象者に臨機応変に合わせているので問題はなかった。

（４）使用した曲の伴奏について（移調も含めて）

伴奏は、前述したように、筆者が大学生、高校生、園児に合わせて、演奏し易いように Key をハ長調に移調し、コードを主要三和音に、また伴奏系も単純な動きにアレンジした事が大きな効果を上げたと考えている。キーを全てハ長調に移調したことも、リンガーたちの演奏をスムーズにした一つとも言えよう。色音符白鍵部分の（トーンチャイムは銀色）主要三和音に絞った事、シンプルで単純な和音の動きになった事がリンガーたちにとって演奏を容易にし、安心して取り組めたと考える。また、伴奏部分をメロディに合わせ、１拍ないし八分音符での刻みで、ゆったりと弾いたことが、リンガーたちに安心感を与え、余裕を持って演奏に取り組めたのではないかと考えている。

（５）使用した曲の和音について

・前述したように筆者は１曲以外全てハ長調に転調した。また今回全て各調の主要三和音に集約した。中核のコードを為すと言われているトニック（Ⅰ)、様々なコードに進行できる汎用性があると言われるサブドミナント（Ⅳ)、トニックファンクションを持つ和音に対する強い進行力を持つと言われるドミナント（Ⅴ）の中心とした和音の使用が 13)、学生たちに安心感を与えたのではないかと考えている。主要三和音の響きは明るい響きと言われている。その中でも主和音の使用が圧倒的に多かった。この響きは非常に安定感があり、落ち着いた響きを持つと言われており、また和音進行の中心的な役割を担うと言われている。次いで属和音の使用と続く。また、和音の展開について。Ⅴ～Ⅰが１９回だった。この動きは、最も強い解決感が与えられるとされている。また、６曲終了の際は全てⅠの和音（トニック）であるが、通常の場合、この終止がごく自然である。この響きは、最も強い解決感、安定感、終止感が得られるとされている。これらの和音の特徴的要素を含んだ選曲も今回、学生、高校生、園児たちに安心感、安定感を与えたと考えている。

（６）大学生、高校生のレポート、及び保育現場の先生方の声、園児の実態より

●提出された大学生・高校生のレポートと、報告して頂いた園の報告内容から、項目ごとに分類して見た。

＜意欲を育てる（楽器演奏への負担軽減と楽器演奏への意欲の育成）＞

大学生、高校生のアンケート結果から、トーンチャイムに色音符を用いる事で、学生や高校生は楽器を身近に感じることが出来、慣れない楽譜を苦慮して読むより、色で瞬間的に見分けて直ぐに演奏が出来るので、楽に取り組めるのではないかと考える。色音符の使用は学生や高校生を音楽に接近しやすくする手段だとも思われた。一方保育現場の結果らも同様の事が言える。

＜協調性の育成と集団意識の高まり＞

大学生、高校生のアンケート結果から、色音符を使用する事により、演奏に余裕が出来、次第に友人との協調性に発展すると思われた。また保育現場の子どもたちにも、協調性の育成に寄与している事が分かった。園児たちにとっても集団意識を高めて行く一つの手段ではないかと考える。

＜集中力の育成＞

結果から大学生も高校生も集中力が高まり、そのことにより演奏がスムーズになって行くと考えている。保育現場にいても保育者の声から、子どもたちの集中力育成にもつながっていると考える。

＜自信の回復＞

結果から、大学生、高校生、保育現場の声からトーンチャイムによる色音符の活用は、積極性や自信の回復にも効果を上げていると考える。トーンチャイムに色音符を導入した音楽教育は、人間形成にも発展していることが分かった。

＜保育現場での色音符の活用について＞

大学生、高校生のアンケート結果から、また実際の保育現場の園児たちの実態、保育者たちの声から、色音符による音楽的効果とその具体化が提案されたと考えている。

＜信頼関係の成立・ラポールの形成＞

保育現場の先生からの声の中から筆者に対して筆者は常に、集団の子どもたちに対しては勿論、集団の中の個々のこどもに対しても、常に一人ひとりの動きや心の動きを細かく読み取る事を心がけている。そして常に相手を否定することはせずに、相手の心に寄り添っているつもりである。相手に対して傷つける発言・行動をしないように心がけている。その事が効果を上げる一つに寄与したと考える。今後も今まで以上に相手がどのように考え、何を望み、どのように関われば良いのかを十分配慮しながら音楽を通して関わって行きたい。音楽教育、幼児教育に忘れてならないのが教員と対象者の信頼関係、ラポールの形成だと考えている。相手との信頼関係に大きく関わっていると考えている。

Ⅵ. 結語

以上のように、色音符のもたらす効果について、保育学科学生、保育者を目指す高校生、さらに保育現場の園児たちの実態、保育者の実際の声、意見、要望を取り入れながら述べてきた。今回色音符導入が音楽教育、保育の質向上、幼児の育成に効果を上げた事実が見られた。今回、筆者は色音符についての効果について論じたが、トーンチャイムを楽器として活用したことも大きな要因だったこともつけ加えたい。最後に、本稿を書くに当たり全面協力して下さった、本学保育学科１年生「特別研究Ⅱ」、２年生「ピアノ演習Ⅱ履修学生」の皆様､「福島東稜高等学校キャリアデザインコース（子ども文科系）２年生と関係教職員の皆様、そして「学校法人まゆみ学園認定こども園まゆみ様」「南相馬市立原町あずま保育園様」「医療法人昨雲会たんぽぽ保育園」の園児諸氏、そして教職員の皆様にこの場をお借りして心より厚くお礼申し上げます。

【引用文献】

1）水嶋　育 「保育職を目指す学生によるトーン・チャイムの演奏と課題」高松大学発達科学研究紀要第６９号・２０１７
2）児玉千賀子　平成２９年度　独立行政法人福祉医療気候　社会福祉振興女性事業「音楽による障がい改善の新たな手法の普及事業成果報告書」認定特定非営利活動法人アジェンダやまがた　２０１８　P. 2～9
3) 佐藤敦子 「保育現場におけるトーンチャイムの音楽教育効果に関する一考察」- 気になる子への音楽療法の効果も含めて -　福島学院大学研究紀要 VO Ⅰ. 56 2019　P. 9～P.20
4）永野重史・上沢慧子 「幼児のオルガン学習におよぼす色音符の効果」教育心理学研究　第９巻第２号　1961　P.28 ～ P.36
5）2）児玉千賀子　平成２９年度　独立行政法人福祉医療気候　社会福祉振興女性事業「音楽による障がい改善の新たな手法の普及事業成果報告書」認定特定非営利活動法人アジェンダやまがた　２０１８　P. 2～9
6）高橋多喜子 「認知症予防の音楽療法いきいき魅惑のベル」 高橋多喜子（株）オンキョウパブリッシュ　2011
7) 植村　徹 「五感を活かす近くのデザイン」 NP　from DynamiteBrothersSyndicate　2022・9・15
8）大串健吾「演奏意図における視覚と聴覚の相互作用」 日本音響学会誌６１巻３号　2005　P.284 ～ P.288
9）寺西立年 「九州工科大学における音響心理学の教育」 日本音響学会誌　43 巻 No5,1987　P.890 ～ 893

★紙面上の都合によりなお、音楽的要素の分析各種グラフおよび表、並びにアンケート結果の表については、本稿では割愛させて頂く。問い合わせについては、佐藤敦子（yhy12374@nifty.ne.jp）へお問い合わせくださるようにお願い申し上げます。

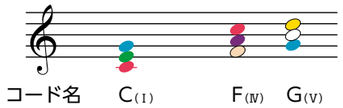
佐藤敦子　　SATO, Atuko

短期大学部　保育学科　教授

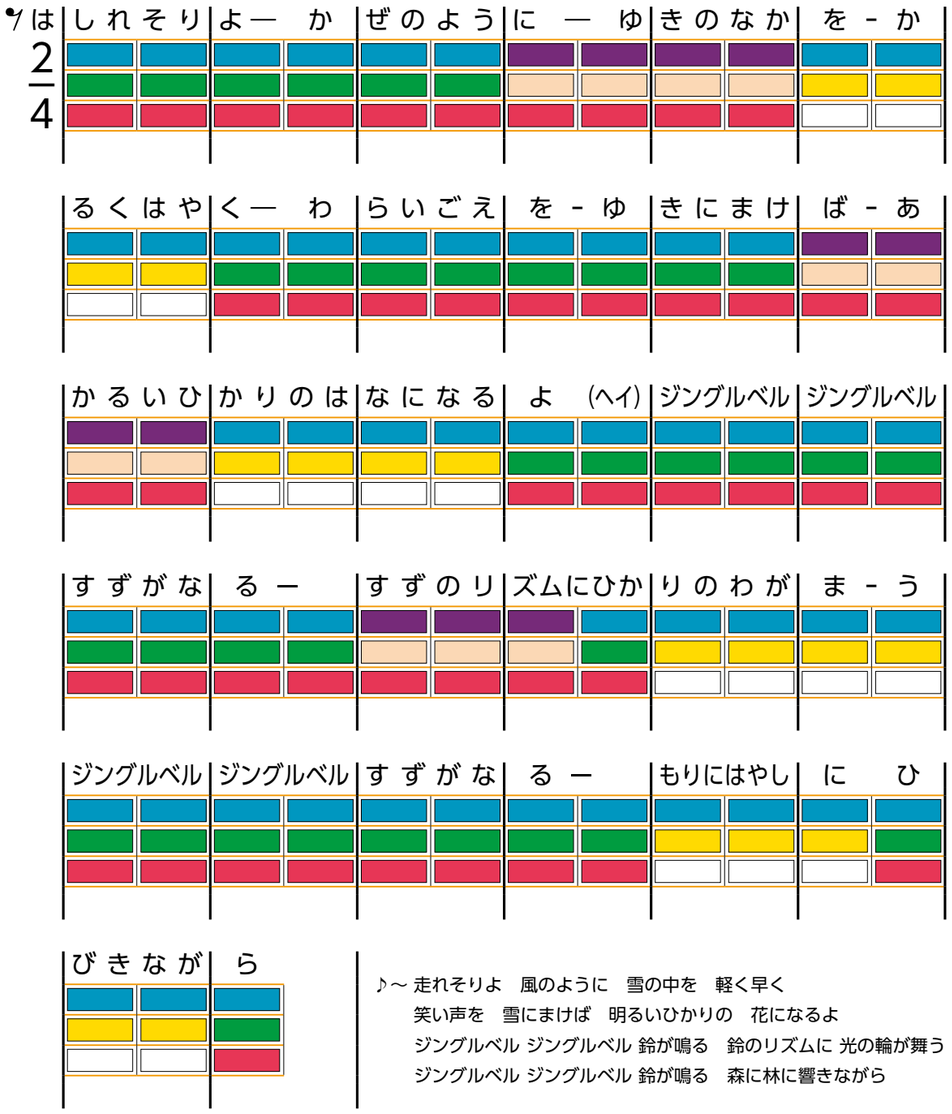
専門：音楽教育学、音楽療法、声楽
資格：日本音楽療法学会認定音楽療法士
免許：幼稚園教諭一種免許、幼稚園教諭専修免許

～本稿で使用する和音の色音符について～

(1) Cmajor
(ハ長調)



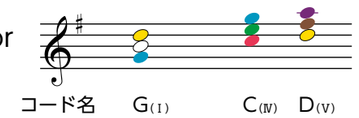
【色音符１】「ジングルベル」



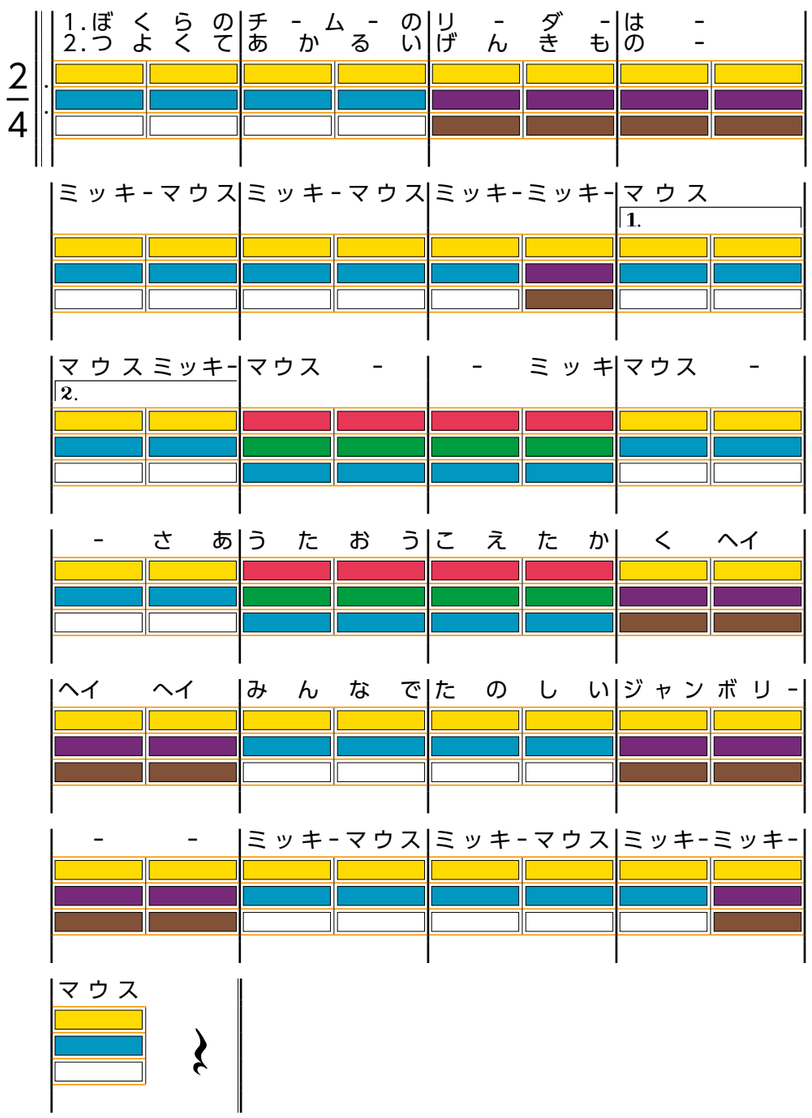
♪～ 走れそりよ　風のように　雪の中を　軽く早く
笑い声を　雪にまけば　明るいひかりの　花になるよ
ジングルベル ジングルベル 鈴が鳴る　鈴のリズムに 光の輪が舞う
ジングルベル ジングルベル 鈴が鳴る　森に林に響きながら

～本稿で使用する和音の色音符について～

(2) Gmajor
(ト長調)



【色音符２】「ミッキーマウス・マーチ」



福島学院大学　教育・保育論集　第 27 号　38-55　2024

シリーズ　福島の文化を知る　その３

「赤べこ」と柳津の虚空蔵さま

梅　宮　れ　い　か　　大学院心理学研究科　教授

1．柳津と赤べこ

JR 会津若松駅から只見線で 1 時間ほど行ったところが会津柳津である。ここは、只見川のほとりに開かれた霊験山圓蔵寺の門前町である。圓蔵寺は日本三所の虚空蔵菩薩の一つに数えられ、およそ千二百年前の大道 2 年（807）に徳一大師により開かれたと伝えられている。その本尊は、丑寅生まれの守り本尊として信仰される満願虚空蔵菩薩で、弘法大師により刻まれたという。会津地方には、十三参りという風趣が有り、数え歳十三歳の子どもが厄をはらうために圓蔵寺を詣る。この風習は、菩薩の縁日十三日が十三参り（十三講）に結びついたと言われる。十三参りは、武家の元服と同じように、幼年期から、成人期への区切りの儀式として民衆儀礼となっていたものと思われる。大正期には、小学六年生に遠足で柳津を訪れ、十三参りをする学校が見られたとのこと。現在でも、圓蔵寺では、小学六年生の祈祷を受け付けている（小学六年生以外は受け付けていない）。

圓蔵寺には、赤べこの伝説があり、柳津を赤べこ発祥の地としている。事の起こりは、建立時の大同 2 年（807）と、慶長 16 年（1611）に会津地方を地震が襲った時の 2 つがある。赤べこ（べこは牛の意味）は、建立の時や、地震からの復興の時に力を発揮したと伝えられる赤毛の牛を模倣して作られた玩具である。

2．会津張子の流れ

張子は、紙製の人形細工の総称である。大まかな制作手順は、稲田年行（1971）によると次のようになる。

> 張子は木型を作り、その木型に和紙を幾枚も重ねばりして、乾燥させ、それを多くは側面より半分に切り込みを入れて中の木型をはずし、二つになった張子を元通りにはり合わせ、その上からまた紙張りし、次に彩色する（後略）
> （稲田年行．郷土玩具 1　紙，読売新聞社，P.115，1971.）

赤べこを代表とする会津の張子は、坂本一也（1972）によると天正 18 年（1590）に、蒲生氏郷が京から職人を招き、下級武士の生活の助となるように技術を教えさせたところから始まる。赤べこが代表的だが、それ以外にも、正月の初市で売られる縁起物の「おきあがり小坊師」や、頭部を会津桐の木粉をのりで固め練物で作った「会津天神」がある。赤べこのように、細工を施して動きや楽しめるものもあり、首振りを楽しめる牛には、岩手県の「金べこ」がある。「赤べこ」と「金べこ」は、昭和 36 年（1961）に、共に丑年の記念切手となっている。

また、三春張り子（福島県）の「虎」、仙台張子（宮

■　柳津の赤べこ
柳津の町中には赤べこの親子が首を振っている。これは父親の福太郎で、最も大きい。只見川をはさんで、後ろには圓蔵寺が見える。

■　圓蔵寺
圓蔵寺は、只見川に面した巨石の上に立てられている。建築の際、只見川を使って運ばれた材木をどのようにして運び上げたのだろうか。

城県）の「俵牛」や「虎」、那珂湊張子（茨城県）の「虎」などがある。

張子は、木型に和紙を何枚か貼り付けて形を作った後、側面か背中に刃を入れ二つに割る。そのため、木型は作るにつれ消耗するので作り直す必要がある。代を重ねることに、デザインも刷新されるわけである。これも張子の特徴であろう。坂本(1972)や牧野玩太郎、稲田年行（1971）の残した写真を見ると、今の赤べこは、角が短く、顔が丸い。顔を丸くしたため、バランスよく首を振らせるため、頭が大きい。胴体は、製作所にもよるが、四角い印象を受けるものから、丸い印象を受けるものまで、さまざまである。また最近では、木型を使わずに、融解した紙の繊維を空気圧で型に吸い付けて形成する方法も編み出され、家内工業であった赤べこ作りが工業化された。

3. 赤べこ伝説

赤べこは、柳津の圓蔵寺の建設や再建に関わる伝説による玩具である。赤べこ、すなわち、赤い毛の牛がモデルである。あかべこさくら会の長谷川早代子（2013）によると次のような話になる。

虚空蔵堂の再建は、それは、それは大変なことです。只見川の上流の村々からは、たくさんの材木が寄進され、筏を組んで只見川を運ばれてきました。

ところが、只見川からの材木の引き揚げと岩の上に材木を運ぶことができません。どうしてもうまくできずにいたそうです。人々がどんなに力を合わせても、昔のことです。機会も何もない時代です。これといった名案もなく、人々は『こまったなぁ、こまったなぁ』と言うばかりでした。と、誰からともなく、『こうなったら、虚空蔵菩薩のお力に頼るしかない』と言い出しました。

いや、不思議や不思議、夜明けにどこからともなく赤毛の牛の群れが現れて材木運びに苦労していた黒毛の牛を助けて、一生懸命働き出したのです。赤毛の牛は体も大きく、力もあったそうです。そして立派な虚空蔵堂を立てることができたそうです。赤毛の牛の群れは、なぜか、虚空蔵堂の完成待たずにいずこへともなくすがたをけしたといわれています。

のちに虚空蔵堂を創るために手伝ってくれた牛に感謝の気持ちとねぎらいを込めて建立されたのが、今も境内に立っている『開運なで牛』です。牛はここの地方では『べこ』と呼ばれる仏の使いの者、また赤色は魔除けの色とも言われています。一生懸命手伝ってくれた赤毛の牛を『赤べこ』と呼び、忍耐力と力強さが伝わり、さらには福を呼ぶ『赤べこ』として多くの人に親しまれるようになりました。

（長谷川早代子．会津やないずの昔話，あかべこさくら会，柳津，pp.60-61，2013）

■　圓蔵寺境内の“なで牛”
圓蔵寺境内にあるなで牛、左が石造りで右が真鍮製である。自分の悪いところと同じ所をさすると痛みや苦しみがとれると信じられ、参拝客はなでている。

虚空蔵菩薩に祈る　→　牛がどこからともなく現れる　→　おどろくべき働きを見せる　→　どこかへと消える。という赤牛のドラマティックな神聖が話の中に盛り込まれている。

また、山本鉱太郎（1977）の記録によると次のように違いがある。

> 伝説によれば、大同二年（807）名僧徳一大師が会津の柳津に虚空蔵を立てた際、逞しい赤牛が一頭黙々と働いていたが、寺院が完成した日に一塊の石と化して、寺院の前で長くみ仏のお供えなることを念願したという。
> （山本鉱太郎、郷土玩具の旅：東日本編、カラーブックス 386、p32、保育社、1977）

働く牛の中にいる赤牛　→　黙々と働く　→　寺院の完成の日に石に姿を変じる。この後、赤べこが護符として境内で売られるようになった、で話が終わる。後者の話は、寡黙に使役に徹する姿勢と、仏に仕えるために自ら石になる積極的信仰のメタモルフォーゼである。

さらに齊籐良輔（1981）によると、また少し違った記述がある。

> 大同二年（807）会津柳津の満腹虚空蔵堂建立の際、一頭の赤牛が現れて用材を運び、堂の落成と同時に石に化して堂前に長く使えたという伝説から生まれた。
> （齊籐良輔．郷土玩具の旅，芸術艸堂 ,p.10，1981）

この話も、牛の出現　→　使役　→　堂の落成と共に石に変身である。

第 1 の話は慶弔 16 年（1611）の話と、第 2，第 3 の話は、大同 2 年（807）の話である。坂本一也（1972）も、満腹虚空蔵の建立の時の伝説と記録している。どれが本当かではなく、①赤毛の牛、②黙々と働く、③消える、または石に姿を変えるというメタモルフォーゼ、を持った話である。第 1 の話は、それが地震の後の再建の時に、虚空蔵菩薩に祈ることで現れるというドラマティックなスタートで、赤べこの神聖を高めている。また、神聖を帯びた赤牛が、役目を終えて、いずことなく消えるのは、存在自体の機能性を感じさせる。第 2、第 3 の話のように、石に変化するのも、新たな機能（祈りの対象となる）への変化（へんげ）である。

■　柳津町の「赤べこ商店街」
圓蔵寺の入り口につながる柳津町の商店街は「赤べこ商店街」と呼ばれる。

赤牛が信仰対象になって、その護符が売られたことは、現在でも赤牛の絵馬があることから容易に察しがつく。赤牛のような寡黙な生き方で、人の役に立つことが、幸せにつながることを示しているのだろう。現在、牛が変化した「石」は圓蔵寺の境内に残ってはいないが、大石のような牛が、うずくまっていてもおかしくない気配が圓蔵寺の境内にはある。その牛の姿を模した石づくりの牛や、真鍮製の牛が参拝者になでられ、人々が望む、痛みのないことや力を得たいところがピカピカと光っており、石に化した牛の神聖を垣間見ることができる。

しかし、なぜ赤牛なのだろうか？　神聖を見るとしたら、白い牛でもよいのではないか。柳津で、赤牛が一般に飼われていたという記録はない。黒牛が kuroushi（苦労牛）の音なのか。黒牛と赤牛が寡黙に使役に従事すると言う図式は、出所が不明である。

4.「赤」と疱瘡神（ほうそう）

赤牛の由来を考えるとき、「赤」という色に着目すると、赤べこの模様とつながる。伝統的な赤べこには、

■　圓蔵寺の赤牛の絵馬
丑寅虚空蔵と呼ばれ、丑年、寅年生まれの信仰を集めている。
牛の絵馬は、伝説にちなんだ赤牛である。

■　圓蔵寺の伽藍からの風景
圓蔵寺は巨石の上に立てられ、伽藍からの風景は只見川を見下ろす。

■　圓蔵寺の参道
圓蔵寺の参道は、石造りの階段が続く。

■　赤べことモダンな赤べこ商品の数々
赤べこは、千両箱を積んだ物や俵を積んだバリエーションがある。最近では、青やパステル色メタリックカラーも出てきた。

■　赤べこの木型
この木型の上に和紙を幾重にも貼り、形を作る。

白の縁取り（金の縁取りのものもある）に黒で円が描かれている。これは疱瘡（天然痘）の痕だという。赤は、疱瘡神が好む色（苦手とするという記録もある）で、赤べこは、子どものおもちゃとして枕元に置くとよいとされる。子どもに代わって赤べこが，疱瘡を引き受ける意味だろうか。疱瘡は、子どもにとってとても恐ろしい伝染病であった時代、疱瘡神の矛先を赤べこに向け、子どもを守ろうとした親の思いが込められているのかもしれない。

赤べこに限らず、「赤もの」と呼ばれる張り子や人形、絵は、疱瘡神への畏怖と、子どもの身代わりや、疱瘡神を追い払うために使われた江戸時代の風習である。赤絵の代表である源為朝の図は、為朝が八丈島から疱瘡神を追い払った際、「為朝の名を記した家には入らない」との約束からの物である。これは「赤色」により疱瘡神を追い払う赤絵の風習の代表的なものである。また、「赤もの」で有名な玩具は、埼玉県の鴻巣市のもので、全身真っ赤な金太郎などがある。鴻巣市の玩具は、張子ではなく「練り物」で、家具づくりの際に出る木くずをのりで固め、木型で形成したものである。佐々木一澄（2018）はこう述べる。

> 赤い色は、子どもの命を奪う天然痘よけのまじないになると信じられ、だるまをはじめ多くの郷土玩具や縁起物に使われてきました。それらは「赤物」と呼ばれ、中でも鴻巣のものは、「赤物といえば鴻巣」といわれるほど代表的なものとなりました。
> （佐々木一澄，てのひらのえんぎもの：日本の郷土玩具，東京、二見書房，p.92，2018.）

現在の赤べこは、置物としての扱われであるが、戦前は、台車に乗せ、引っ張って子どもが遊べるものもあった。子どものすぐそばに赤いものを置き、疱瘡神への畏怖と、不幸にも罹った場合の平癒を祈ったのだろう。赤牛と、疱瘡神への恐れは、「赤」というところでつながろう。江戸時代に赤べこを創っていたのは下級武士であるから、疱瘡神に関する知識を持っていたと十分に考えられる。べこを子どものあそび道具とし、また守りとして創ったのは下級武士の知識であったのではなかろうか。また、石垣絵美（2023）よると、「疱瘡団子」を「子児を守護してくれるサイノカミや虚空蔵菩薩への供物」とすることで疱瘡が軽くすむように祈る行事もある。疱瘡団子は、疱瘡の発疹に見立てた物から、麦まんじゅうの類いまである。柳津の「粟まんじゅう」は、1818 年（文政元年）の柳津大火のあと、「もう二度とこのような災難に「あわ」ないようにとの願いを込めて作られたと伝わるものだが、疱瘡のような大病に「あわ」ないように願ったことは想像に難くない。疱瘡治癒の祝いとして送られる、または疱瘡をよける呪物として作り続けられていたことを連想させる。

疱瘡は、命を奪いかねない伝染病だが、疱瘡神という疫神にされることで、”送られる”存在として民衆に受け入れられていた。中には、禍神としての疱瘡神ではなく。体内の悪いものを外に出す通過儀礼として考える地方もある。いずれにせよ、疱瘡を疫神ではなく、祭りあげる神として遇し、病気が早く癒えるように祈る信仰があったようだ。だが、日本の古来信仰に疱瘡神はなく、民間信仰から石などに「疱瘡神」と刻んで祭る場合が多い。社（やしろ）をともなうことも少なかったようだが、広島県には疱瘡神社がある。これは、常盤御前の娘が疱瘡でなくなったところにちなんだ神社である。

5. 赤べこのこれから

現在、赤べこを作る工房は、少なくなった。張子作りは、手作業で数がこなせず、商業ベースに乗りにくかったこともある。現在でも手作業で作り続けているところもあるが、工業化された機械作りの工房が市場のかなりを占めて販売を伸ばしている。また、赤物であった赤べこに別の色を持ち込み、模様もモダンな独創的図柄で、かわいらしい飾り物となっている「あかべこ」もある。赤べこ発祥の地である柳津には、長らく赤べこを作る工房がなかったそうだが、近年、柳津にも工房ができたとのこと。昨今の赤べこは、昔のそれに比べ、胴体が丸く、角も短いものが主流になっている。頭も大きくなった。時代の変遷はデザインの変

■　戦前の赤べこを載せた手引き車（想像）
戦前は、赤べこを載せた手引き車が作られていたようで、この絵は、その想像図である。子どもがひいて歩くと、首をゆらゆら揺らして、草を食みながら歩く様であろう。

■　地蔵の顔に団子を貼り付け飢餓者と疱瘡神を祭る
北会津町の地蔵に見られる、餓鬼（飢餓者）への施しと疱瘡神信仰の融合。子どもが生まれると、赤い腹巻きを奉納し、食べるのに困らないよう祈っていたが、後に疱瘡に罹らないよう，または罹っても軽くすむよう地蔵の顔に団子を貼り付け，瘡蓋跡を模倣した。
筆者撮影：2018.8.15

化である。それは、当然のことと言えよう。ゆらゆらと頭を揺らしながら、草を食んでいるのだろうか・・。このゆったりとした動きが、今も昔も変わらない味のある赤べこである。手作りのものは，その一個一個の違いが味があってよい。一方、工場で生産される赤べこも、現代のデザインが絵つけ師によって「あかべこ」に反映されていてよい。首を振らせると、赤べこも、「あかべこ」も、ユーモラスな表情が共通する。会津の観光化やインバウンドでの評価の効果があり、疱瘡よけの玩具であった赤べこが、会津の伝統を背負う玩具となっている。ゆるキャラ（赤べこ自体がゆるキャラだろうが）の「あかべえ」というぬいぐるみまで作られ、会津の観光に一役かっている。しかし本来は、親の子どもへの疱瘡よけという祈りの一つである。疱瘡よけであるから、神性をともなうものであってほしいとの思いで、柳津圓蔵寺の赤毛牛の伝説につながったのかも知れない。いずれにせよ、赤べこは何を考えているか、首をゆらりゆらりさせながら、私たちの心を穏やかに、愉快にさせてくれる。

【引用文献】
1）会津柳津観光協会．会津柳津福満虚空蔵菩薩十三講詣り．https://13ko.aizu-yanaizu.com/wp-content/uploads/sites/4/2020/11/13kou_URA.pdf　2024/2/16　確認
2）あかべこさくら会　代表　長谷川早代子．（2013）．会津やないづの昔話，会津柳津町，バンナイ．
3）石垣絵美．（2023）．疱瘡習俗の研究．國學院大學大学院文学研究科文学専攻伝承文学コース博士学位申請論文．file:///C:/Users/reika/Downloads/CV_20240224_bunkou_238-1.pdf　2024/2/16　確認
4）斎藤道子・砂野加代子．（2022）．47 都道府県の郷土玩具：①北海道地方・東北地方，東京，大月書店．
5）斎藤良輔．（1981），郷土玩具の旅，東京，芸術艸堂．
6）坂本一也．（1972）．日本の郷土玩具（東日本編）．東京．毎日新聞社．
7）佐々木一澄．（2018）てのひらのえんぎもの：日本の郷土玩具，東京，二見書房．

■　クラシックな赤べこ（左）とモダンな模様の赤べこ（右）
クラシックな赤べこも、モダンな赤べこも、味があっていい。どちらかに価値付けが為されるべきでなく、ともに会津の歴史的玩具として残っていくべきだ。

■　赤べこから作られたマスコット「あかべえ」

8）中村浩訳．（2020）．疫病退散！入手先・由来・御利益のすべてがわかる全国厄除け郷土玩具，東京，誠文堂新光社．
9）ひろしま公式観光サイト，疱瘡神社，https://dive-hiroshima.com/explore/3438/　2024/02/19　確認
10）牧野玩太郎・稲田年行．（1971）郷土玩具 1：紙．東京，読売新聞社．
11) 山本鉱太郎，（1977）．郷土玩具の旅：東日本編，カラーブックス　386．大阪市，保育社．

梅宮れいか　　UMENOMIYA, Reika
福島学院大学　理事
福祉学部福祉心理学科・大学院　教授

表紙から

「ダイブ」
サイズ：F4
樹脂粘土で立体を制作・アクリル絵具により色彩

古　畑　雅　規　Masanori Furuhata

福祉学部こども学科　教授

ふと駅に張ってある観光名所のポスターに目が留まりました。

バンジージャンプの飛び込む瞬間の光景で思わずぞっとしましたが、こんな経験をいつか一度はしてみたいと言いますか、こんな想像を絶する世界に飛び込めば、今後の作品制作に大きく影響するだろうなと考えました。

しかし、かなり酷い高所恐怖症の僕には到底無理ですが。

教育・保育論集

第 27 号

令和 6 年 3 月 30 日　発行

発行者　福島学院大学
福祉学部　こども学科
短期大学部　保育学科
〒 960-0181　福島県福島市宮代乳児池 1 － 1
電話 024-553-3221

編　集　梅宮れいか
表紙画　古畑雅規
編集協力　図書館情報センター

福　島　学　院　大　学
福島学院大学短期大学部